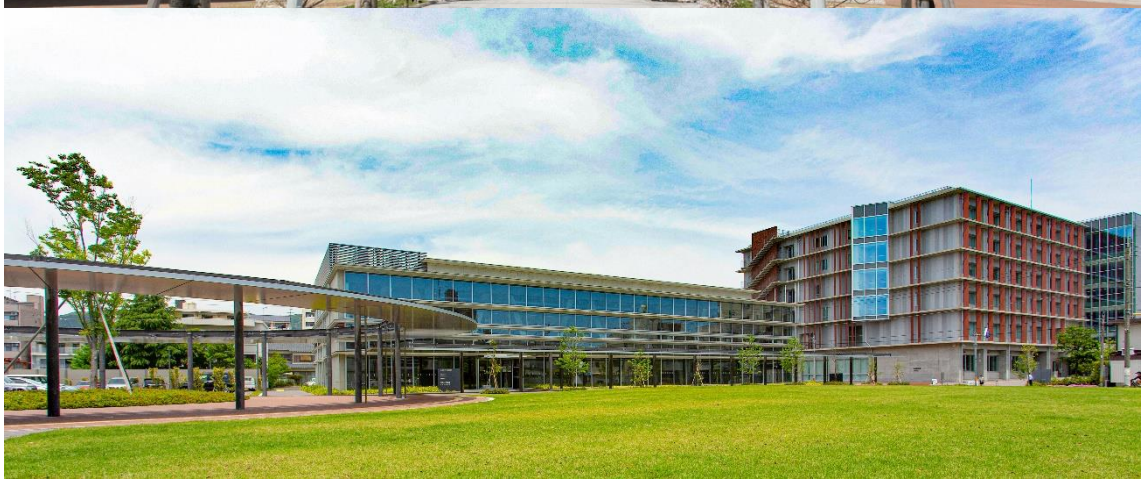
令和7年度
高知県立大学　年報





University of Kochi

目　　次

I　理念・使命・方針
1　高知県立大学の理念 …… 1
2　使命 …… 1
3　基本方針 …… 1

II　沿　革
1　概要 …… 3
2　沿革図 …… 3
3　主要年表 …… 4
4　名称及び所在地 …… 7

III　組織及び教職員
1　組織 …… 8
2　教員（令和７年度） …… １２

IV　教育及び研究
1　学部・大学院の概要（３つの方針） …… ２５
2　受講者の状況 …… ５１
3　科目等履修生・特別聴講学生の状況 …… ６４
4　教員免許状取得状況・国家資格等合格状況 …… ６５
5　学位等及び大学賞・学長賞等の授与状況 …… ６７
6　ＳＤ・ＦＤ活動実施状況 …… ７２

V　学　生
1　行事実績 …… ７５
2　入学の状況 …… ７７
3　学生数（令和７年５月１日現在） …… ８０
4　休学・退学・修業年限を超えて在籍する学生数及び単位互換の状況 …… ８１
5　課外活動 …… ８３
6　授業料等の納入状況 …… ８４
7　日本学生支援機構奨学金受給状況（令和８年３月１日現在） …… ８５
8　卒業（修了）者状況 …… ８６

VI　図書館運営本部
1　概要 …… ８８
2　組織・所掌事項 …… ８８
3　図書等受入状況 …… ８９
4　附属図書館利用状況 …… ９０

VII　地域共生学研究機構 …… ９１

VIII 総合情報研究センター
1　目的 …… ９２
2　所掌事項 …… ９２
3　運営委員会 …… ９２
4　学内ＬＡＮ状況 …… ９２
5　公開講座…… ９２

IX　地域教育研究センター …… ９３

X　健康長寿研究センター …… １０３

XI　国際交流センター
1　正規学生（留学生）数の推移 …… １０５
2　協定校数の推移 …… １０５
3　協定校一覧 …… １０５
4　協定大学への派遣実績 …… １０５
5　協定大学からの受入実績 …… １０６
6　外国人学生に対するプログラム …… １０６
7　海外機関との共同研究・教育事業支援 …… １０６
8　外国人留学生を対象とした交流活動 …… １０６

XII 健康管理センター …… １０７

XIII 開かれた大学
1　公開講座等実施状況 …… １１２
2　学会役員等の状況 …… １１５
3　学外提供用刊行物作成状況 …… １３４

XIV 財　　務
1　はじめに …… １３６
2　貸借対照表 …… １３６
3　損益計算書 …… １３８
4　外部資金導入の状況 …… １４０

XV キャンパス
1　土　　地 …… １４８
2　建　　物 …… １４８

Ⅰ　理念・使命・方針

1　高知県立大学の理念

本学は、平和な社会の発展及び人々の生活の質向上に向け、知の創造に寄与する学術研究を行うとともに、地域志向の教育研究を通じ、地域の文化の発展と健康・福祉の向上に貢献することを理念とします。

2　使命

これまで本学は、学生の主体的な学びと他者を尊重する姿勢を育み、地域に開かれた知の拠点として、地域社会の課題解決に貢献する教育研究活動を展開してきました。この歴史を継承し、人口構造の変化、科学技術の発展、グローバル化の進展など、急激な変化の中で社会の要請に常に応えつつ、未来を拓く実践力を育成する大学、知識基盤社会を支えていく新たな知を創出する大学、地域と共に育ち地域に育てられる大学を目指します。

「多様性の尊重」、「連携の強化」、「戦略的な挑戦」を大学運営の基盤とし、恒常的な評価活動を行いながら、教育改革の推進、学術研究の質向上、社会連携活動の強化に取り組みます。

3　基本方針

1．学生受入れの方針を定め、多様な学生を受入れ、豊かな人間性と倫理観を育む教育を行います。
2．本学の伝統を紡ぎつつ、学生中心の教育、自己実現を支える教育を通して、未来社会を生き抜くことができる人材を育成します。
3．最新の学術の動向を踏まえて、学術力・研究力を高め、産学官民との連携を推進し、専門性を追求する研究や実践的研究に挑戦的に取り組み、創出した知を社会に還元します。
4．地域志向の教育研究活動を展開し、地域の人々と協働して、グローバル社会、持続可能な社会、多様で豊かな社会、安全・安心な社会づくりに取り組みます。
5．社会の変化や県民のニーズを踏まえ、社会との接続を常に意識し、社会の期待に応える大学として機能を果たします。
6．学部・大学院・センターの力の結集や教職協働の推進に戦略的に取り組み、知識基盤社会を支える知の拠点としての役割を果たします。

教育の方針

1．幅広い教養と専門的な知識を活用して課題をグローバルで複眼的な観点から分析し探究できる人材を育成します。
2．地域の文化の発展と健康・福祉の向上に向けて活躍できる人材を育成します。
3．地域志向の教育を通して、地域社会や現場の課題を人々と協働して解決できる人材を育成します。
4．大学院においては、専門性に基づいて変革をもたらす実践的な知のプロフェッショナル（高度専門職業人・研究者・教育者）を育成します。

学生支援の方針

1．一人ひとりの学生が自らの専門性を高め、その人らしく自己実現ができるよう、多様な学生のニーズに応える教育支援を行います。
2．学生との対話を重視し、学生が主体的に学ぶことができるよう、教職協働で教育環境を整えます。

3. 心身ともに健康で安心して学業に専念し、豊かな人間性を育むことができるよう、学生生活への支援を行います。

学術研究の方針

1. 専門領域の発展・知の創造に向けて、関連機関と協働して、教員の多様な研究志向を尊重しつつ、専門的研究、学際的研究及び国際的研究を推進し、その成果を社会に発信します。
2. 地域の文化の発展、健康・福祉に関わる課題の解決に向けた実践・地域志向の研究を戦略的に推進し、地域社会の研究拠点としての役割を果たします。

社会連携の方針

1. 知の拠点として、地域の文化の発展と健康・福祉の向上に向けて、県民の学び直しや専門職者のキャリア向上に取り組みます。
2. 域学共生の理念のもと、地域との協働体制を強化し、課題解決や活性化に地域のみなさまと共に取り組みます。
3. 地域や産学官民との連携を図り、南海トラフ地震などの災害への対応や健康長寿県の実現に向けた健康福祉に関する活動を積極的に行います。

国際交流・連携の方針

1. 海外の提携大学を拡大し、国際交流の活性化、教育・研究の国際化を推進します。
2. 地域社会に根ざした国際交流・国際連携を推進し、地域社会と世界をつなぎ、外国人材の受入れや共生社会づくりを支援する拠点としての役割を果たします。

II　沿革

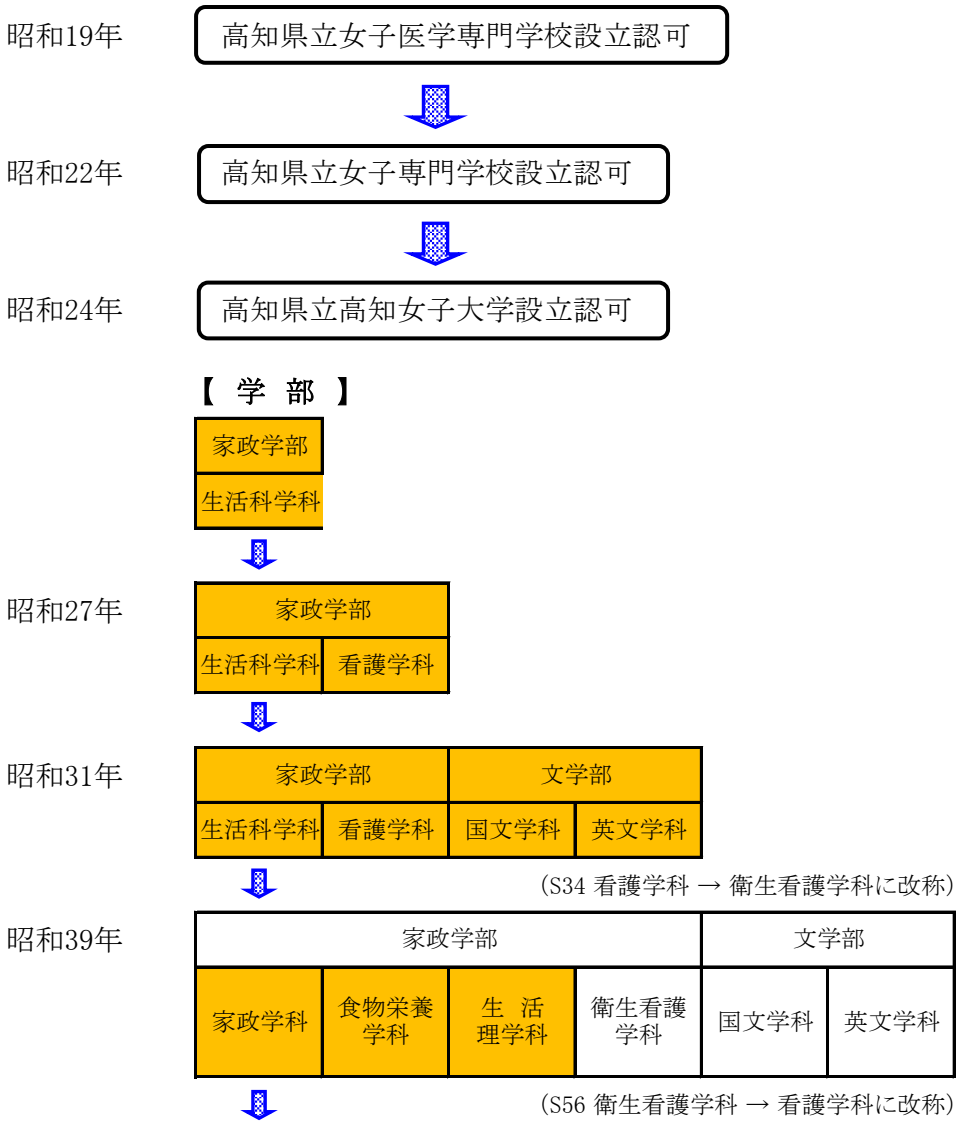
1　概要

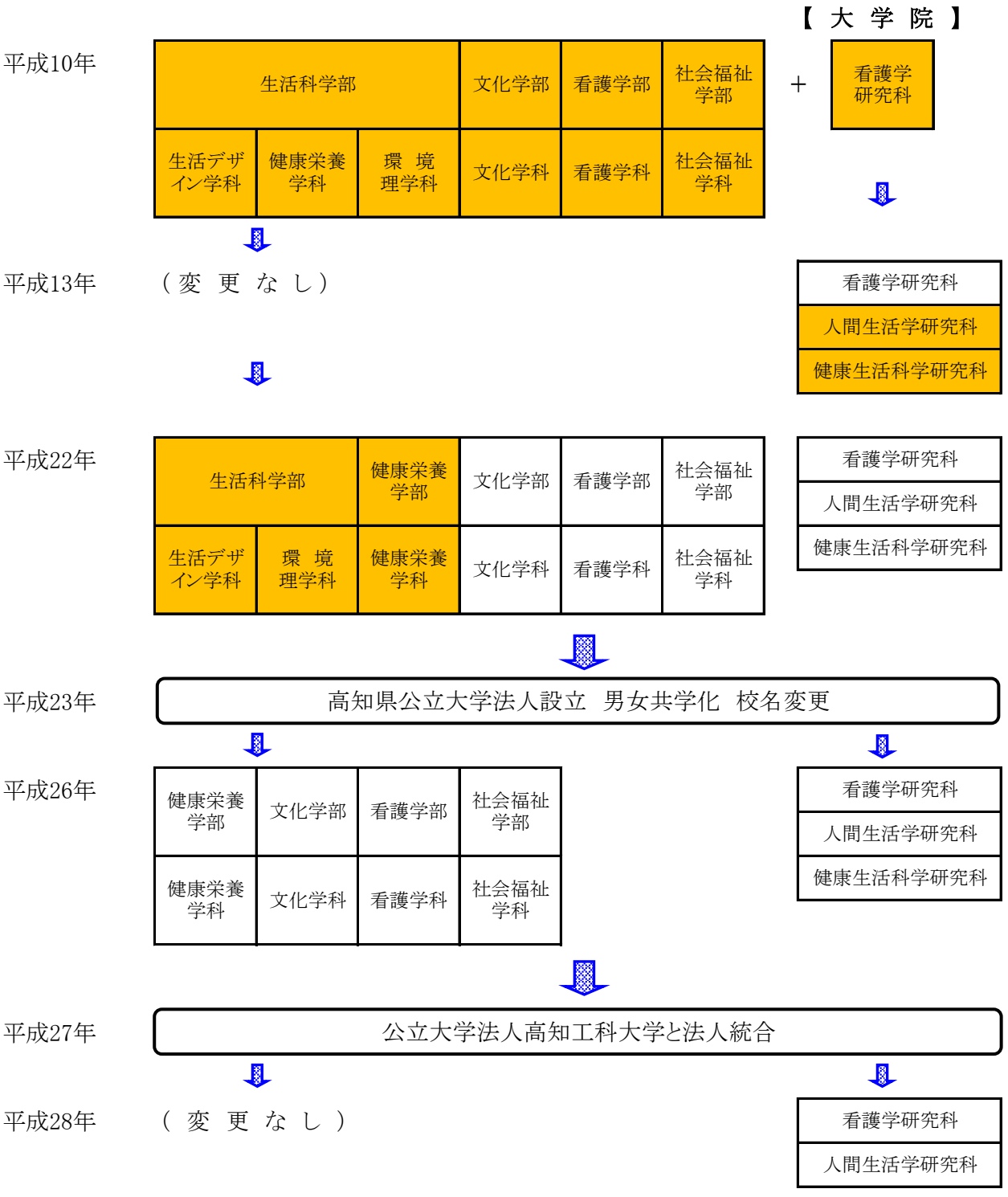
高知県立大学は、高知県立女子専門学校（昭和22年設立認可）を母体とする、家政学部生活科学科の単科大学である高知女子大学（昭和24年設立認可）を前身とする。その後、昭和31年に文学部を新設して2学部体制となった。

平成10年4月には、21世紀を展望し、教育文化の拠点として地域とともに発展する大学を目指して大規模な改組を行い、生活科学部・文化学部・看護学部・社会福祉学部の4学部6学科体制となるとともに、大学院看護学研究科を新設した。平成22年には、生活科学部食物栄養学科が健康栄養学部健康栄養学科へと学部に昇格した。平成26年4月には生活科学部を廃止し、平成28年3月には健康生活科学研究科を廃止し、看護学研究科及び人間生活学研究科をそれぞれ博士前期課程と博士後期課程からなる体制へと変更を行った。

平成23年には公立大学法人化を行い、男女共学化とともに、高知女子大学から高知県公立大学法人高知県立大学へと校名変更を行った。平成27年には公立大学法人高知工科大学と法人統合を行った。

2　沿革図





3 主要年表

昭和19年12月29日	高知県立女子医学専門学校設立認可
昭和20年 8月 8日	高知県立女子医学専門学校開学式及び入学式(同年1月8日学則発表)
昭和22年 3月31日	高知県立女子専門学校(生活科・生物科・英文科)設立認可 (県議会で2月25日女子医学専門学校廃止、女子専門学校設置の決議)
昭和24年 2月21日	昭和22年創立の県立女子専門学校を母体とし、県立高知女子大学 (家政学部生活科学科)設立認可
昭和24年 4月 1日	初代学長岡本重雄就任
昭和25年 4月 1日	家政学部生活科学科を栄養士養成施設として指定

昭和26年 3月31日	教職課程を設置、中学校・高等学校教諭（家庭）免許状授与資格を取得させるための課程として認定
昭和27年 2月20日	家政学部に看護学科増設認可
昭和27年 3月18日	学長岡本重雄退職、教授福田俊治学長事務取扱に就任
昭和27年 9月22日	看護婦学校として指定
昭和27年10月 1日	第二代学長志波清時就任
昭和29年 3月21日	学長病気のため教授中村慶三郎学長代理に就任
昭和29年 4月 1日	正規の課程及び聴講生の課程を中学校・高等学校教諭（理科、保健、家庭、英語）・養護教諭の免許状授与の資格を取得させるための課程として認定
昭和30年 3月29日	保健婦学校として指定
昭和30年 9月10日	第三代学長中村慶三郎就任
昭和31年 3月 1日	文学部（国文学科、英文学科）増設認可
昭和32年 4月 1日	正規の課程を中学校・高等学校教諭（国語）免許状授与の資格を取得させるための課程として認定
昭和34年 4月 1日	家政学部看護学科を衛生看護学科に改称
昭和34年12月 1日	第四代学長紫藤貞一郎就任
昭和38年 8月 3日	学長紫藤貞一郎退職、教授田中亮学長事務取扱に就任
昭和39年 4月 1日	家政学部生活科学科を家政学科・食物栄養学科・生活理学科に改称
昭和39年 4月10日	第五代学長徳田弥就任
昭和41年 3月31日	附属図書館新館落成
昭和42年12月10日	家政学部実験棟新館落成
昭和43年 4月10日	第六代学長藤本薫喜就任
昭和43年10月15日	管理棟及び講義棟新館落成
昭和44年 9月10日	講堂兼体育館落成
昭和45年 4月 2日	第七代学長安中正哉就任
昭和46年 3月31日	学生寮落成 集団給食実習室落成
昭和46年 4月 1日	正規の課程及び聴講生の課程を高等学校教諭（看護）免許状授与の資格を取得させるための課程として認定
昭和47年 3月31日	作法室落成
昭和48年11月 7日	運動場完成
昭和50年 1月10日	高知女子大学保育短期大学部認可
昭和50年 4月 1日	高知女子大学保育短期大学部開学
昭和55年 4月 2日	第八代学長岡崎正一就任
昭和55年10月 7日	南学舎改築学生会館新築落成
昭和56年 4月 1日	家政学部衛生看護学科を看護学科に改称
昭和59年 4月 2日	第九代学長木原正雄就任
昭和62年11月15日	情報処理施設設置
昭和63年 6月28日	附属図書館増改築落成
平成 2年 3月26日	聴講生の課程を中学校・高等学校教諭（国語）免許状授与資格を取得させるための課程として認定
平成 2年 3月27日	弓道場落成
平成 2年 4月 2日	第十代学長池川順子就任

平成 8年 4月 2日	第十一代学長成田十次郎就任
平成10年 3月31日	池校舎落成
平成10年 4月 1日	改組
	生活科学部(生活デザイン学科・健康栄養学科・環境理学科)
	文化学部(文化学科)
	看護学部(看護学科)
	社会福祉学部(社会福祉学科)
	大学院看護学研究科
	教員の免許状授与の所要資格を取得させるための大学学部等の課程として認定
平成10年 4月 1日	高知女子大学保育短期大学部廃止
平成12年 4月 1日	教育職員免許法改正による教員の免許状授与の所要資格を取得させるための大学学部等の課程として認定
平成12年 8月29日	社会福祉士国家試験に係る指定科目の読替について認定
平成13年 4月 1日	大学院研究科の増設
	人間生活学研究科(修士課程)
	健康生活科学研究科(博士課程後期)
	二級建築士試験及び木造建築士試験の受験資格として認定
平成14年 9月 5日	精神保健福祉士国家試験に係る指定科目の読替について認定
平成14年10月15日	学長成田十次郎退任、副学長吉野公喜学長事務代理に就任
平成15年 1月22日	第十二代学長吉野公喜就任
平成15年 4月 1日	第十三代学長青山英康就任
	生活科学部健康栄養学科を管理栄養士養成施設として認定
平成16年 4月 1日	高等学校教諭(福祉)免許状授与の所要資格を取得させるための大学学部等の課程として認定
平成17年 4月 1日	栄養教諭免許状授与資格を取得させるための大学学部等の課程として認定
平成19年 4月 1日	第十四代学長山根洋右就任
	看護学部看護学科を助産師学校として指定
平成21年11月30日	看護福祉棟新築落成
平成22年 2月28日	本部・健康栄養学部棟新築落成
平成22年 4月 1日	健康栄養学部健康栄養学科の設置(届出)
	本学本部機能を池校舎に移転
	社会福祉学部社会福祉学科に介護福祉士養成課程を新設し、介護福祉士養成施設として認定
	健康栄養学部健康栄養学科を栄養士養成施設として認定
	健康栄養学部健康栄養学科を管理栄養士養成施設として認定
平成22年10月31日	共用棟増改築落成
平成23年 4月 1日	大学の設置者を高知県公立大学法人に変更(許可)
	男女共学化により大学名称を高知県立大学に変更(届出)
	初代学長南裕子就任
平成24年 4月 1日	学芸員資格取得教育課程の廃止
	地域教育研究センターの設置
平成25年 4月 1日	中学校・高等学校教諭(英語)専修免許状及び栄養教諭専修免許状授与資格を取得させるための課程として認定

平成26年 4月 1日	大学院課程の増設
	・看護学研究科看護学専攻（博士後期課程）
	・人間生活学研究科人間生活学専攻（博士後期課程）
	・看護学研究科共同災害看護学専攻（博士課程）
	生活科学部の廃止
平成27年 4月 1日	公立大学法人高知工科大学と法人統合
	永国寺キャンパス教育研究棟落成
	文化学部を拡充（夜間主の設置）
平成28年 3月31日	健康生活科学研究科健康生活科学専攻（博士後期課程）を廃止
平成29年 3月	永国寺キャンパス体育館・食堂、図書館落成
平成29年 3月17日	さくら寮落成
平成29年 4月 1日	第二代学長野嶋佐由美就任
平成30年 3月23日	永国寺キャンパス整備完了（永国寺キャンパス西側敷地に地域交流広場とモニュメント、学生会館の改修完了）。お披露目式を開催
	モニュメント「詩の翼」は同窓会しらさぎ会からの寄贈
令和 4年 3月 7日	あふち寮落成
令和 5年 4月 1日	第三代学長甲田茂樹就任
令和 6年 4月 1日	地域共生学研究機構設置

4 名称及び所在地

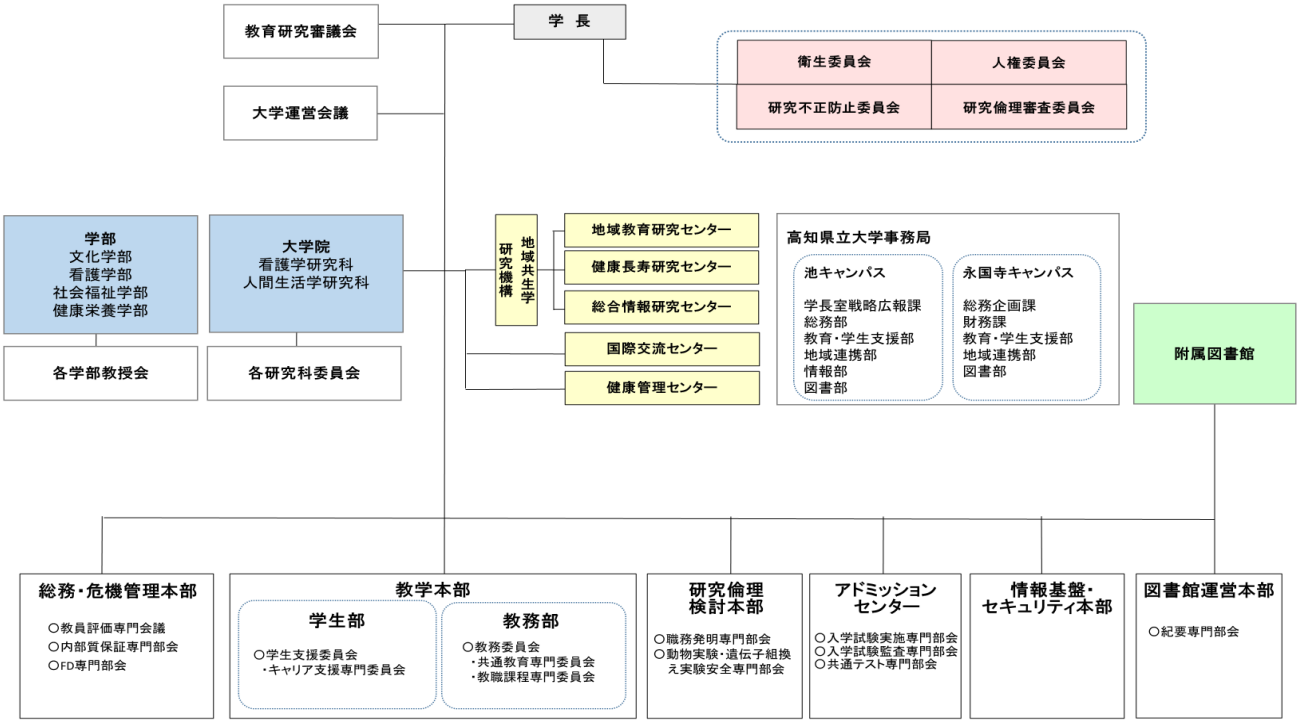
名　　称		所 在 地	TEL・FAX
池キャンパス	看護学部	〒781-8515 高知市池2751-1	TEL： 088-847-8700 （代表） FAX： 088-847-8670
	社会福祉学部		
	健康栄養学部		
	大学院看護学研究科		
	大学院人間生活学研究科 （栄養・生活学領域、社会福祉学領域）		
	事務局		
	附属図書館		
永国寺キャンパス	文化学部（夜間主含む）	〒780-8515 高知市永国寺2-22	TEL： 088-821-7105 （代表） FAX： 088-821-7103
	大学院人間生活学研究科 （文化学領域）		
	事務局		
	附属図書館		

III　組織及び教職員

1　組織

(1)組織図

高知県立大学組織図(令和7年4月1日現在)



(2)教職員構成

(令和7年5月1日現在)

(単位:人)

区分		教員								事務局職員					合計
		学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	助手	計	局長	事務職員	司書	保健師	計	
現員		1	2	40	26	15	35	1	120	1	59	2	3	65	185
内訳	学長	1							1						
	副学長		2						2						
	文化学部			12	5	4	0	0	21						
	看護学部			16	8	2	24	0	50						
	社会福祉学部			5	6	5	6	0	22						
	健康栄養学部			3	4	3	4	1	15						
	大学院			2	0	0	0	0	2						
	総合情報研究センター			0	0	1	1	0	2						
	地域教育研究センター			2	2	0	0	0	4						
	健康長寿研究センター			0	1	0	0	0	1						

(3)令和7年度新規採用教員数

(単位:人)

	学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	助手	計
学長								0
文化学部			0	1	1	0	0	2
看護学部			2	0	0	5	0	7
社会福祉学部			0	1	2	0	0	3
健康栄養学部			0	0	0	2	0	2
看護学研究科			1	0	0	0	0	1
人間生活学研究科			0	0	0	0	0	0
総合情報研究センター			0	0	0	0	0	0
地域教育研究センター			0	0	0	0	0	0
健康長寿研究センター			0	0	0	0	0	0
合計			3	2	3	7	0	15

(4)名誉教授

現在までに名誉教授の称号を授与された教授は、80名である。

高知女子大学

(平成23年3月31日現在)

	氏　　名	所属(退職時)	授与年月日		氏　　名	所属(退職時)	授与年月日
1	正木　　喬	文学部	昭和46年7月12日	26	岡崎芳子	家政学部	平成9年4月1日
2	田中　　亮	家政学部	昭和48年5月7日	27	宇久真雄	文学部	平成9年4月1日
3	市川一夫	家政学部	昭和48年5月7日	28	徳満澄雄	文学部	平成9年4月1日
4	笹原邦彦	家政学部	昭和50年5月19日	29	中山喜代子	家政学部	平成10年4月1日
5	山崎良幸	文学部	昭和50年5月19日	30	金谷嘉郎	文化学部	平成11年4月1日
6	丸山和雄	文学部	昭和50年5月19日	31	岡本健児	文学部	平成12年4月1日
7	和井兼尾	家政学部	昭和51年12月20日	32	橋本名正	文化学部	平成12年4月1日
8	深瀬亀美	家政学部	昭和52年6月27日	33	秋田利彦	生活科学部	平成12年7月7日
9	三宮慎助	文学部	昭和54年4月19日	34	濵田美智	社会福祉学部	平成13年4月1日
10	安中正哉	学　　長	昭和55年4月10日	35	藤田加代	文化学部	平成14年4月1日
11	山本壽春	家政学部	昭和55年4月10日	36	坂本　　肇	文化学部	平成14年4月1日
12	岩貞　　好	家政学部	昭和55年4月10日	37	寺内アヤ子	生活科学部	平成14年4月1日
13	赤沢時之	家政学部	昭和56年4月10日	38	山﨑美惠子	看護学部	平成14年4月1日
14	芝田不二男	家政学部	昭和59年4月10日	39	津曲裕次	社会福祉学部	平成14年4月1日
15	畠中　　幸	文学部	昭和60年4月10日	40	今西一實	社会福祉学部	平成14年4月1日
16	作田芳次	家政学部	昭和62年4月10日	41	松本女里	看護学部	平成15年4月1日
17	平見嘉彦	家政学部	平成3年5月10日	42	生田勝彦	文化学部	平成15年4月1日
18	児平文雄	家政学部	平成4年4月1日	43	阿部捷男	生活科学部	平成16年4月1日
19	松﨑淳子	家政学部	平成4年4月1日	44	山口俊治	文化学部	平成18年4月1日
20	山崎智子	家政学部	平成6年4月1日	45	原　　絢子	生活科学部	平成18年4月1日
21	市村金次郎	文学部	平成7年4月1日	46	松田眞一	社会福祉学部	平成18年4月1日
22	矢野昭典	文学部	平成8年4月1日	47	住友弘一	文化学部	平成19年4月1日
23	藤村千賀	家政学部	平成8年4月1日	48	山根久之助	文化学部	平成20年4月1日
24	池川順子	学　　長	平成8年4月1日	49	川﨑育郎	社会福祉学部	平成21年4月1日
25	松崎沙和子	家政学部	平成9年4月1日				

高知県立大学

（令和8年3月31日現在）

	氏　　名	所属(退職時)	授与年月日
1	青 山 英 康	学　長	平成23年5月19日
2	成 田 十次郎	学　長	平成23年5月19日
3	山 根 洋 右	学　長	平成23年5月19日
4	北 川　　明	文化学部	平成23年5月19日
5	大久保 茂 男	生活科学部	平成24年5月31日
6	青 木 晴 男	文化学部	平成26年4月1日
7	佐 藤 恵 里	文化学部	平成26年4月1日
8	宮 武 陽 子	看護学部	平成26年4月1日
9	川 村 美笑子	健康生活科学研究科	平成26年4月1日
10	前 山　　智	社会福祉学部	平成26年5月1日
11	井 本 正 人	文化学部	平成27年4月1日
12	逸 見 幾 代	健康栄養学部	平成27年4月1日
13	荻 沼 一 男	健康栄養学部	平成28年4月1日
14	森 下 利 子	看護学部	平成28年4月1日
15	南　　裕 子	学　長	平成29年4月20日
16	芋 生 裕 信	文化学部	平成30年4月1日
17	宇 野 浩 三	地域教育研究センター	平成30年4月1日
18	時 長 美 希	看護学部	令和4年10月20日
19	一 色 健 司	地域教育研究センター	令和5年4月1日
20	宮 上 多加子	社会福祉学部	令和5年4月1日
21	東 原 伸 明	文化学部	令和5年4月1日
22	山 田　　覚	看護学部	令和5年4月1日
23	森 下 安 子	看護学部	令和5年4月1日
24	野 嶋 佐由美	学　長	令和5年7月22日
25	大 村　　誠	文化学部	令和6年4月1日
26	中 野 綾 美	看護学部	令和6年4月1日
27	藤田 佐和	看護学部	令和7年4月1日
28	村上 尚	健康栄養学部	令和7年4月1日
29	井上 次夫	文化学部	令和7年4月1日
30	横井 輝夫	社会福祉学部	令和7年4月1日
31	池田 光徳	看護学部	令和7年4月1日

2 教員（令和7年度）

（1）学部

○文化学部 文化学科

職 名	氏 名	最終学歴	学 位（大学名）	主たる担当科目	現在の研究テーマ
教 授	五百藏 高浩	兵庫教育大学大学院連合博士課程単位取得退学	博士（学校教育学）（兵庫教育大学）	英語音声学、英語科教育法Ⅰ	英語音声学、形態論（語形成）と音韻部門との接点 第二言語学習者の音声・音韻習得 言語研究・外国語教育における情報機器の活用
教 授	飯髙 伸五	東京都立大学大学院社会科学研究科博士課程単位取得退学	博士（社会人類学）（東京都立大学）	文化人類学、民俗学	ミクロネシア地域における日本統治経験 アジア・太平洋戦争の記憶と戦跡観光 同郷者集団のネットワーク
教 授	岩倉 秀樹	広島大学大学院社会科学研究科法律学専攻博士課程後期単位取得退学	法学修士（広島大学）	日本国憲法、情報化社会と法文化	表現の自由 選挙法 憲法適合性審査の判断基準
教 授	宇都宮 千穂	京都大学大学院経済学研究科博士後期課程修了	博士（経済学）（京都大学）	地域づくり論 域学共生フィールドワーク	企業都市形成に関する研究 都市の生活空間、生活史の記録と分析 ものづくりと移住に関する研究
教 授	大井 方子	東京大学大学院経済学研究科第2種博士課程単位修得退学	修士（経済学）（東京大学）	経済学、文化と経済	技術革新、教育と労働に関する実証研究 警察施策に関する実験研究
教 授	金澤 俊吾	東北大学大学院情報科学研究科博士後期課程修了	博士（情報科学）（東北大学）	英語学概論、英語文法論	英語における形式と意味との対応関係に関する研究 英語における形容詞が関わる構文の意味的ネットワークに関する研究 事象の合成に関する研究
教 授	菊池 直人	京都産業大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学	修士（法学）（京都産業大学）	生活と法文化、地域社会と法文化	生命保険契約における保険金受取人の法的地位 被保険利益と生命保険契約 消費者教育 地域社会における事業承継
教 授	白岩 英樹	大阪芸術大学大学院芸術文化研究科博士後期課程修了	博士（芸術文化学）（大阪芸術大学）	米文化・文学史、米文化・文学論	コロニアリズム／ポストコロニアリズム 脱植民地化における市民的抵抗とシティズンシップ ジェンダー・スタディーズ
教 授	高西 成介	広島大学大学院文学研究科博士課程後期単位取得満期退学	修士（文学）（広島大学）	中国文学講読（散文）、中国文学史	六朝から唐宋にかけての文言小説研究 日中比較文学
教 授	鳥飼 真人	関西大学大学院文学研究科英文学専攻後期博士課程修了	博士（文学）（関西大学）	英文化・文学史、英文化・文学論	近現代英文学、英文化 英文学の哲学的解釈 現代文学理論の再評価 East-West Studies
教 授	橋尾 直和	広島大学大学院人間社会科学研究科博士課程後期修了	博士（文学）（広島大学）	日本語学概論、日本語音声学・音韻論	地域言語のモダリティ研究 流域圏の文化環境言語学的研究を応用した地域づくりとコミュニケーションの活性化 焼畑にまつわる「民具の方言呼称」の調査 東アジアにおける「琉球・アイヌ・ヤマト」の文化と言語の比較
教 授	三浦 要一	大阪市立大学大学院生活科学研究科後期博士課程修了	博士（学術）（大阪市立大学）	住文化論、景観文化論	歴史的建造物の保存と活用 伝統的集落・町並みの保存とまちづくり 日本の都市空間の住居史的・建築史的研究
教 授	ヨース・ジョエル	ルーヴェンカトリック大学日本学科博士課程修了	博士（日本学）（ルーヴェンカトリック大学[ベルギー]）	国際日本学、日本思想史	自由民権運動、明治時代の思想と文化、日本の歴史と社会を英語で表現する
准教授	梶原 太一	同志社大学大学院商学研究科商学専攻博士課程後期課程修了	博士（商学）（同志社大学）	NPO論、キャリア形成論	投資の見返り（ROI）の多様な計算方法 複式簿記情報と資本コスト情報の固有価値 人間の計数能力形成と発達に関する歴史・制度的研究
准教授	田中 裕也	同志社大学大学院文学研究科国文学専攻博士課程後期課程修了	博士（国文学）（同志社大学）	日本文学概論、日本文学史（近代）	三島由紀夫文学の生成論的研究
准教授	友原 嘉彦	広島大学大学院総合科学研究科博士後期課程修了	博士（学術）（広島大学）	観光まちづくり論Ⅰ、観光産業論Ⅰ	リフレクシブツーリズム、サードエリア、クリエイティブ
准教授	沼田 真里	法政大学大学院人文科学研究科博士後期課程修了	博士（文学）（法政大学）	日本語学専門演習、国語科教育法Ⅰ	国語科教育法 日本近現代文学における病・障害の描かれ方と、障害者の自己表現

職　名	氏　　名	最終学歴	学　位（大学名）	主たる担当科目	現在の研究テーマ
准教授	向井　真樹子	ニューカッスル大学大学院 School of English & Linguistics修了	博士（言語学） （ニューカッスル大学）	比較言語研究、言語教育実践論Ⅱ	英語、北欧諸言語、日本語、等の複合語の比較・対照 日本語教育（単語の習得） 英語教育
講 師	田中　康代	関西学院大学院法学研究科後期課程単位取得中退	修士（法学） （甲南大学）	社会秩序と法、文化と裁判	国際人権法から見た精神障害者の処遇
講 師	中瀬　将志	神戸大学大学院人文学研究科博士課程後期課程修了	博士（文学） （神戸大学）	古典文学講読、日本文学史（古典）	平安時代の文学、特に歴史物語に関する研究
講 師	吐合　大祐	神戸大学大学院法学研究科博士後期課程修了	博士（政治学） （神戸大学）	政治学、地方自治論	地方政治における政策形成のメカニズム 地方議会議員（都道府県議会議員）の行動分析 政策形成における都道府県の役割 国会議員の選挙戦略と議会内行動の関係
講 師	濵田　愛	東京大学大学院工学系研究科博士後期課程修了	博士（工学） （東京大学）	地域文化論、文化政策論	都市・地域の生業と都市空間の関係、及びそれらを支える制度

○看護学部 看護学科

職　名	氏　　名	最終学歴	学　位（大学名）	主たる担当科目	現在の研究テーマ
教 授	青木　早苗	高知県立大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	博士（看護学） （高知県立大学）	がん看護論、総合看護実習Ⅱ、終末期看護援助論、看護と政策、看護実践能力開発実習Ⅱ	遺伝リスクのある乳がん女性のセルフ・トランセンデンスを促進する支援 がん薬物療法・放射線療法を受ける患者の外来看護に関する研究 がん患者のセクシュアリティに関する研究 がん看護教育に関する研究
教 授	畦地　博子	高知女子大学大学院健康生活科学研究科博士後期課程修了	博士（看護学） （高知女子大学）	人間と看護、看護研究方法論、行動科学、保健行動論、看護学総論、看護哲学と倫理、看護セミナーⅠ・Ⅱ	精神科看護を中心とした専門職のケア技術に関する研究
教 授	池添　志乃	高知女子大学大学院健康生活科学研究科博士後期課程修了	博士（看護学） （高知女子大学）	家族関係論、学校保健、養護概説、看護哲学と倫理、養護実習、教職実践演習（養護）、人間と看護、臨床看護論Ⅱ	発達障害の子どもと家族を支える養護教諭の支援活動 生活の再構築に取り組む家族への支援 生活の再構築に取り組む家族の介護キャリア 家族に対する看護エンパワーメント介入
教 授	内田　雅子	日本赤十字看護大学大学院博士課程 単位修得満期退学	博士（看護学） （日本赤十字看護大学）	慢性期看護論、治療援助論、看護学総論、慢性期看護の動向と課題、看護と政策、総合看護実習Ⅰ、治療と看護	生活習慣病の重症化予防とケア・コーディネーション 慢性看護実践における事例研究法
教 授	瓜生　浩子	高知県立大学大学院健康生活科学研究科博士後期課程修了	博士（看護学） （高知県立大学）	生活援助論、フィジカルアセスメント、看護過程論、看護援助の動向と課題、看護基盤実習、看護実践能力開発実習Ⅰ、看護研究、家族看護実習	高次脳機能障害者と共に生きる家族の体験と支援に関する研究 高次脳機能障害の当事者・家族会の意義に関する研究 災害後における家族レジリエンスを促す看護支援に関する研究 家族看護実践における倫理調整能力強化のための教育方法に関する研究
教 授	大川　宣容	高知県立大学大学院健康生活科学研究科博士後期課程修了	博士（看護学） （高知県立大学）	急性期看護論、治療援助論、人間と看護、急性期看護の動向と課題、総合看護実習Ⅰ	クリティカルケアにおける看護ケアに関する研究 シミュレーション教育に関する研究
教 授	木下　真里	名古屋大学大学院医学系研究科博士課程修了	博士（医学） （名古屋大学）	グローバル社会と看護Ⅰ・Ⅱ、災害看護実践論、災害と看護、看護セミナーⅡ、看護実践能力開発実習Ⅱ	災害時意思決定支援モバイル・ツール開発のための基礎調査－被災地における看護有資格者の医療知識／技術情報ニーズについて－ 全被災者の健康状態把握を支援するモバイル・ツール（COACHES）開発研究 大学−臨床連携システムによる感染症に対する地域包括的な対応能力の向上
教 授	久保田　聰美	高知女子大学大学院健康生活科学研究科博士後期課程修了	博士（看護学） （高知女子大学）	健康と看護、看護サービス論、看護システム論、専門職連携論、看護管理実習、看護管理の動向と課題、看護管理の動向と課題	災害に強い専門職育成に関する研究 看護職のストレスマネジメントに関する研究 慢性疾患や禁煙支援、学生やスタッフ支援における動機付け面接（MI）の臨床活用

職 名	氏 名	最終学歴	学 位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
教 授	嶋岡 暢希	高知県立大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	博士(看護学)(高知県立大学)	助産看護診断論、助産看護管理論、生命の科学と倫理、母性看護の動向と課題、助産看護学総論、助産技術論Ⅰ・Ⅱ、助産看護援助論、助産看護の動向と課題、助産看護実習Ⅰ・Ⅱ、看護研究、看護と政策、母性看護学総論、助産技術論Ⅰ(基本)、Ⅱ(応用)、総合看護実習Ⅰ	乳児期の子どもをもつ親のMastery獲得を促進する看護援助
教 授	島本 亮	三重大学医学部大学院医学研究科博士修了	博士(医学)(三重大学)	診断学、人体のしくみの乱れⅠ・Ⅱ、治療学総論、医学の世界、臨床看護論Ⅴ、医学と看護の統合	肺移植における臓器保護および虚血再灌流障害制御に関する研究 医学教育学の知見を活用した看護学教育における統合型専門基礎教育モデルの開発
教 授	田井 雅子	高知県立大学大学院健康生活科学研究科博士後期課程修了	博士(看護学)(高知県立大学)	精神看護学総論、精神の健康と看護、精神看護の動向と課題、人間と看護、看護研究、看護と政策、総合看護実習Ⅰ	精神疾患をもつ人に対する看護ケア 精神疾患をもつ人の家族に対する看護ケア
教 授	髙谷 恭子	高知女子大学大学院健康生活科学研究科博士後期課程修了	博士(看護学)(高知女子大学)	チーム医療実習、小児看護学総論、小児の健康と看護、小児看護援助論、小児看護の動向と課題、人間と看護、看護研究方法論、看護研究、看護と政策、総合看護実習Ⅰ、看護セミナーⅣ	小児看護、および、健康障がいのある子どもや家族に関する研究 命に向き合う子どもと親や家族のエンド オブ ライフへの看護支援に関する研究
教 授	竹﨑 久美子	高知女子大学大学院健康生活科学研究科博士後期課程修了	博士(看護学)(高知女子大学)	老人看護学総論、老人看護援助論、老人看護の動向と課題、人間と看護、ふれあい看護実習、老人の健康と看護、看護研究、看護と政策、総合看護実習Ⅰ、災害と看護、看護地域フィールドワーク	高齢者の「居がい」について 小規模デイサービスの場づくりとケア効果 高齢患者の自宅退院支援プログラムの開発 認知症高齢者の術後安静をより安楽に保つためのケア開発 南海トラフ巨大地震準備期における災害看護
教 授	立木 隆広	近畿大学大学院医学研究科 疫学・健康科学専攻修了	博士(医学)(近畿大学)	人間工学、公衆衛生学、健康管理論、疫学、保健行動論、看護研究、総合看護実習Ⅱ	骨粗鬆症、サルコペニア、フレイル、木質住環境と健康
教 授	長戸 和子	高知女子大学大学院健康生活科学研究科博士後期課程修了	博士(看護学)(高知女子大学)	生活と看護、生活援助論、看護援助の動向と課題、家族看護実習	健康問題をもつ人とその家族への看護支援の方略に関する研究
特任教授	森下 安子	高知県立大学大学院看護学研究科博士後期課程満期退学	博士(看護学)(高知県立大学)	健康長寿センター事業	地域病院協働型在宅移行支援システム 災害看護支援ネットワークシステムの構築 在宅高齢者への看護介入
准教授	有田 直子	高知県立大学大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程修了	博士(看護学)(高知県立大学)	小児の健康と看護、小児看護援助論、小児看護実習、看護研究、臨床看護論Ⅲ、看護実践論Ⅰ	血液・腫瘍疾患を持つ青年の意思決定に関すること 高度実践看護師への教育に関すること
准教授	小澤 若菜	高知県立大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	博士(看護学)(高知女子大学)	地域看護学総論、地域の健康と看護、地域看護援助論、環境と看護、人間と看護、地域看護の動向と課題、地域看護実習、看護研究、看護と政策、総合看護実習Ⅰ、災害と看護	循環器病の重症化予防に関すること 災害時の保健活動に関すること 小規模事業場の健康管理に関すること
准教授	川上 理子	高知県立大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	博士(看護学)(高知県立大学)	在宅看護学総論、在宅看護援助論、在宅看護リエゾン論、健康とヘルスプロモーション、環境と看護、治療援助論、在学看護実習、看護研究、看護と政策、異文化理解看護フィールドワーク	在宅で療養する高齢者の家族はどのように看取りをしているのか 訪問看護師は、在宅での看取りをどのように援助しているのか

職　名	氏　　名	最終学歴	学　位（大学名）	主たる担当科目	現在の研究テーマ
准教授	田代　真理	高知県立大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	博士（看護学）（高知県立大学）	症状と看護、終末期看護援助論、がん看護論、看護実践能力開発実習Ⅰ・Ⅱ、臨床看護実践論、最新実践看護講座Ⅱ	在宅看護、がん看護、ACPに関すること、リフレクションに関すること
准教授	中井　寿雄	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科保健学専攻博士後期課程修了	博士（保健学）（金沢大学）	在宅看護対象論、在宅看護実習、看護研究、災害看護実践論、臨床看護論Ⅰ、看護セミナーⅤ、看護地域フィールドワーク、看護地域フィールドワーク	医療的ケア児・者が専門職と一緒に災害に備えることができるアプリケーションソフトの開発 医療的ケア児・者情報に基づいた備蓄管理システムの開発 GISを用いた被災リスク・避難経路評価
准教授	畠山　卓也	東京女子医科大学大学院看護学研究科博士後期課程単位取得後退学	博士（看護学）（東京女子医科大学）	援助関係論、看護哲学と倫理、精神の健康と看護、精神看護援助論、精神看護実習、看護研究、臨床看護論Ⅵ、看護実践論Ⅳ、	精神疾患をもつ人やその家族への看護 精神科における外来看護支援に関する研究
准教授	村川　由加理	名古屋市立大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	博士（看護学）（名古屋市立大学）	看護実践論Ⅱ、急性期看護援助論、回復期看護援助論、急性期看護の動向と課題、急性期看護実習、看護研究、バイオロジカルナーシング、治療と看護、災害と看護、最新実践看護講座Ⅱ	クリティカルケア看護、周術期看護、看護サバイバー市民の育成
准教授	森下　幸子	高知女子大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士（看護学）（高知女子大学）	在宅看護リエゾン論、在宅ケアシステム論、在宅リエゾン看護演習、在宅看護学実践演習Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	組織学習を支える訪問看護管理者のコンサルテーション力を高める教育支援の研究 ヤングケアラーとその家族の家族レジリエンスを高める看護ガイドラインの構築
講 師	岩﨑　順子	高知県立大学大学院看護学研究科博士課程修了	博士（看護学）（高知県立大学）	母性の健康と看護、母性看護援助論、助産看護援助論、基礎ジェンダー論、生命の科学と倫理、母性看護の動向と課題、母性看護実習、助産看護の動向と課題、助産看護実習Ⅰ、看護研究	Maternal Confidenceについての研究 Family Confidenceに関する研究
講 師	山中　福子	高知女子大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士（看護学）（高知女子大学）	慢性期看護援助論、症状と看護、健康とヘルスプロモーション、生活援助論、慢性期看護論、慢性期看護実習、看護研究、臨床看護論Ⅳ、慢性期看護実践論、看護実践論Ⅱ、症状と看護	慢性疾患をもつ患者の自己管理を支援するための看護ケアについて
助 教	青木　良枝	高知大学大学院総合人間自然科学研究科修士課程修了	修士（看護学）（高知大学）	母性看護実習、助産看護実習、総合看護実習Ⅰ	助産師教育に関する研究
助 教	飯田　悠花	神戸市看護大学看護学研究科 博士前期課程修了	修士（看護学）（神戸市看護大学）	助産看護診断論、助産技術論Ⅰ、Ⅱ、母性看護の動向と課題、助産看護実習Ⅰ、補、総合看護実習Ⅰ	妊産婦の災害対策
助 教	池内　　香	高知女子大学大学院看護学研究科 修士課程修了	修士（看護学）（高知女子大学）	援助関係論、精神看護援助論、看護研究、精神看護実習、総合看護実習Ⅰ	精神疾患をもつ人に対する看護ケア 精神疾患をもつ人と家族の力
助 教	岩井　由里	高知県立大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士（看護学）高知県立大学	地域の健康と看護、地域看護援助論、地域看護実習	養護教諭による健康相談 病気と共に生きる子どもに対する養護教諭の支援 子どもの生きる力、心的外傷後成長
助 教	加藤　昭尚	高知県立大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	博士（看護学）（高知県立大学）	看護基盤実習、看護実践能力開発実習Ⅰ、チーム医療実習、看護管理実習、看護実践能力開発実習、フィジカルアセスメント、地域学実習Ⅰ、看護研究、最新実践看護講座Ⅰ、看護セミナーⅠ	看護師のワークライフバランス 手術室看護師の職務満足 手術室看護師のやりがい

職 名	氏　名	最終学歴	学 位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
助 教	上村　明咲	高知県立大学大学院看護学研究科博士前期課程(修了)	修士(看護学) (高知県立大学)	看護基盤実習、看護実践能力開発実習Ⅰ、慢性期看護実習、総合看護実習、治療援助論、慢性期看護論、慢性期看護援助論	ICUにおける看護ケアに関する研究
助 教	神家　ひとみ	高知県立大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士(看護学) (高知県立大学)	総合看護実習Ⅰ、急性期看護援助論、治療援助論、看護実践能力開発実習Ⅰ	ICUにおける人工呼吸器装着患者の早期回復に向けた臨床判断 ICUで人工呼吸器管理を受けた患者の体験と看護支援の検討 ICUにおける人工呼吸器装着患者の集中治療後症候群予防のケアガイドライン開発
助 教	小松原　大典	高知県立大学大学院看護学研究科博士前期課程修了	修士(看護学) 高知県立大学	精神看護援助論、精神看護実習、総合看護実習Ⅰ	統合失調症患者への看護面接の影響:ビデオ通話と対面の比較
助 教	小味　慶子	東京大学大学院医学系研究科博士課程前期終了	修士(保健学) (東京大学)	地域の健康と看護、地域看護実習、総合看護実習Ⅰ、看護セミナーⅠ、地域看護援助論、総合看護実習Ⅱ、看護管理実習	都道府県の新任保健師の個人及び家族への支援から集団、地域へ波及していく保健活動における能力育成について
助 教	源田　美香	高知県立大学大学院看護学研究科博士前期課程修了	修士(看護学) (高知県立大学)	ふれあい看護実習、看護基盤実習、家族看護実習、看護実践能力開発実習Ⅱ、家族関係論(池・永国寺)、生活援助論、臨床看護論Ⅱ、生活と看護、フィジカルアセスメント、チーム医療実習	先天性の心臓病のある子どもと共に生きる家族の対処行動 発達障害をもつ子どもとその家族の家族ストレングス
助 教	塩見　理香	高知県立大学大学院看護学研究科博士前期課程修了	修士(看護学) (高知県立大学)	老人看護援助論、ふれあい看護実習、看護基盤実習、総合看護実習、看護管理実習、看護実践能力開発実習、生活援助論、看護研究	地域で生活する精神障がい者に関する研究
助 教	竹中　英利子	高知県立大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士(看護学) (高知県立大学)	在宅看護実習、看護実践能力開発実習、看護基盤実習、在宅看護援助論、生活援助論	在宅看護 外来看護
助 教	田中　雅美	高知県立大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士(看護学) (高知県立大学)	慢性期看護実習、慢性期看護論、慢性期看護援助論、臨床看護論Ⅵ、治療援助論、看護実践能力開発実習Ⅰ、総合看護実習Ⅰ	ICU看護師の成長支援に関する研究
助 教	田之頭　恵里	高知県立大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	博士(看護学) (高知県立大学)	小児の健康と看護、小児看護援助論、看護過程論、総合看護実習、小児看護実習、小児看護の動向と課題、看護セミナーⅠ、看護セミナーⅣ、臨床看護論Ⅲ、最新実践看護講座Ⅰ	臓器移植を受けた子どもや家族に関する研究 周手術期にある子どもや家族に関する研究 子どもの社会的、経済的状況と健康との関連に関する研究
助 教	佃　勇輝	高知県立大学大学院看護学研究科博士前期課程修了	修士(看護学) (高知県立大学)	小児看護実習、総合看護実習Ⅰ、看護実践能力開発実習Ⅰ、看護セミナーⅠ	高知県で在宅療養生活を送る医療的ケア児の南海トラフ地震対策に関する研究
助 教	徳岡　麻由	高知県立大学大学院看護学研究科博士前期課程修了	修士(看護学) (高知県立大学)	助産看護の動向と課題、家族関係論、助産看護診断論、母性看護実習、総合看護実習Ⅰ、家族看護実習、助産看護実習Ⅰ、Ⅱ、母性看護援助論、助産技術論Ⅰ、助産看護援助論、看護研究	親となることへの支援 子どもを養育する夫婦、共同養育者のcoparenting
助 教	中井　あい	和歌山県立医科大学大学院保健看護学研究科博士後期課程修了	博士(保健看護学) (和歌山県立医科大学)	ふれあい看護実習、看護基盤実習、領域別実習、総合看護実習Ⅰ、老人看護実習、老人看護援助論、地域学実習Ⅰ、生活援助論	高齢者の健康増進 在外邦人の健康行動
助 教	廣瀬　未央	高知県立大学大学院看護学研究科修士修了	修士(看護学) (高知県立大学)	看護基盤実習、看護実践能力開発実習Ⅰ、看護実践能力開発実習Ⅱ	がん薬物療法(分子標的治療薬)を受ける患者の症状マネジメント 在宅緩和ケア

職 名	氏 名	最終学歴	学 位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
助 教	前田 愛友香	高知大学大学院総合人間自然科学研究科修士課程修了	修士(看護学) (高知大学)	助産技術論Ⅱ、助産看護援助論、助産看護の動向と課題、母性の健康と看護、母性看護援助論、母性看護実習Ⅰ、Ⅱ、助産看護実習Ⅰ、Ⅰ補、総合看護実習Ⅰ	助産師外来に関する研究
助 教	宮地 佐和子	高知県立大学大学院看護学研究科博士前期課程修了	修士(看護学) (高知県立大学)	フィジカルアセスメント、看護過程論、看護セミナーⅠ、看護管理実習、看護基盤実習、看護実践能力開発実習Ⅱ、チーム医療実習、総合看護実習Ⅱ	医療安全への患者参加
助 教	森本 紗磨美	甲南女子大学大学院博士後期課程終了	博士(看護学) (甲南女子大学)	急性期看護実習、総合看護実習Ⅰ、急性期看護論、急性期看護援助論、治療援助論、バイオロジカルナーシング	周術期にあるがん患者を支える看護
助 教	依岡 美里	高知県立大学大学院看護学研究科博士前期課程修了	修士(看護学) (高知県立大学)	看護過程論、フィジカルアセスメント、看護セミナーⅠ、看護研究、ふれあい看護実習、看護基盤実習、家族看護実習、看護実践能力開発実習Ⅱ、チーム医療実習	看護師と患者の非言語的コミュニケーションに関する研究

○社会福祉学部 社会福祉学科

職 名	氏 名	最終学歴	学 位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
教 授	杉原 俊二	香川医科大学大学院医学研究科環境生態系専攻博士課程	博士(医学) (香川医科大学)	面接技法	地域を支える児童・家族福祉分野のソーシャルワーク 自分史を用いたセルフヘルプ技法の開発と検証 システムズアプローチ(家族療法)を用いた支援方法 KJ法を用いた、支援方法や研究方法の開発と検証
教 授	田中 きよむ	京都大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得退学	経済学修士 (滋賀大学)	地域福祉論Ⅱ	・社会保障制度の公共性と持続可能性の両立に向けたシステム研究 ・アマルティア・センの福祉経済理論に基づく社会保障制度の再構築 ・地域福祉(活動)計画に基づく住民参加型地域づくりの主体性形成要因 ・「小さな拠点」を軸とする共生型地域づくりの形成要因と持続モデル ・ホームレスの把握・支援方法に関する研究
教 授	長澤 紀美子	新潟大学大学院現代社会文化研究科博士後期課程修了	博士(学術) (新潟大学)	国際福祉論、女性福祉論、社会福祉の原理と政策、基礎ジェンダー学	イギリスを中心に欧米のケアの質・(アウトカム)評価政策に関する研究 iSOGI(性的指向・性自認)に基づく差別禁止とジェンダー平等に関する研究 クィア・ソーシャルワーク教育の開発／トランスジェンダーに対するトラウマ・インフォームド・ソーシャルワークの研究
教 授	西内 章	関西福祉科学大学大学院社会福祉学研究科博士後期課程修了	博士(臨床福祉学) (関西福祉科学大学)	ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅰ	ソーシャルワーク実践と多職種連携の研究 地域連携ネットワークにおけるアセスメント・ツールの研究
教 授	西梅 幸治	京都府立大学大学院福祉社会学研究科博士後期課程修了	博士(福祉社会学) (京都府立大学)	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	ソーシャルワークにおけるエンパワメント実践に関する研究 エコシステム視座に基づく支援ツールの研究 スクールソーシャルワークに関する研究
教 授	矢吹 知之	東北大学大学院 教育情報学研究部 博士課程後期修了	博士(教育情報学)	認知症の理解Ⅰ,Ⅱ、高齢者福祉論Ⅰ,Ⅱ	認知症カフェの普及・促進、効果測定に関する研究 認知症の人と家族の一体的支援プログラムの開発(ミーティングセンター・サポートプログラムの開発) 家族介護者の虐待未然防止に関する研究 認知症の人を介護する家族への支援方法に関する研究 認知症フレンドリー社会の構築に関する研究
准教授	加藤 由衣	京都府立大学大学院福祉社会学研究科博士後期課程修了	博士(福祉社会学) (京都府立大学)	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	ソーシャルワークにおける省察的実践の研究 ソーシャルワークの教育実践研究 スクールソーシャルワークの実践方法の研究
准教授	河内 康文	高知県立大学大学院人間生活学専攻博士後期課程修了	博士(社会福祉学) (高知県立大学)	障害の理解Ⅱ	介護人材の育成に関する研究
准教授	田中 顕悟	鹿児島国際大学大学院福祉社会学研究科博士後期課程満期退学	博士(社会福祉学) (鹿児島国際大学)	精神保健福祉の原理	Military Social Work及びMilitary Social Worker養成プログラムの日本での援用
准教授	辻 真美	松山大学大学院社会学研究科博士後期課程修了	博士(社会学) (松山大学)	コミュニケーション技術	訪問介護における労働特性と専門性に関する研究 介護福祉教育への取り組みやあり方に関する検討

職　名	氏　　名	最終学歴	学　位（大学名）	主たる担当科目	現在の研究テーマ
准教授	遠山　真世	東京都立大学大学院社会科学研究科博士課程修了	博士（社会福祉学）（東京都立大学）	障害者福祉論	障害者の雇用問題・就労支援にかんする研究 障害者雇用政策の国際比較研究 障害を理由とした差別の禁止と合理的配慮にかんする研究 障害者の雇用・就労にかんする調査研究
准教授	福間　隆康	広島大学大学院社会科学研究科博士課程後期マネジメント専攻修了	博士（マネジメント）（広島大学）	福祉サービスの組織と経営	障害のある従業員の組織社会化過程における個人の適応行動に関する研究
講 師	井上　夏子	明治学院大学大学院社会学研究科博士後期課程単位取得満期退学	修士（社会福祉学）（明治学院大学）	精神保健福祉制度論	精神保健福祉領域における精神障害当事者とソーシャルワーカーの関係性の研究
講 師	清家　庸佑	吉備国際大学大学院保健科学研究科博士課程修了	博士（保健学）（吉備国際大学）	精神障害リハビリテーション論	1. 精神障害リハビリテーションにおけるアセスメントシステムの開発 2. 共同創造（Co-production）に基づくリカバリーカレッジの構築とその効果に関する研究 3. 精神科作業療法におけるクリティカルラダーの開発と実践的検証
講 師	田中　眞希	高知県立大学大学院人間生活学専攻博士後期課程修了	博士（社会福祉学）（高知県立大学）	障害の理解Ⅰ	介護福祉の専門性 介護職員の現場教育 介護福祉士養成 介護福祉教育のあり方
講 師	湯川　順子	大阪市立大学大学院創造都市研究科博士後期課程修了	博士（創造都市）（大阪市立大学）	地域福祉論Ⅰ	エイジング・イン・プレイスに関する研究 地域での生活を支援するソーシャルワーカー養成教育の課題
講 師	行貞　伸二	大阪府立大学大学院社会福祉学研究科博士後期課程単位取得退学	修士（社会福祉学）（大阪府立大学）	公的扶助論	生活困窮問題の実態の把握および生活困窮者に対する支援方策 高知県における医療供給体制の形成過程 町村福祉行政の実態と課題
助 教	稲垣　佳代	高知女子大学大学院人間生活学研究科修士課程修了	修士（社会福祉学）（高知女子大学）	ソーシャルワークの理論と方法（精神）	失敗を保障する援助に関する研究 ソーシャルワーカーによる就労支援に関する研究 精神保健福祉士の養成教育に関する研究
助 教	乾　由美	高知県立大学大学院看護学研究科博士前期課程修了	修士（看護学）（高知県立大学）	医療的ケアⅠ・Ⅱ、障害の理解Ⅱ	医療処置が必要な高齢者への訪問看護師による在宅移行支援 地域包括ケア病棟看護師による退院支援での意思決定を支える働きかけ
助 教	上杉　麻理	高知県立大学大学院人間生活学研究科人間生活学専攻博士前期課程	修士（社会福祉学）（高知県立大学）	介護過程Ⅳ	介護福祉士や特別養護老人ホームで働く生活相談員の専門性
助 教	大熊　絵理菜	高知県立大学大学院人間生活学研究科人間生活学専攻博士前期課程	修士（社会福祉学）（高知県立大学）	医療ソーシャルワーク論	医療ソーシャルワーカーのアセスメントに関する研究 医療ソーシャルワーカーのスーパービジョン 面接における情報収集と認識のプロセス 多職種連携
助 教	玉利　麻紀	大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程単位取得退学	修士（人間科学）（大阪大学）	心理学と心理的支援	社会的マイノリティへの偏見軽減アプローチに関する研究 障害当事者と支援者との共同創造がもたらす「新しい共生のあり方」に関する探索的研究 「リカバリーカレッジ高知」を通した新たな共生の場づくり
助 教	山本　大輔	京都府立大学大学院公共政策学研究科博士後期課程福祉社会学専攻単位取得退学	修士（福祉社会学）（京都府立大学）	高齢者福祉論	高齢男性のソーシャルワーク支援に関する研究

○健康栄養学部 健康栄養学科

職 名	氏 名	最終学歴	学 位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
教 授	小林 淳	金沢大学大学院自然科学研究科修了	博士(学術) (金沢大学)	公衆衛生学・生化学	環境汚染化学物質の動態把握 食品添加物の分析
教 授	近藤 美樹	徳島大学大学院栄養学研究科博士後期課程中途退学	博士(栄養学) (徳島大学)	栄養教育論	調理・加工食品の機能性ならびに嗜好性の評価 地域特産物の付加価値化および未利用資源の利活用 学校における食に関する指導について
教 授	渡邊 浩幸	岩手大学大学院連合農学研究科修了	博士(農学) (岩手大学)	食品学	食品に含まれる機能成分の探索と機能評価 ①脂質代謝・エネルギー代謝に関する機能成分と評価 ②脳機能に関する機能成分と機能評価
准教授	島田 郁子	高知県立大学大学院人間生活学研究科博士後期課程修了	博士(生活科学) (高知県立大学)	給食経営管理論	食形態の工夫による高齢者の栄養改善 管理栄養士が目指す給食経営管理システムの構築 災害時の食事対応(炊き出し・弁当・ハラール・ヴィーガン等) 地域産物を活用したレシピ・弁当の開発 国際栄養(カンボジア ラオス)
准教授	鈴木 麻希子	岐阜大学大学院医学系研究科医科学専攻修了	博士(医学) (岐阜大学)	基礎栄養学・応用栄養学	加工食品の摂取実態とリン摂取量が腎機能に及ぼす影響 卵アレルギーの発症機序の解明 翻訳後修飾メチル化の意義とADMA代謝系の解明
准教授	竹井 悠一郎	徳島大学大学院栄養生命科学教育部人間栄養科学専攻博士後期課程修了	博士(栄養学) (徳島大学)	臨床栄養学	①炎症性腸疾患(IBD)の発症機序解明と治療を目指した医学・栄養学研究 ②動脈瘤の発症予防を目指した医学・栄養学研究 ③慢性閉塞性肺疾患(COPD)の発症機序解明と治療を目指した医学・栄養学研究 ④成長期ジュニアアスリートの生活状況と栄養状態に関する研究
准教授	西岡 道子	鳥取大学大学院連合農学研究科修了	博士(農学) (鳥取大学)	調理学	加熱調理における魚介類のビタミンB_{12}について 調理における野菜の葉酸含量について
講 師	隅田 有公子	高知県立大学大学院人間生活学研究科博士後期課程修了	博士(生活科学) (高知県立大学)	食と介護	経腸栄養剤の粘性付加、食品の物性に係わる研究 高齢者の健康維持・増進に係わる研究
講 師	竹本 和仁	武庫川女子大学大学院生活環境学研究科食物栄養学専攻博士後期課程修了	博士(食物栄養学) (武庫川女子大学)	食品学実験	食物アレルギーの症状緩和に関する研究 高知県の伝統食品の機能性成分の検索
講 師	村井 詩子	筑波大学大学院人間総合科学研究科生命システム医学専攻博士後期課程修了	博士(医学) (筑波大学)	公衆栄養学	日本特有の健康課題に関する研究 日本人の食習慣と疾病に関する研究
助 教	井治 賢希	高知県立大学大学院人間生活学研究科博士後期課程修了	博士(生活科学) (高知県立大学)	食品学実験	高脂肪食による肥満に対する食品成分の影響 高脂肪食摂取によるうつ病発症機構の探索 野菜中の機能性成分の定量
助 教	小山 智久	城西大学大学院薬学研究科医療栄養学専攻博士前期課程修了	修士(医療栄養学) (城西大学)	給食経営管理実習	ポリフェノールの添加が小麦粉の加工特性に及ぼす影響
助 教	杉本 拓海	京都府立大学大学院生命環境科学研究科博士後期課程修了	博士(農学) (京都府立大学)	基礎栄養学実験・地域公衆栄養学実習	1. 骨格筋を起点とした他臓器に与える影響の解明(臓器連関) 2. 四川黒茶(微生物発酵茶)の機能性に関する研究 3. スポーツ選手に対する怪我からの復帰を早めるための食事・栄養に関する研究
助 教	山岡 伸	青森県立保健大学大学院博士後期課程修了	博士(健康科学) (青森県立保健大学)	生化学実験・臨床栄養学実習	食品摂取による生活習慣病やその他の疾患の予防及び改善、エピジェネティクス、食事調査
助 手	彼末 富貴	高知女子大学家政学部食物栄養学科卒業	学士(家政学)	調理学実習	土佐の伝統食

【 地域教育研究センター 】

職 名	氏 名	最終学歴	学 位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
教 授	石山 貴章	高知女子大学大学院健康生活科学研究科博士後期課程修了	博士(社会福祉学)(高知女子大学)	教育心理学	特別支援教育の授業づくり 障害者の就労支援に関する研究 心理検査/発達検査におけるアセスメントと支援アプローチ 発達障害者における教育支援
教 授	鈴木 康郎	筑波大学大学院博士課程教育学研究科単位取得満期退学	教育学修士(筑波大学)	教育原理、教師論	アジア諸国における教育改革の研究 市民性教育の比較研究 道徳教育の比較研究 ムスリム・マイノリティの教育
准教授	秋谷 公博	東洋大学大学院 国際地域学研究科 国際地域学専攻 博士後期課程修了	博士(国際地域学)(東洋大学)	地域学実習、チーム形成論	アジアの都市貧困層によるネットワークを通したまちづくりに関する研究 コンテンツを活用した観光まちづくりに関する研究 TBL及びPBLを活用したアクティブ・ラーニングの教育効果に関する研究
准教授	高徳 希	奈良女子大学大学院人間文化研究科 博士後期課程 社会生活環境学専攻 修了	博士(学術)(奈良女子大学)	健康スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ	動作分析および筋電図学的手法を用いた身体運動の定量化 調整力の発達過程 民俗芸能(身体情報のデジタルデータ)の保存と活用

【 総合情報研究センター 】

職 名	氏 名	最終学歴	学 位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
講 師	根本 大志	東洋大学大学院総合情報学研究科博士後期課程修了	博士(情報学)(東洋大学)	ITリテラシー、データサイエンス入門、AI概論	知的情報システムによる文化知のアーカイブと創造支援
助 教	名和 真一	京都大学大学院理学研究科博士後期課程単位取得退学	理学博士(京都大学)	コンピューターリテラシー	有限要素法

【 健康長寿研究センター 】

職 名	氏 名	最終学歴	学 位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
准教授	小林 秀行	一橋大学大学院経済学研究科 博士後期課程 終了	博士(経済学)(一橋大学)	保健統計学、地域保健政策、情報と看護、看護セミナーⅢ、データ分析方法論、看護情報学	ケイパビリティを情報的基礎とする健康・厚生・経済評価指標の構築 労働者のウェル・ビーイングの向上と健康経営 個人のウェル・ビーイング向上

（2）大学院

○看護学研究科看護学専攻 （博士前期課程）

領 域	職 名	氏　名	主たる担当科目
－	教 授	青木　早苗	看護理論と実践、がん看護論、がん看護方法論、がん看護学実践演習
－	教 授	畦地　博子	看護学基盤論、看護研究と実践、共創看護学セミナーほか
－	教 授	池添　志乃	看護理論と実践、看護学基盤論、学校保健研究ほか
－	教 授	内田　雅子	ケア論、慢性看護ケア研究、慢性看護方法論、慢性看護学実践演習ほか
－	教 授	瓜生　浩子	家族看護論、家族看護方法論、家族看護学実践演習ほか
－	教 授	大川　宣容	クリティカルケア看護方法論、クリティカルケア看護学実践演習ほか
－	教 授	木下　真里	グローバルヘルス論、感染症看護セミナー、災害看護活動論（準備期）ほか
－	教 授	久保田　聰美	看護マネジメント論、看護管理論、システム経営管理論、看護管理の動向と展望ほか
－	教 授	嶋岡　暢希	女性健康支援論、子育てケア包括支援論、母性・助産看護ケア研究ほか
－	教 授	島本　亮	フィジカルアセスメント特論、がん病態生理学ほか
－	教 授	田井　雅子	精神看護方法論、精神看護展開論、精神看護学実践演習ほか
－	教 授	高谷　恭子	看護研究と実践、こころの発達、小児看護論ほか
－	教 授	竹﨑　久美子	看護倫理、臨床倫理、老人看護ケア研究、老人看護論ほか
－	教 授	立木　隆広	データ分析方法論Ⅰ、疫学研究方法論、保健学研究ほか
－	教 授	長戸　和子	家族看護論、家族看護方法論、家族看護学実践演習ほか
－	教 授	飯髙　伸五	学際的研究方法
－	准教授	有田　直子	看護コンサルテーション論、小児看護方法論、小児看護学実践演習ほか
－	准教授	小澤　若菜	地域ケア研究
－	准教授	川上　理子	在宅看護方法論、在宅看護展開論、在宅看護学実践演習ほか
－	准教授	田代　真理	緩和ケア特論、がん看護学実践演習、がん看護ケア研究
－	准教授	中井　寿雄	環境衛生看護セミナー、災害看護管理セミナー、災害・国際看護ケア研究
－	准教授	畠山　卓也	精神看護対象論、精神看護実践演習、精神看護ケア研究ほか
－	准教授	村川　由加理	クリティカルケア看護方法論、クリティカルケア看護学実践演習ほか
－	准教授	森下　幸子	在宅療養診断治療学、在宅リエゾン看護論、在宅リエゾン看護演習、在宅看護学実践演習
－	准教授	小林　秀行	看護情報学Ⅰ・Ⅱ
－	講 師	岩﨑　順子	女性健康支援論、子育て包括ケアシステム論、母性・助産看護ケア研究

○看護学研究科看護学専攻 （博士後期課程）

領 域	職 名	氏　名	主たる担当科目
－	教 授	青木　早苗	がん看護学Ⅰ・Ⅱ
－	教 授	畦地　博子	理論看護学Ⅰ、看護学研究方法Ⅰ、インディペンデントスタディ、共創看護学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究
－	教 授	池添　志乃	理論看護学Ⅰ、学校保健学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究
－	教 授	内田　雅子	成人看護学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究
－	教 授	瓜生　浩子	看護倫理学、家族看護学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究
－	教 授	大川　宣容	成人看護学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究
－	教 授	木下　真里	プロフェッショナルライティング、インディペンデントスタディ、災害・国際看護学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究
－	教 授	久保田　聰美	インディペンデントスタディ、看護経営管理学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究
－	教 授	田井　雅子	インディペンデントスタディ、精神看護学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究
－	教 授	竹﨑　久美子	老人看護学Ⅰ・Ⅱ
－	教 授	長戸　和子	インディペンデントスタディ、家族看護学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究
－	特任教授	中野　綾美	看護学研究方法Ⅰ、小児看護学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究
－	特任教授	藤田　佐和	看護倫理学、看護学特別研究

○看護学研究科共同災害看護学専攻 （博士課程）

領 域	職 名	氏　名	主たる担当科目
－	教 授	木下　真里	インターンシップⅠ・Ⅱ、インディペンデントスタディ、博士論文

○人間生活学研究科人間生活学専攻 （博士前期課程）

領 域	職 名	氏 名	主たる担当科目
基 礎	教 授	石山 貴章	教育心理学特論
基 礎	教 授	鈴木 康郎	教育学特論
基 礎	准教授	秋谷 公博	地域資源論
栄養・生活学	教 授	小林 淳	研究方法論Ⅰ、栄養生活統計論、環境生態論、栄養・生活学課題研究演習
栄養・生活学	教 授	近藤 美樹	調理科学特論、実践栄養学特論、栄養・生活学課題研究演習
栄養・生活学	教 授	渡邊 浩幸	研究方法論Ⅰ、食品生化学特論、食品製造学特論、食物科学実践演習、栄養・生活学課題研究演習
栄養・生活学	准教授	島田 郁子	災害栄養フード・アセスメント論、栄養・生活学課題研究演習
栄養・生活学	准教授	鈴木 麻希子	研究方法論Ⅰ、栄養学特論、栄養・生活特論、栄養・生活学課題研究演習
栄養・生活学	准教授	竹井 悠一郎	研究方法論Ⅰ、臨床栄養学特論、栄養・生活特論、栄養・生活学課題研究演習
栄養・生活学	講 師	隅田 有公子	実践栄養学特論
栄養・生活学	講 師	竹本 和仁	食品生化学特論
栄養・生活学	講 師	村井 詩子	栄養疫学論
社会福祉学	教 授	杉原 俊二	研究と倫理、児童支援福祉論、家族支援福祉論、社会福祉学課題研究演習
社会福祉学	教 授	田中 きよむ	社会保障論、福祉行財政論、地域福祉論、地域福祉政策論、社会福祉学課題研究演習
社会福祉学	教 授	長澤 紀美子	国際福祉論、多文化福祉論、社会福祉学課題研究演習
社会福祉学	教 授	西内 章	研究方法論Ⅱ、ソーシャルワーク論、高齢者福祉論、社会福祉学課題研究演習
社会福祉学	教 授	西梅 幸治	研究方法論Ⅱ、社会福祉原論、ソーシャルワーク論、社会福祉学課題研究演習
社会福祉学	教 授	矢吹 知之	研究方法論Ⅱ、認知症ケア論、社会福祉学課題研究演習
社会福祉学	准教授	加藤 由衣	研究方法論Ⅱ、ソーシャルワーク論
社会福祉学	准教授	河内 康文	研究方法論Ⅱ、介護福祉論
社会福祉学	准教授	辻 真美	研究方法論Ⅱ、介護福祉論
社会福祉学	准教授	遠山 真世	研究方法論Ⅱ、障害者福祉論、データ解析論、社会福祉学課題研究演習
社会福祉学	准教授	福間 隆康	研究方法論Ⅱ、福祉マネジメント論、社会福祉学課題研究演習
文化学	教 授	飯髙 伸五	研究方法論Ⅲ、観光文化論Ⅰ
文化学	教 授	五百藏 高浩	英語文化論Ⅰ、文化学課題研究演習
文化学	教 授	岩倉 秀樹	地域文化論Ⅰ
文化学	教 授	宇都宮 千穂	地域文化論Ⅲ、文化学課題研究演習
文化学	教 授	金澤 俊吾	英語言語文化論特論Ⅰ、文化学課題研究演習
文化学	教 授	菊池 直人	地域文化論Ⅱ
文化学	教 授	白岩 英樹	英語文化論Ⅱ、英語言語文化論特論Ⅱ
文化学	教 授	高西 成介	文学Ⅰ・Ⅲ
文化学	教 授	鳥飼 真人	研究方法論Ⅲ、英語文化論Ⅲ
文化学	教 授	橘尾 直和	研究方法論Ⅲ、日本文化論Ⅰ、日本語文化論
文化学	教 授	三浦 要一	観光文化論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、文化学課題研究演習
文化学	教 授	ヨース・ジョエル	日本文化論Ⅰ・Ⅱ、国際日本学、文化学課題研究演習

○人間生活学研究科人間生活学専攻 （博士後期課程）

領 域	職 名	氏 名	主たる担当科目
栄養・生活学	教 授	小林 淳	研究デザイン、環境生態学、栄養・生活学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
栄養・生活学	教 授	近藤 美樹	研究デザイン、人間栄養学、、栄養・生活学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
栄養・生活学	教 授	渡邊 浩幸	研究倫理、食品機能学、栄養・生活学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
栄養・生活学	准教授	竹井 悠一郎	研究倫理、臨床病態栄養学
社会福祉学	教 授	杉原 俊二	研究デザイン、研究倫理、障害者福祉学、児童・家族福祉学、社会福祉学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
社会福祉学	教 授	長澤 紀美子	研究デザイン、国際福祉政策学、社会福祉学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
社会福祉学	教 授	西内 章	研究倫理、地域ソーシャルワーク学、社会福祉学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
社会福祉学	教 授	西梅 幸治	研究倫理
社会福祉学	教 授	矢吹 知之	研究デザイン、介護福祉学
文化学	教 授	五百藏 高浩	研究倫理、言語文化学Ⅰ・Ⅱ、文化学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
文化学	教 授	三浦 要一	研究デザイン、地域文化学Ⅰ・Ⅱ、文化学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

（3）非常勤講師・臨床教授・客員教授

	職　名	氏　　名	担当科目
文化学部	非常勤講師	安藤　麻貴	フランス語基礎Ⅰ・Ⅱ、異文化理解Ⅰ
		石井　達也	言語学概論
		池　純子	中国語基礎Ⅰ・Ⅱ
		大谷　俊彦	書　道
		大槻　知史	地域防災論
		大村　誠	観光と自然環境
		小長谷　悠紀	観光まちづくり論Ⅱ
		酒井　麻依子	文化哲学、公共哲学
		佐藤　洋子	男女共同参画社会論
		シュテファン・フーク	ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ
		溜　和敏	国際関係論
		渡部　淳	日本文化論
看護学部	非常勤講師	赤松　正規	心のしくみ
		新　良治	病態と治療Ⅱ
		今井　利	病態と治療Ⅰ
		上野　晃子	助産診断論
		浦田　知之	病態と治療Ⅰ
		浦田　奈生子	小児と疾患
		戎　正司	心のしくみ
		大上　賢祐	病態と治療Ⅰ
		岡林　雄大	病態と治療Ⅱ
		岡本　宣人	病態と治療Ⅱ
		尾崎　和秀	病態と治療Ⅱ
		小野　憲昭	医療と経営
		尾原　義和	病態と治療Ⅰ
		數井　裕光	心のしくみ
		北浦　暁子	看護と政策
		金澤　亜錦	小児と疾患
		川瀬　史愛	病態と治療Ⅲ
		川原　由佳里	医療史
		熊田　孝恒	行動科学
		小島　研介	病態と治療Ⅰ
		小松　淳子	病態と治療Ⅲ、助産学
		小松　利広	微生物学
		佐々木　潔	小児と疾患
		澤田　健	心のしくみ
		塩田　さあや	助産診断論
		清水　孝洋	薬理学
		十萬　敬子	医療と経営
		高橋　美枝	病態と治療Ⅰ
		田口　崇文	病態と治療Ⅱ
		田鍋　雅子	医療と経営
		谷口　睦男	人体の機能Ⅰ、人体の機能Ⅱ
		田村　昌也	病態と治療Ⅰ
		土山　芳徳	病態と治療Ⅱ
		土井　彰	病態と治療Ⅰ
		中田　裕生	小児と疾患
		永野　志歩	心のしくみ
		難波　孝臣	病態と治療Ⅲ
		西内　律雄	小児と疾患、病態と治療Ⅱ
		西岡　明人	医療と経営
		林　和俊	医療と経営
		東　洋一郎	薬理学
		日高　千晴	人体の構造Ⅰ、人体の構造Ⅱ
		平野　世紀	病態と治療Ⅱ
		福井　直樹	病態と治療Ⅰ
		藤田　博一	心のしくみ
		藤戸　良子	心のしくみ
		松本　務	在宅医療
		三浦　悠作	病態と治療Ⅰ
		宮澤　真理	小児と疾患

	職　名	氏　　名	担当科目
看護学部	非常勤講師	宮本　寛	在宅医療
		森田　啓史	心のしくみ
		森本　徳仁	微生物学
		山根　真由香	病態と治療Ⅰ
		山本　寄人	病態と治療Ⅲ
		渡邊　理史	助産学、病態と治療Ⅲ
	臨床教授	小野　憲昭	臨床講義
		小松　ゆり	臨床講義
		酒井　美枝	臨床講義
		澁谷　祐一	臨床講義
		田上　豊資	臨床講義
		田鍋　雅子	臨床講義
		豊田　誠	臨床講義
		西岡　明人	臨床講義
		野中　真澄	臨床講義
		林　和俊	臨床講義
		原田　千枝	臨床講義
		山本　克人	臨床講義
社会福祉学部	非常勤講師	奥谷　文乃	医学概論
		加藤　誠之	更生保護制度
		関　草路	生活支援技術Ⅳ
		玉里　恵美子	社会学と社会システム
		山﨑　正雄	精神医学
健康栄養学部	非常勤講師	秋山　純和	生体科学実験・実習
		片山　訓博	運動生理学
		河野　俊夫	フードシステム学
		菅沼　成文	疾病論
		田中　健二朗	人体の構造と機能
		田村　太朗	疾病論
		森部　玲子	疾病論
	客員教授	宮澤　公栄	国際食品安全学
共通教育	非常勤講師	有川　幹彦	基礎生物学
		一色　健司	科学と人間、基礎化学
		大村　誠	自然災害と防災の科学
		片田　一義	英語コミュニケーション
		北川　泰生	英語コミュニケーション
		神門　大輔	健康スポーツ科学
		佐野　泰之	哲学、倫理学
		サイモン・クインラン	英語コミュニケーション
		ジェフリー・マ	英語コミュニケーション
		ジョナサン・ヘルムリンガー	英語コミュニケーション
		ショーン・バーゴイン	英語コミュニケーション
		ズハル・オヴシアンニコウ	英語コミュニケーション
		デイナ・リングリィ	英語コミュニケーション
		中嶋　紀子	英語コミュニケーション
		野中　陽一朗	心理学
		廣内　智子	土佐の食と健康
		福住　紀明	心理学
		ヘルムリンガー・麻美	英語コミュニケーション
		前田　綾子	土佐の自然と暮らし
		松吉　明子	英語コミュニケーション
		ミケランジェロ・マガシク	英語コミュニケーション
		宮本　隆信	健康スポーツ科学
		森田　昌吾	英語コミュニケーション
		谷地森　秀二	土佐の自然と暮らし
		山本　英作	健康スポーツ科学
		李　賢珠	英語コミュニケーション
教職課程	非常勤講師	岡谷　英明	教育課程論
		鹿嶋　真弓	特別活動論
		山中　孝一	情報通信技術を活用した教育の理論と方法

	職　名	氏　　名	担当科目
看護学研究科看護学専攻（博士前期課程）	非常勤講師	石田　智滉	臨床薬理学
		石松　一真	最新専門看護実践講座Ⅰ
		浦田　奈生子	小児診断治療学Ⅱ
		戎　正司	精神診断治療学Ⅰ
		大江　理英	最新専門看護実践講座Ⅰ
		大村　誠	環境防災学
		岡田　俊	精神診断治療学Ⅰ
		尾形　裕也	保健医療政策と経済Ⅰ
		岡本　宣人	慢性疾患診断治療学Ⅱ
		尾原　義和	慢性疾患診断治療学Ⅱ
		掛田　恭子	がん薬理学
		金澤　亜錦	小児診断治療学Ⅱ
		川原　由佳里	看護学の動向と展望
		川本　美香	最新専門看護実践講座Ⅱ
		北岡　智子	がん薬理学
		熊田　孝恒	学際的研究方法
		齋坂　雄一	クリティカルケア診断治療学Ⅰ、家族看護対象論
		常風　興平	がん薬理学、臨床薬理学
		瀬戸 奈津子	保健医療政策と経済Ⅱ
		谷村　正信	老年病診断治療学Ⅱ、在宅療養診断治療学Ⅱ
		中田　裕生	小児診断治療学Ⅱ

	職　名	氏　　名	担当科目
看護学研究科看護学専攻（博士前期課程）	非常勤講師	西内　律雄	小児診断治療学Ⅱ
		任　和子	看護学の動向と展望
		濱田 暁	クリティカルケア診断治療学Ⅰ
		浜田　幸宏	がん薬理学、臨床薬理学
		藤田　冬子	最新専門看護実践講座Ⅰ
		光岡　妙子	がん薬理学
		宮澤　真理	小児診断治療学Ⅱ
		盛實　篤史	クリティカルケア診断治療学Ⅰ
		八木　祐助	臨床薬理学
		柳林　信彦	看護教育論Ⅰ
		吉沢　豊子	最新専門看護実践講座Ⅱ
		ランドゥ　ガツ　ロジャー	グローバルヘルス論
看護学研究科看護学専攻（博士後期課程）	非常勤講師	大田 えりか	国際看護学
		川口 孝泰	イノベーション看護学
		近藤 麻理	国際看護学
		真田 弘美	イノベーション看護学
		西村 ユミ	理論看護学Ⅱ
人間生活学研究科人間生活学専攻（博士前期課程）	非常勤講師	一色　健司	データ解析論
		小島　優子	ジェンダー論
		横井　輝夫	福祉リハビリテーション論

Ⅳ　教育及び研究

1　学部・大学院の概要（3つの方針）

【 学　部 】

○文化学部

ディプロマ・ポリシー

人文・社会系諸科学の知識を身につけ、多様な社会や文化を理解し、豊かな共生社会の実現、新たな文化の創造及び自律した自己の成長を追求することを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

（知識・理解）

1. 幅広い教養と人文・社会系諸科学の基本的な知識を身につけ、多様な文化に関して多角的な視点から理解することができる。
2. 言語文化系と地域文化創造系を中心とする人文・社会系諸科学の専門的知識を体系的に理解し、その知識体系を自らの問題意識の中に位置づけることができる。

（汎用的・実践的技能）

3. 社会や文化に関する深い洞察に基づいて、日本語や外国語による高度な文章表現能力・他者との円滑なコミュニケーション能力・グローバルな情報発信能力を身につけている。
4. 必要な情報を幅広く収集し、的確に整理・分析することを通じて、その問題を解決できる能力を身につけている。

（態度・志向性）

5. 豊かな共生社会の実現に向けて、能動的かつ自律的に地域社会・国際社会の諸問題の解決に取り組むことができる。
6. 社会や文化に深い関心を持ち、生涯にわたって学び、考えていく意欲を持っている。

（総合的な学習経験と創造的思考力）

7. これまでに体得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自由な発想のもとで新たな文化を創造することに貢献するとともに、自律した個人としての自己の成長を追求することができる。

カリキュラム・ポリシー

文化学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1. 共通教養教育科目

(1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル（リテラシー科目）、数理・データサイエンス・人工知能（AI）の基礎的な知識・技能（データサイエンス科目）、諸科学の基本的な知識（教養基礎科目）、地域社会や国際社会の課題（課題別教養科目）、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能（健康スポーツ科目）、地域課題への実践的取り組み（域学共生科目）を学ぶ科目群を設置する。

(2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。

(3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

2. 専門教育科目

専門教育科目には、学部共通科目と学部専門科目を置く。

(カリキュラムの構造・教育内容)

(1) 学部での学びの基礎的能力及びコミュニケーション能力を身につけるためのリテラシー科目、学部教育の基礎となる知識を身につけるためのエッセンシャル科目、就業力を高めるためのキャリア形成科目から成る学部共通科目を設置する。

(2) 人文・社会系諸科学の専門的知識を幅広くかつ体系的に体得するために、言語文化系(英語学領域、国際文化領域、日本語学領域、日本文学領域)、地域文化創造系(地域文化領域、地域づくり領域、観光文化領域、観光まちづくり領域、現代法文化領域、生活法文化領域)、文化総合系(言語文化系及び地域文化創造系の教育内容を総合的に学ぶ)の3つの系から成る学部専門科目を設置する。

(3) 専門的な知識・理解をより深め、専門的な研究手法を学ぶために各領域に専門演習を設置し、また、学部教育で体得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、必要な情報の収集とその的確な整理・分析を通じて、能動的かつ自律的に現代社会の諸問題を発見し、これを解決する能力を養うために課題研究ゼミナールを設置する。

(4) この他、中学校・高等学校(国語、英語)の教職課程を設置する。

(履修方法・順序)

学部共通科目は、主に1、2年次に履修する。学部専門科目は、主に2～4年次に履修する。各領域の専門演習及び課題研究ゼミナールは、3、4年次に履修する。

(教育方法)

(1)『文化学部カリキュラム構成図』『文化学部カリキュラム・ツリー』『文化学部履修モデル』を提示し、履修指導を行う。

(2) 学部共通科目及び学部専門科目では、学生が能動的に学習するよう多様な教育方法を取り入れる。学部共通科目の基礎演習、各領域の専門演習及び課題研究ゼミナールは、少人数による演習形式で行い、課題研究ゼミナールでは学部教育の集大成として卒業研究を仕上げる。

(評価)

学部のディプロマ・ポリシーに基づいて各授業科目の達成目標を定め、達成目標及び成績評価の基準・方法を学生に周知し、それに基づいて成績評価を行う。さらに学生による教育に関する評価結果も踏まえて、カリキュラムの評価・改善を図り、教育の質の保証に努める。

アドミッション・ポリシー

文化学部は、人文・社会系諸科学による多角的な文化研究により人間・社会に対する理解を深め、文化の批判的継承を通して豊かな人間性と主体的に行動し得る能力を培い、地域文化の創造と向上に資するとともに、真に豊かな共生社会の実現に向けて国際的に貢献できる市民を養成します。

したがって、文化学部では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 人文・社会系諸科学を理解する上で必要な基礎的素養、すなわち高等学校等で履修する主要な教科に関する十分な基礎学力を有している人〔知識・理解力〕
2. 高等学校等で履修した幅広い基礎的素養を基に、物事を論理的に思考・判断し、これを言語によって適切に表現する能力を備えている人〔思考力・判断力・表現力〕
3. 人間・社会に広く関心を持ち、言語、地域、観光、法学などの視点から人文・社会系諸科学の専門的知識を身につけたいと考えている人〔関心・意欲・主体性・協働性〕
4. 人間に対する理解を深め、実践的なコミュニケーション能力を体得し、現代社会の諸課題を主体的に発見・分析・解決するために必要な学習に意欲のある人〔関心・意欲・主体性・協働性〕
5. 将来、地域社会・国際社会の幅広い分野で豊かな共生社会の実現に向けて活動したいと考えている人〔関心・意欲・主体性・協働性〕

入学者選抜の基本方針

■文化学部[言語文化系／地域文化創造系]が行う入学者の選抜方法には、一般選抜（前期日程・後期日程）、学校推薦型選抜（県内・全国）、社会人選抜、私費外国人留学生選抜、3年次編入学選抜があります。

・一般選抜（前期日程）

大学入学共通テストと小論文を課します。大学入学共通テストでは、基礎学力を把握するため、国語、外国語及び受験者が自由に選択できる1教科の計3教科3科目を課します。小論文では、高等学校等での基礎学力を前提に、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力、併せて英語の読解力、表現力を総合的に評価します。

・一般選抜（後期日程）

大学入学共通テストと面接を課します。大学入学共通テストでは、基礎学力を把握するため、国語、英語及び受験者が自由に選択できる1教科の計3教科3科目を課します。面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は調査書も参考にして質問します。

・学校推薦型選抜（県内・全国）

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、小論文と面接を課します。小論文では、高等学校等での基礎学力を前提に、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、課題に対する基礎的知識を総合的に評価します。面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は、調査書・推薦書も参考にして質問します。

・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力、併せて英語の読解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、日本留学試験と面接を課します。日本留学試験では、文化学部で学ぶ上で必要な基礎的能力を評価します。面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は、志望動機書も参考にして質問します。

・3年次編入学選抜

小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力、併せて英語の読解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容、TOEIC の結果も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

■文化学部[文化総合系(夜間主コース)]が行う入学者の選抜方法には、学校推薦型選抜(県内)、社会人選抜、3年次編入学選抜があります。

・学校推薦型選抜(県内)

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、面接を課します。口頭試問を含む面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は、調査書・推薦書・志望動機書も参考にして質問します。

・社会人選抜(A日程・B日程)

社会人経験を有する者又は就業しながら勉学する意思がある者を対象として、小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

・3年次編入学選抜

小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

○看護学部

ディプロマ・ポリシー

看護学部は、豊かな人間性と社会の課題に取り組む態度を身につけ、看護の理念や専門的知識・技術、ヒューマニズムを礎として、将来に向かって拓かれた看護を構築し、健康問題を人々と共に解決し、人々の健康生活の創造に貢献ができる豊かな人間性・創造性を獲得することを目指し、以下の能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

（知識・理解）

1. 専門的知識に基づいて、看護の対象を人間、健康・環境・生活の視点から包括的に理解することができる能力を有している。

（汎用的・実践的技能）

2. 個人−家族−地域社会のダイナミズムのなかで、健康課題の解決に向けて看護を実践することができる能力を有している。
3. 保健・医療・福祉などのあらゆる場で、リーダーシップを発揮して多職種と協働することができる基礎的能力を有している。

（態度・志向性）

4. 人間の多様な生き方や価値観を理解し、尊厳と権利を擁護して看護の対象となる人々と関係性を築くことができる能力を有している。

（総合的な学習経験と創造的思考力）

5. 看護専門職者として生涯にわたって研究的視点をもって看護の本質を探究し、専門性を高めることができる基礎的能力を有している。
6. 国際的・学際的見地に立って人々の健康と安全・安心な暮らしを支える看護を創造することができる基礎的能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

看護学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1. 共通教養教育科目

(1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル（リテラシー科目）、数理・データサイエンス・人工知能（AI）の基礎的な知識・技能（データサイエンス科目）、諸科学の基本的な知識（教養基礎科目）、地域社会や国際社会の課題（課題別教養科目）、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能（健康スポーツ科目）、地域課題への実践的取り組み（域学共生科目）を学ぶ科目群を設置する。
(2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。
(3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。
(4) 共通教養教育科目により、看護の対象である人間を総合的に理解し、グローバルにものごとや社会を捉える能力、豊かな人間性と感受性を培う。

2. 専門教育科目

専門教育科目は、看護を展開する上で必要となる専門的知識、技術、科学的思考、問題解決能力、国際性・学際性を修得するために、「専門基礎科目」「看護基礎科目」「看護臨床科目」「総合科目」を置く。

（カリキュラムの構造・教育内容）

(1) 専門基礎科目は、人間の健康と疾病の成り立ちや治療に関する専門的知識や、個人・家族・地域の連続性の中で人々の健康を理解するための知識の修得を目指した科目を置く。

(2)看護基礎科目は、看護学の概念や基礎的な知識を学び、看護の対象理解、看護者としてのものの見方や考え方、看護技術の修得を目指した科目を置く。
(3)看護臨床科目は、共通教養教育科目、専門基礎科目、看護基礎科目での学びを基盤とする人間の総合的な理解をふまえ、人々の多様な生き方や価値観を理解し、尊厳と権利を尊重しながら、科学的思考、問題解決能力を用いて健康問題を解決し、健康的な生活の向上をはかるための看護を展開する能力を養うことを目指した科目を置く。
(4)総合科目は、看護専門職者としてのアイデンティティを培うとともに、地域の健康課題を予測し、主体的、積極的に学ぶ姿勢を持ち、国際的・学際的見地に立って、研究的な視点で看護の本質を探究していく基礎的能力を養うための科目を置く。

(履修方法・順序)
(1)入学後早期より、看護学への関心を高め、専門的知識と技術を修得するための看護基礎科目と、看護の対象である人間を理解する基礎となる知識を修得するための専門基礎科目を平行して学びながら、学年進行に従って基礎から応用へと専門性を深めることができる構成とする。
(2)看護基礎科目、専門基礎科目を基盤として、人間の発達段階や健康レベル、個と集団など多様な対象への看護を展開する能力を修得するために、看護臨床科目では各専門領域の看護に関する知識と技術を学び、臨地実習科目で応用、統合できる構成とする。
(3)学内で学んだ知識、技術を体系的に実践に活かすことができるように、臨地実習科目の履修にあたっては、履修要件を設ける。
(4)看護専門職者として主体的に学ぶ姿勢と倫理観を養うことができるように、4年間を通して、総合科目を配置する。また、4年次には、看護基礎科目、専門基礎科目、看護臨床科目での学修を通して学んだ知識と技術を統合し、より深い専門性と看護の本質を探究する能力を修得できるように、総合看護実習や看護研究などの総合科目を配置する。

(教育方法)
(1)本学部のディプロマ・ポリシーに沿う能力を、学生が将来を見据えて修得できるように、『看護学部のカリキュラム構成図』『看護学部カリキュラム・ツリー』『看護学部履修モデル』を提示し、履修指導を行う。
(2)本学部のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生が修得できるように、多彩な教育方法を用いる。事前課題、事後課題、グループワーク、グループ討議、アクティブラーニング等により、学生が主体的に学ぶ方法を取り入れる。さらに、学生が知識を活用して分析し判断する力、知識と技術を統合し適切な看護ケアを考え実践する能力を高めるために、シミュレーション教育、少人数教育を行う。科学的論理的思考、新たな看護の知を創造する力を養うために、グループで看護研究を行う。また、学生が主体的に自己学習できるように、教育環境を整える。

(評価)
各講義科目・演習科目・実習科目では、本学部のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標及び成績評価の方法・基準を、授業概要・実習要項により周知し、評価を行う。卒業時には、ディプロマ・ポリシーに基づいて評価を行う。さらに学生によるカリキュラム評価を行い、その結果に基づいて、カリキュラムの評価・改善を図り、教育の質の保証を行う。

アドミッション・ポリシー

看護学部は、豊かな人間性と社会の課題に取り組む態度を身につけ、看護の理念や専門的知識・技術、ヒュ

ーマニズムを礎として、将来に向かって拓かれた看護を構築し、健康問題を人々と共に解決し、人々の健康生活の創造に貢献ができる豊かな人間性・創造性を持った人材を養成します。

したがって、看護学部では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 幅広い文系・理系の基礎的学力をもつ人〔知識・教養〕
2. 人間、生活、社会を深く理解する力をもつ人〔思考力・判断力〕
3. ものごとを論理的に考える力をもつ人〔思考力・判断力〕
4. 生涯にわたって学び続ける力をもつ人〔関心・意欲〕
5. 自分で課題を発見し、計画を立て積極的に取り組む力をもつ人〔主体性〕
6. 他者を尊重し、協働してものごとに取り組む力をもつ人〔実行力・協働性〕

入学者選抜の基本方針

看護学部が行う入学者の選抜方法には、一般選抜（前期日程・後期日程）、学校推薦型選抜（県内・全国）、社会人選抜、私費外国人留学生選抜があります。

・一般選抜（前期日程）

大学入学共通テストにより看護学を学ぶ上で必要な基礎的学力を、個別学力検査等（小論文、面接）により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

・一般選抜（後期日程）

大学入学共通テストにより看護学を学ぶ上で必要な基礎的学力を、個別学力検査等（面接）により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

・学校推薦型選抜（県内・全国）

学校長が推薦する者を対象として、小論文と面接により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性を総合的に評価します。面接者は、調査書・推薦書も参考にして質問します。

・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、小論文と面接により看護を学ぶ上で必要な基礎的学力と、人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性と、社会的経験を通して培った能力を総合的に評価します。面接者は、志望動機書も参考にして質問します。

・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、日本留学試験により日本の大学で看護学を学ぶ上で必要な日本語能力と基礎的学力を、小論文と面接により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性と日本語による口頭でのコミュニケーション能力を総合的に評価します。

○社会福祉学部

ディプロマ・ポリシー

共生社会を志向する市民としての素養を基礎に、社会福祉専門職として必要な価値・知識・技術を獲得することを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

（知識・理解）

1. 現代社会で暮らす人々のニーズに対応する幅広い教養を基盤として、社会福祉の専門的知識を体系的に理解することができる。
2. 人々の生活を人間と環境の両側面から理解し、個々におかれている状況から普遍的な福祉課題までに対応する実践的な知識を身につけている。

（汎用的・実践的技能）

3. 多様化・複雑化する福祉ニーズを科学的視点で捉え、個人が抱えている課題を社会との関係において把握することができる。
4. コミュニケーションスキルを用いて、福祉課題の解決に必要な情報を収集・分析し、複眼的・論理的に検討したうえで、課題解決の方策を提案することができる。

（態度・志向性）

5. 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、人々の生活の安寧と質の向上に貢献することができる。
6. ノーマライゼーションを基本的視点として、人権や社会正義の観点から福祉課題に主体的に対応する志向性を身につけている。

（総合的な学習経験と創造的思考力）

7. 個人の尊厳と福祉理念を重視し、権利擁護に向けた支援を創造的・科学的に展開することができる。
8. 総合的な視野を持って、保健・医療・福祉の専門職と連携しながら社会福祉を実践することを通して、専門職としての自己の成長を追求することができる。

カリキュラム・ポリシー

社会福祉学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1. 共通教養教育科目

(1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル（リテラシー科目）、数理・データサイエンス・人工知能（AI）の基礎的な知識・技能（データサイエンス科目）、諸科学の基本的な知識（教養基礎科目）、地域社会や国際社会の課題（課題別教養科目）、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能（健康スポーツ科目）、地域課題への実践的取り組み（域学共生科目）を学ぶ科目群を設置する。

(2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。

(3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

2. 専門教育科目

（カリキュラムの構造・教育内容）

専門教育科目については、ソーシャルワークを基礎として、介護福祉や精神保健福祉分野にも関連する人権や社会正義の価値に裏打ちされた社会福祉学の専門的及び実践的な知識・技術を修得するために11科目群を設定している。科目群を構成する科目については、基礎から応用・発展段階へと連続的に配置している。

基礎段階では、11科目群のうち、「基本科目」・「社会福祉制度科目」・「からだとこころの理解科目」を置いている。基礎及び応用段階に属する科目群として、「ソーシャルワーク基礎科目」・「介護福祉理解科目」を置いている。加えて応用段階では、科目群として、「地域・国際福祉科目」・「社会復帰支援科目」を置いている。応用及び発展段階に属する科目群として、「ソーシャルワーク実践科目」・「介護福祉実践科目」・「精神保健福祉実践科目」・「総合科目」を置いている。

（履修方法・順序）

基礎段階の科目は、主に1～2年次に履修する。応用段階の科目は、主に2～3年次に履修する。発展段階の科目は、主に3～4年次に履修する。また、社会福祉領域におけるソーシャルワークに必要な知識と技術を担保する前提となる資格として、社会福祉士国家試験受験資格を位置づけており、加えて、希望により介護福祉士国家試験受験資格又は精神保健福祉士国家試験受験資格も取得することができる。

（教育方法）

(1)『社会福祉学部カリキュラム構成図』『社会福祉学部カリキュラム・ツリー』『社会福祉学部履修モデル』を提示し、履修指導を行う。

(2)各科目については、事前・事後課題、グループ討議、リアクションペーパーなどを取り入れ、アクティブラーニングを重視した教育方法により展開する。特に応用段階及び発展段階の各科目では、基礎段階で学んだ知識・技術を定着・深化させ、専門職としての社会福祉実践に求められる総合的な知識・技術や社会福祉学を探究する力を身につけるために、少人数での演習・実習形式を積極的に取り入れる。

（評価）

学部のディプロマ・ポリシーに基づいて各授業科目の具体的な到達目標を定め、成績評価の基準・方法と共に学生に周知している。各段階及び各科目の特性に応じた多面的な評価方法を取り入れ、社会福祉専門職にふさわしい資質能力を獲得できたかについて、科目ごとに定める評価項目と基準に沿った成績評価を行う。さらに学生による教育に関する評価結果に基づいて、カリキュラムの改善を図り、教育の質の保証を行う。

アドミッション・ポリシー

社会福祉学部は、福祉の現代的課題に対応する、深い人間理解や人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識と実践的知識と実践的技能を教授研究することにより、共感する心と豊かな人間性をもって、社会生活で生じるさまざまな問題に主体的に対応できる福祉的実践能力を修得させ、社会の幅広い分野で福祉の向上に寄与できる有為な人材を養成します。

したがって、社会福祉学部では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 高等学校等で学ぶ基本的な科目の学力を有する人〔知識・教養〕
2. 人に対して関心を持ち、協調性を大切にして柔軟に行動できる人〔思考力・判断力・表現力〕
3. 自ら行動することによって、課題の発見や分析を行うことができる人〔思考力・判断力・表現力〕

4. 地域や家族の福祉課題に関心を持ち、その解決方法を学びたい人〔熱意・意欲〕
5. 他者と協働して、人々の生活を支え、よりよい地域社会を創造したい人〔熱意・意欲、主体性・協働性〕

入学者選抜の基本方針

社会福祉学部が行う入学者の選抜方法には、一般選抜（前期日程・後期日程）、学校推薦型選抜（県内・全国）、社会人選抜、私費外国人留学生選抜があります。

・一般選抜（前期日程）

基礎学力の把握のため、学部が指定する大学入学共通テスト教科・科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、課題図書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

・一般選抜（後期日程）

基礎学力の把握のため、学部が指定する大学入学共通テスト教科・科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、自己 PR 書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

・学校推薦型選抜（県内・全国）

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、当日指定するテーマに関するレポート及び集団討論、面接を行います。レポートでは、知識、思考力、表現力等を評価します。集団討論では、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度等を評価します。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書・志望動機書・推薦書も参考にして質問します。

・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、小論文と面接を課します。小論文では、社会福祉学部で学ぶ上で必要な理解力、論理的思考力、文章表現力及び英文読解力等、高等学校等での学習を前提にした基礎的な学力を総合的に評価します。面接は、志望動機書及び履歴書を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。

・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、日本留学試験の日本語と総合科目を課すとともに、面接を行います。面接は、志望動機書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲や日本語によるコミュニケーション能力を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。

○健康栄養学部

ディプロマ・ポリシー

豊かな教養と社会の諸問題に取り組む態度を身につけ、人間や健康の本質を理解しながら、生命の源である「食」を探究し、人々が健康に生活できるよう貢献できることを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

（知識・理解）

1. 広範な学問領域における教養を身につけることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域社会の特性を理解することができる。
2. 健康の保持増進、傷病の予防・回復のために必要な栄養学的知識と技術、指導方法を修得している。

（汎用的・実践的技能）

3. 地域を取りまく諸問題の解決に必要な情報を収集・分析・整理して、提案することができる。
4. 管理栄養士に必要とされる知識、技能、態度及び考え方の総合的能力を身につけている。

（態度・志向性）

5. 栄養や食生活の専門家として、知識や技術を高めるよう生涯にわたって努力することができる。

（総合的な学習経験と創造的思考力）

6. 公衆衛生を理解し、保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養・給食関連サービスのマネジメントを行うことができる。
7. 健康の保持増進、疾病の一次、二次、三次予防のための栄養教育、食生活指導を行うことができる。

カリキュラム・ポリシー

健康栄養学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1. 共通教養教育科目

(1)共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル（リテラシー科目）、数理・データサイエンス・人工知能（AI）の基礎的な知識・技能（データサイエンス科目）、諸科学の基本的な知識（教養基礎科目）、地域社会や国際社会の課題（課題別教養科目）、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能（健康スポーツ科目）、地域課題への実践的取り組み（域学共生科目）を学ぶ科目群を設置する。

(2)英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。

(3)可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

2. 専門教育科目

国際性及び社会性を持った管理栄養士を養成するために、「基礎科目」「専門基礎分野」「専門分野」の3科目群を置く。それぞれの科目群を構成する科目については、基礎から応用・発展段階へと連続的に配置する。

（カリキュラムの構造・教育内容）

(1)基礎科目の科目については、他の専門教育科目を履修する上で必要な予備知識や基礎学力を向上させる

ための補完科目として設置する。
(2)専門基礎分野の科目については、専門分野における知識や技術を修得するための基盤を身につけるために設置する。専門基礎分野を3つの科目群に分け、それぞれ「社会・環境と健康」「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」「食べ物と健康」を教育内容として位置づける。「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」と「食べ物と健康」の科目群によって、人間や生活についての理解を深めさせ、「社会・環境と健康」の科目群によって、社会や環境、健康と食生活について理解させる。
(3)専門基礎分野の中に、それぞれの教育内容の理解を深めるとともに必要な技能を修得することを目的として、「実験・実習」科目を設置する。
(4)専門分野の科目については、様々な領域において管理栄養士や栄養教諭としての専門性を高めるために設置する。専門分野を主に6つの科目群に分け、それぞれ「基礎栄養学」「応用栄養学」「栄養教育論」「臨床栄養学」「公衆栄養学」「給食経営管理論」を教育内容として位置づけるとともに、専門分野を横断して、栄養評価や栄養管理が行える総合的な能力を養うことを目的とした「総合演習」科目を設置する。
(5)専門分野の中に、管理栄養士として必要な技能を修得することを目的として、「実験・実習」科目を設置する。
(6)専門分野の「実験・実習」科目の中に「臨地実習」科目を設置し、実践活動の場で課題を発見し、それを解決することを通して、他者とのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけるとともに、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。
(7)この他、企業や公共団体等において、その事業内容に応じた社会体験を行う「企業実習」と、一連の研究プロセスを経験することで、課題を解決する能力を身につけるための「卒業研究」を設置する。

(履修方法・順序)
(1)基礎科目は、1年次に履修する。
(2)専門基礎分野のうち「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」と「食べ物と健康」の科目は、主に1、2年次に履修する。「社会・環境と健康」の科目は、主に3年次に履修する。
(3)専門分野の科目については、主に2、3年次に履修する。
(4)専門分野の「臨地実習」科目は、3年次に履修する。
(5)「企業実習」と「卒業研究」は、4年次に履修する。

(教育方法)
(1)専門教育科目に、共通教養教育科目のうちの必修科目と履修を推奨する選択科目を加えた『健康栄養学部カリキュラム構成図』『健康栄養学部カリキュラム・ツリー』『健康栄養学部履修モデル』を提示し、履修指導を行う。
(2)「実験・実習」科目以外の基礎科目、専門基礎分野、専門分野の科目は、事前・事後課題を与える他、グループワークや演習等により、学生が主体的に学ぶ方法を取り入れる。

(評価)
各授業科目では、達成目標を定め、達成目標並びに成績の評価方法と評価基準を学生に周知し、それに基づき成績を評価する。学生の「授業評価アンケート」による授業評価と、卒業前に行う「管理栄養士専門的能力到達度アンケート」による学生の自己評価の2つの評価に基づいてカリキュラムの評価・改善を図ることで、教育の質の保証に努める。

アドミッション・ポリシー

健康栄養学部は、人間や健康の本質を理解しながら、生命の源である「食」を探究し、人々が健康に生活でき

るよう貢献できる栄養や食生活の専門家を養成することを目的としています。

したがって、健康栄養学部では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 地域社会や人間、健康そして「食」に対して興味・関心を持ち、さらにこれらを探求する意欲のある人〔関心・意欲〕
2. 物事に主体的かつ積極的に取り組む姿勢をもつ人〔主体性〕
3. 健康栄養学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき理系科目も含めた基礎的な知識・教養を身につけた人〔知識・教養〕
4. 幅広い視野と柔軟な感性を有し、今までの知識・教養をもとに論理的な思考によって適切に判断できる人〔思考力・判断力〕
5. 社会の一員であることを自覚し、他人の立場にたって考えることができ、コミュニケーション能力がある人〔表現力・協働性〕

入学者選抜の基本方針

健康栄養学部が行う入学者の選抜方法には、一般選抜（前期日程）、学校推薦型選抜（県内・全国）、社会人選抜、私費外国人留学生選抜があります。

・一般選抜（前期日程）

大学入学共通テストの国語・数学・理科・外国語を課すとともに、個別学力検査等では、面接を行います。面接は、プレゼンテーション形式で行い、受験者は与えられたテーマに関して自分の考えを決められた時間内でまとめて、発表（プレゼンテーション）します。面接者は、調査書も参考にして質問し、関心・意欲、知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を評価します。

・学校推薦型選抜（県内・全国）

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、小論文と面接により健康栄養学部で学ぶ上で必要な関心・意欲、知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を評価します。なお、面接は、プレゼンテーション形式で行い、受験者は与えられたテーマに関して自分の考えを決められた時間内でまとめて、発表（プレゼンテーション）します。面接者は、調査書・推薦書も参考にして質問します。

・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、学校推薦型選抜や一般選抜同様、プレゼンテーション形式の面接を行うとともに、高等学校等までの理科・数学の基礎的な学力に関する口頭試問を行うことで、関心・意欲、知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を総合的に評価します。

・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、大学での学習に必要な基礎的な日本語能力と数学や理科の知識を評価するために日本留学試験を用います。面接では、理科・数学の基礎的な学力に関する口頭試問を行うとともに、日本語によるプレゼンテーション形式の面接を行います。面接者は、日本留学試験の日本語「記述」答案や志望動機書も参考にして質問します。これらにより、関心・意欲、知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を総合的に評価します。

【 大 学 院 】

○看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程

ディプロマ・ポリシー

博士前期課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、高度な専門的実践能力と看護学分野における研究能力を養うことを目的とする。

1. 個人－家族－地域を多角的、複眼的視点で捉え、看護専門領域に関する理論、関連領域の知識・技術、高い倫理観を基盤として、エビデンスに基づく高度な看護実践ができる能力を有している。
2. 地域社会や生活環境の中で、人々が自立して健康生活を営むことができるように、地域の人々と協働して、健康を促進する地域文化の形成・発展に貢献できる能力を有している。
3. 社会のニーズや健康に関する課題に積極的に関与し、他の職種の専門性を尊重した上で協働しながら社会状況に対応する方略を開発する能力を有している。
4. 学際的視点をふまえて看護実践の場、教育や政策の場で看護現象を研究的視点でとらえ、論理的思考力、リーダーシップとマネジメント力を発揮して変革者として貢献できる能力を有している。
5. 看護実践を支える科学的・哲学的基盤を理解し、看護研究を通して、看護学の体系化とその発展に貢献できる教育・研究能力を有している。
6. 国際的動向や多様な文化に関する幅広い知識や最新の情報を備えて、看護をグローバルな視点から捉え、看護の普遍性の追求と体系化に貢献できる能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

博士前期課程では、広い視野に立って精深な学識を授け、高度な専門的実践能力と看護学分野における研究能力を養うために、教育理念に基づき、高度実践看護師（以下CNS）コース、研究コース及び実践リーダーコースを設け、以下のようなカリキュラム（教育課程）を編成している。

（構造・内容）

1. カリキュラムを構成する科目群として「共通科目（大学院共通科目・専攻共通科目）」、「領域専門科目」及び「研究支援科目」の科目群をおく。
2. CNSコースは、がん看護学、慢性看護学、クリティカルケア看護学、小児看護学、老人看護学、精神看護学、家族看護学、在宅看護学の8領域を設け、各領域で必要な講義・演習・実践演習・課題研究を含む、専門看護師認定試験受験に必要な科目をおく。
3. 研究コースは、共創看護学、成人看護学、母性看護学、小児看護学、家族看護学、地域看護学、災害・国際看護学、看護管理学の8領域を設け、各領域で必要な講義・演習・研究を含む科目をおく。
4. 実践リーダーコースは、臨床看護学と地域保健学の2領域を設け、各領域で必要な講義・演習・研究を含む科目をおく。
5. 認定看護管理者認定審査受験、養護教諭専修免許、高等学校教諭（看護）専修免許に必要な科目をおく。

（順序性）

6. 1年次は看護学の学術的基盤を形成するためにCNSコース、研究コース、実践リーダーコースともに共通科目、1年次後半から2年次は専門性を高める領域専門科目を選択し、コースワークを踏まえて研究支援科目を履修できるように編成している。
7. 修士論文作成に向けて、2年次に研究計画書の提出、中間報告会の開催、修士論文を提出するように編成している。

（教育方法）

8. 前期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生の将来ビジョンに向けて修得できるように、CNSコース、研究コース、実践リーダーコースの履修モデルを提示し、履修指導を行う。
9. 前期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生が修得できるように、講義、演習、実習、研究指導を行う。事前・事後課題、グループワーク、グループ討議、アクティブラーニング、シミュレーション等により、学生が主体的に学ぶ方法、専門性を高める方法を取り入れる。
10. 実践リーダーコースは、大学院設置基準第14条特例に基づくコースで、授業は原則、土曜日・日曜日に開講する。

（評価方法）

11. 各講義科目・演習科目・実習科目では、前期課程のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標および成績評価の方法・基準をシラバスや実習要項により周知し、自己評価・授業評価、教員による評価を行う。修了時にはディプロマ・ポリシーに基づく評価（論文審査・最終試験）を行う。
12. 修了時には学生によるディプロマ・ポリシーの達成度、修士課程で修得すべき能力の評価、カリキュラム評価を行い、カリキュラムの評価・改善を図り、教育の質保証を行う。

アドミッション・ポリシー

博士前期課程は、広い視野に立って、精深な学識を授け、高度な専門的実践能力と看護学分野における研究能力を有する人材を育成します。

したがって、博士前期課程では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 看護理論や看護研究に対する基礎的知識と科学的思考力をもつ人
2. 専門的知識・技術に基づき看護を展開する能力をもつ人
3. 看護学を創造していくために必要な自らの看護観・人間観・倫理観をもつ人
4. 看護現象を多面的に捉え、看護学を探求する力をもつ人
5. 生涯にわたって高度実践看護職者・教育者として、研鑽し続ける力をもつ人
6. 社会の変化や健康課題についての問題意識をもち、保健医療福祉や看護学教育を革新したいと考えている人

入学者選抜の基本方針

博士前期課程における入学者選抜の出願区分として「一般」及び「学内推薦」をおきます。各出願区分の入学者選抜の基本方針は以下のとおりとします。

・一般（入試）

本区分では、「英語」「小論文」「専門科目」「面接」の試験を行い、以下の能力を総合的に評価します。

英語：英文の読解能力と設問の内容を的確に把握し、解答する能力について評価します。

小論文：看護学の発展に寄与する専門的知識、看護に対する専門職業人としての洞察力、論理性と抽象的に思考する力を評価します。

専門科目：看護の専門的能力（専門的知識、実践能力）、論理的思考力及び社会や健康に関わる課題を分析する能力について評価します。

面接：看護専門職業人としての能力、基礎的な知的能力及び研究を遂行していく能力を点数化して評価しま

す。実践リーダーコースにおいては面接時に研究計画書を活用します。

・学内推薦（入試）

本区分では、「小論文」「面接」の試験を行い、以下の能力を総合的に評価します。

小論文：看護学の発展に寄与する専門的知識、看護に対する専門職業人としての洞察力、論理性と抽象的に思考する力を評価します。

面接：看護専門職業人としての能力、基礎的な知的能力及び研究を遂行していく能力を点数化して評価します。

○看護学研究科　看護学専攻 博士後期課程

ディプロマ・ポリシー

博士後期課程は、看護学の学術的基盤を発展させるために看護学に関する学術と研究を国際的・学際的に推進し、その深奥を究め、創造的に自立して研究活動を行う高度な専門的能力を養うことを目的とする。

1. 看護の学識者としての責務を果たし、看護学の発展の基盤となる普遍性を有する看護哲学を追求し続ける能力を有している。
2. 看護学の学術的な基盤を発展させるために、グローバルスタンダードで看護学の知識や技術を研究開発し、看護学にイノベーションをもたらす能力を有している。
3. 最新の看護学の知識や技術、看護関連分野の知見等を活用し、倫理的・文化的基盤を持って人や社会に貢献するケアの開発に取り組み、人々の安心な生活の実現やQOLの向上を推進していくことのできる能力を有している。
4. 看護学を発展させ新たな知見を創生する研究活動を行い、社会に向けて提言できる能力を有している。
5. 国内外の専門職と連携して、政策開発や意思決定に参加し、健康医療福祉システムの構築や変革をもたらす能力を有している。
6. 科学的・学際的な基盤を持って人々の健康生活や健康文化を創造することに寄与する、次世代の高度実践看護者を養成する高等教育を担う能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

博士後期課程では、看護学の学術的基盤を発展させるために看護学に関する学術と研究を国際的・学際的に推進し、その深奥を究め、創造的に自立して研究活動を行う高度な専門的能力を養うために、教育理念に基づき以下のようなカリキュラム（教育課程）を編成している。

（構造・内容）

1. カリキュラムを構成する科目群として、専攻共通科目、専攻専門科目および研究支援科目の科目群をおく。
2. 分野として、共創看護学、がん看護学、成人看護学、小児看護学、老人看護学、精神看護学、家族看護学、在宅看護学、地域看護学、学校保健学、災害・国際看護学、看護病態生理学、看護経営管理学の分野をおく。
3. 専攻共通科目は、看護学の学術的基盤を発展させ高度な研究能力を育成するためにおく。
4. 専攻専門科目は、新たな専門的知識の蓄積・精選・拡充などをはかり、特定の看護分野の専門性を構築する科目としておく。
5. 研究支援科目は、研究課題を探究し、段階的に博士論文作成のプロセスを支持する科目としておく。

（順序性）

6. 専攻共通科目と専門性に応じて専攻専門科目を選択し、コースワークを踏まえて、３年間にわたり看護学特別研究を履修できるように編成している。
7. 博士論文作成に向けて、1年次には研究計画書の提出、2年次には中間報告会の開催、3年次には一次審査論文の提出を課し、博士論文を提出するように編成している。

（教育方法）

8. 後期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を修得できるように、履修モデルに基づき履修指導を行い、コースワークの推進、博士論文作成指導、学位審査等の教育のプロセスを支援する。
9. 研究能力を高めるために、入学時より主指導教員および副指導教員をおき、複数指導教員体制で博士論文作成指導にあたる。

（評価方法）

10. 後期課程のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標および成績評価の方法・基準を周知し、自己評価・授業評価、教員による評価を行う。修了時にはディプロマ・ポリシーに基づく評価、博士課程で修得すべき能力の評価等（最終試験）を行う。
11. 博士論文は、主指導教員および副指導教員による研究計画書審査、倫理審査、中間報告会、公聴会を経て、博士論文審査基準に基づき学位審査委員会において審査を行う。

アドミッション・ポリシー

博士後期課程は、看護学の学術基盤を発展させるために看護学に関する学術と研究を国際的・学際的に推進し、その深奥を究め、創造的に自立して研究活動を行う高度な専門的能力を有する人材を育成します。

したがって、博士後期課程では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 豊かな人間性と倫理観をもち、人々の健康や社会に対して探究する力をもつ人
2. 看護学の専攻分野の深い知識及び柔軟な発想力と創造力をもつ人
3. 看護学に関連する課題に関心をもち、課題解決に向けて研究を遂行する力をもつ人
4. 普遍性を追求し、看護学の発展に寄与する意志をもつ研究者・教育者を目指す人
5. 国際的、学際的見地から看護研究や看護学教育を通して社会に貢献したいと考えている人

入学者選抜の基本方針

博士後期課程における入学者選抜では、「英語」「小論文」の筆記試験を行い、口述試験と提出された研究計画書をもとに、以下の能力を総合的に評価します。

英語：英文の読解力、設問の内容を的確に把握し解答する能力を点数化して評価します。

小論文：看護学の学術基盤や研究の発展に寄与する能力と論理性、抽象的思考力、分析力、独創性について評価します。

口述試験：看護学の専門性、研究を進めていくために必要な能力を点数化して評価します。

研究計画書：研究課題に対する知識、研究の意義、研究目的、研究方法の記述から研究遂行能力について評価します。

○看護学研究科 博士課程

ディプロマ・ポリシー

修了要件は、履修単位を50単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けて、博士論文の審査及び最終試験に合格することを定めています。審査においては、本課程の教育目的に対応した能力について総合的に評価を行い、修了要件を満たす者に博士（看護学）とし、（DNGL：Disaster Nursing Global Leader）を付記した、学位を授与します。

○人間の安全保障を理念として、いかなる災害状況でも「その人らしく健康に生きる」ことを支援することができる能力を有している。
○災害サイクル諸局面において「健康に生きるための政策提案」に取り組むことができる能力を有している。
○グローバルな視点から安全安心社会の実現に向けて、産学官との連携を築き、制度やシステムを変革できる能力を有している。
○学際的な視点、国際的な視点から災害看護学を構築し、災害看護学を研究開発できる能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

豊かで高度な看護学専門知識を培い、学際的・国際的でグローバルな見識に基づいた研究を発展させ、特に災害看護学に関してその深奥を極め、人間の安全保障の進展に寄付する災害看護のグローバルリーダーを養成するために、教育目的に基づき以下のようなカリキュラム（教育課程）を編成しています。

○カリキュラムは、災害看護学の基盤となる「災害看護学の基盤を支える科目群」、災害看護学を学問として構築する能力を養うための「災害看護学の専門科目群」、災害看護学に関する専門的な実践や研究、グローバルリーダーとしての機能・役割を身につけるための「インデペンデント学修科目群」及び「災害看護学研究支援科目群」の4つの科目群によって構成する。
○学生が自分の関心や課題に沿って自律的に学び、グローバルリーダーとしての能力を培うことができるように、「インデペンデント学修科目群」に「インデペンデントスタディ」を科目として置く。
○構成大学院（「高知県立大学大学院看護学研究科」「兵庫県立大学大学院看護学研究科」「千葉大学大学院看護学研究科」「東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科」「日本赤十字看護大学大学院看護学研究科」）は、学生が各構成大学院から10単位以上の履修ができるように必要な科目を開講する。
○学修の課程で、その成果を確認するために Preliminary Examination と Qualifying Examination を行う。
○構成大学院の専任教員による研究指導体制の下で、災害看護学に関連する理論、高度な実践や研究についての知識を統合して災害看護学の「博士論文」を作成し、提出できるように編成している。

アドミッション・ポリシー

本大学院の理念・目的に基づき、次のような資質をもつ人材を受け入れます。

○災害看護グローバルリーダーとしてのビジョンを持っている人材。
○災害看護グローバルリーダーとしての活動にコミットメントでき、その能力を伸ばしていける人材。

※令和3（2021）年度から学生募集停止。

○人間生活学研究科 人間生活学専攻 博士前期課程

ディプロマ・ポリシー

博士前期課程では、地域社会の生活課題を解決・調整することのできる高度専門職業人としての能力を養成することを目的とする。

共通ディプロマ・ポリシー

1. 人間の生活に根ざした学問（栄養・生活学、社会福祉学、文化学）を基盤に、専攻領域及び関連領域における学術的知識を身に付けている。
2. 設定した研究課題を学際的・科学的な視点で捉え、学問の体系化と発展に寄与する研究能力を身に付けている。

領域（学位名称）別ディプロマ・ポリシー

栄養・生活学領域 ＜修士（生活科学）＞

1. 栄養・生活に関する分野における専門的な知識と技術を身に付けている。（知識・理解）
2. 地域社会の特性を踏まえ、栄養・生活に関する諸課題を科学的視点で捉え、解決のための具体的な方策を提言できる研究能力を身に付けている。（研究遂行能力）
3. グローバルな視野を持って、栄養・生活に関する諸課題に取り組み、その過程で得られた技術や知識を世界に向けて発信できる力を身に付けている。（総合的な学修経験と創造的思考力）

社会福祉学領域 ＜修士（社会福祉学）＞

1. 社会福祉学の分野における専門的な知識と技術を身に付けている。（知識・理解）
2. 地域社会の特性を踏まえ、社会福祉に関する諸課題を科学的視点で捉え、解決のための具体的な方策を提言できる研究能力を身に付けている。（研究遂行能力）
3. グローバルな視野を持って、社会福祉学の新たな支援方法や資源の開発等に取り組み、創造的な実践を展開できる力を身に付けている。（総合的な学修経験と創造的思考力）

文化学領域 ＜修士（学術）＞

1. 文化研究の分野における専門的な知識と技術を身に付けている。（知識・理解）
2. 文化に関する地域の諸課題を人文科学的または社会科学的視点で捉え、解決のための具体的な方策を提言できる研究能力を身に付けている。（研究遂行能力）
3. 文化に関する諸課題に取り組み、その過程で得られた技術や知識を地域に向けて発信できる力を身に付けている。（総合的な学修経験と創造的思考力）

カリキュラム・ポリシー

博士前期課程では、地域社会の生活課題を解決・調整することのできる高度専門職業人としての能力を養成することを目的とする。この目的のために、以下の方針に基づき本課程のカリキュラムを編成する。

共通カリキュラム・ポリシー

（構造・内容）

1. カリキュラムを構成する科目区分として、「共通科目（大学院共通科目、専攻共通科目）」「専門科目（栄養・生活学領域科目、社会福祉学領域科目、文化学領域科目）」の科目群をおく。また、研究能力を総合的に養成するための研究指導科目として、領域ごとに「課題研究演習」をおく。

2. 栄養・生活学領域科目に「食物科学」「人間栄養学」「栄養・生活学」の科目群をおく。
3. 社会福祉学領域科目に「福祉専門基礎分野」「地域社会・多文化分野」「高齢分野」「障害分野」「児童・家庭分野」の科目群をおく。
4. 文化学領域科目に「地域文化」「日本文化」「英語文化」の科目群をおく。

（順序性）

5. 研究の基礎的能力を修得させるため、1年次に共通科目の「研究と倫理」（必修）と「研究方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（選択必修）を履修させる。

（教育方法）

6. 学生の志望に従い、博士前期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行う。
7. 博士前期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生が修得できるように、講義、演習、研究指導をバランスよく行う。事前・事後課題、グループ討議、アクティブラーニングなどにより、学生が主体的に学ぶ方法を取り入れる。

（評価方法）

8. 講義や演習では、博士前期課程のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標や成績評価の方法・基準を周知し、評価を行う。修了時にはディプロマ・ポリシーに基づく評価（論文審査・最終試験）を行う。
9. 学生によるカリキュラム評価を行い、その結果に基づいてカリキュラムの改善を図る。

<u>領域別カリキュラム・ポリシー</u>

栄養・生活学領域 ＜修士（生活科学）＞

栄養・生活学領域の修了要件として、共通科目から6単位以上、栄養・生活学領域を中心として 3 つの領域科目から18単位以上、研究指導科目6単位を履修し、計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けて、修士論文の審査及び最終試験に合格することを定めている。

（順序性）

1）複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるため、1年次から、栄養・生活学領域科目を中心に、共通科目や社会福祉学領域科目、文化学領域科目から履修させる。
2）課題を発見し、その解決を明らかにするための研究力を修得させ、修士論文の完成へと導くため、「栄養・生活学課題研究演習」を履修させる。

（教育方法）

3）栄養・生活学領域の主研究指導教員と副研究指導教員1名ずつ以外に、他の領域の副研究指導教員から多様な視点による研究指導を行う。また、学期ごとに1回、主研究指導教員と副研究指導教員による合同指導会を実施する。

社会福祉学領域 ＜修士（社会福祉学）＞

社会福祉学領域の修了要件として、共通科目から6単位以上、社会福祉学領域を中心として3つの領域科目から18単位以上、研究指導科目6単位を履修し、計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けて、修士論文の審査及び最終試験に合格することを定めている。

（順序性）

1）複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるため、1年次から、社会福祉学領域科目を中心に、共通科目や栄養・生活学領域科目、文化学領域科目から履修させる。

2）課題を発見し、その解決を明らかにするための研究力を修得させ、修士論文の完成へと導くため、「社会福祉学課題研究演習」を履修させる。

（教育方法）

3）社会福祉学領域の主研究指導教員と副研究指導教員1名ずつ以外に、他の領域の副研究指導教員から多様な視点による研究指導を行う。また、学期ごとに1回、主研究指導教員と副研究指導教員による合同指導会を実施する。

文化学領域 ＜修士（学術）＞

文化学領域の修了要件として、共通科目から6単位以上、文化学領域を中心として3つの領域科目から18単位以上、研究指導科目6単位を履修し、計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けて、修士論文の審査及び最終試験に合格することを定めている。

（順序性）

1）複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるため、1年次から、文化学領域科目を中心に、共通科目や栄養・生活学領域科目、社会福祉学領域科目から履修させる。

2）課題を発見し、その解決を明らかにするための研究力を修得させ、修士論文の完成へと導くため、「文化学課題研究演習」を履修させる。

（教育方法）

3）文化学領域の主研究指導教員と副研究指導教員1名ずつ以外に、他の領域の副研究指導教員から多様な視点による研究指導を行う。また、学期ごとに1回、主研究指導教員と副研究指導教員による合同指導会を実施する。

アドミッション・ポリシー

博士前期課程は、人間生活学に根ざした教育・研究を基盤とし、総合的な視座から地域社会の生活課題に取り組むことのできる人材を養成することを目的とする。このために、入学者選抜の基本方針として、以下の資質を有する人を受け入れることとする。

求める学生像

1．人間生活や地域にかかわる諸課題に関心を持ち、その究明・解決に向けて、強い目的意識や探究心をもって取組もうとする人

2．課題に対して積極的に取組む熱意と主体的に学ぶ意欲、やり遂げる強い意志をもつ人

3．専攻する領域に関する基礎となる知識と柔軟な思考力をもつ人

4．地域社会において栄養・生活、社会福祉、文化の面から住民と協働し、地域のシステムづくりを計画・遂行していく連携・調整能力及び協調性を備えた人間性豊かな人

入学者選抜の基本方針

博士前期課程における入学者選抜の出願区分として「一般」「学内推薦」「社会人」及び「外国人留学生」をお

く。各出願区分の入学者選抜の基本方針は以下のとおりとする。

・一般（入試）

選抜のための方法は、以下によるものとする。

小論文：小論文を課すことにより、設問内容の的確な把握と解答、解答内容と志望領域の専門性との整合性、文章表現力等について評価する。

口述試験：「研究計画書」に基づく発表と質疑応答を行い、本研究科への適性や研究を遂行する基礎的能力などについて評価する。本研究科への適性は、次のうちのいずれか1つ以上に該当するかどうかで判断する。地域課題解決に貢献しようと考えているか、高度な専門的力量を身につけたいと考えているか、志望領域の専門的な知識や経験を問題解決のために活かそうと考えているか、などである。

研究を遂行する基礎的能力は次の諸点で評価する。研究内容（目的・方法・期待される結果）及び研究の特色（新規性・独創性）を明確に把握しているか、志望領域の専門的な基礎的知識があるか、などである。

研究計画書：研究の内容・方法、志望領域の専門性等について評価する。

・学内推薦（入試）

選抜のための方法は、以下によるものとする。

小論文：小論文を課すことにより、設問内容の的確な把握と解答、解答内容と志望領域の専門性との整合性、文章表現力等について評価する。

口述試験：「研究計画書」に基づく発表と質疑応答を行い、本研究科への適性や研究を遂行する基礎的能力などについて評価する。本研究科への適性は、次のうちのいずれか1つ以上に該当するかどうかで判断する。地域課題解決に貢献しようと考えているか、高度な専門的力量を身につけたいと考えているか、志望領域の専門的な知識や経験を問題解決のために活かそうと考えているか、などである。

研究を遂行する基礎的能力は次の諸点で評価する。研究内容（目的・方法・期待される結果）及び研究の特色（新規性・独創性）を明確に把握しているか、志望領域の専門的な基礎的知識があるか、などである。

研究計画書：研究の内容・方法、志望領域の専門性等について評価する。

・社会人（入試）

選抜のための方法は、以下によるものとする。なお、本区分での出願にあたっては、大学院入試説明会に出席した上で事前面談を経なければならない。

プレゼンテーション：「志願理由書」に基づくプレゼンテーションと質疑応答により、志望動機、活動・意欲、態度などについて評価する。

面接試験：「研究構想書」に基づく質疑応答を行い、本研究科で何を学びたいのか、受験者の専門性、研究構想内容の適切さ、志望領域の専門的な基礎知識、入学後の学習等についての計画などについて評価する。

・外国人留学生（入試）

選抜のための方法は、以下によるものとする。

プレゼンテーション：「志願理由書」に基づくプレゼンテーションと質疑応答により、志望動機、活動・意欲、態度などについて評価するとともに、日本語の会話能力について確認をする。必要に応じて、特技・資格・経験などについても問う。

面接試験：「研究構想書」に基づく質疑応答を行い、本研究科で何を学びたいのか、受験者の専門性、研究構想内容の適切さ、志望領域の専門的な基礎知識、入学後の学習等についての計画などについて評価する。

○人間生活学研究科 博士後期課程

ディプロマ・ポリシー

博士後期課程は、博士前期課程において修得した知識及び技術を基盤とし、自立して継続的な研究活動を遂行できる高度専門職業人としての能力及び高等教育の発展に寄与する教育研究者としての能力を涵養することを目的とする。

共通ディプロマ・ポリシー

1. 人間の生活に根ざした学問体系の確立と発展に寄与し、学際的研究を自立して展開する能力を身に付けている。
2. 研究分野に関する国内外の動向を俯瞰的に把握し、学際的な関連分野の知見をふまえて、自己の研究の位置づけを明確にすることができる。
3. 人間の生活に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて研究を実践する能力を身に付けている。

領域(学位名称)別ディプロマ・ポリシー

栄養・生活学領域 ＜博士(生活科学)＞

1. 栄養・生活に関する分野における高度に専門的な知識を持ち、栄養・生活に関する分野を系統的・統合的に理解する能力を身に付けている。(知識・理解)
2. 栄養・生活に関する諸課題を総合的・学際的な視点で捉え、研究を通して課題解決に資するための高度な論理的思考力を身に付けている。(研究遂行能力)
3. 栄養・生活に関する分野における研究の発展に寄与する新たな知見を研究成果として公表する能力を身に付けていると同時に、社会に向けて提言することができる。(研究遂行能力)
4. グローバルな視野を持った教授者として、栄養・生活に関する分野における専門職教育を担う能力を身に付けている。(総合的な学修経験と創造的思考力)

社会福祉学領域 ＜博士(社会福祉学)＞

1. 社会福祉分野における高度に専門的な知識を持ち、社会福祉学を系統的・統合的に理解する能力を身に付けている。(知識・理解)
2. 社会福祉学に関する諸課題を総合的・学際的な視点で捉え、研究を通して課題解決に資するための高度な論理的思考力を身に付けている。(研究遂行能力)
3. 社会福祉学の分野における研究の発展に寄与する新たな知見を研究成果として公表する能力を身に付けていると同時に、社会に向けて提言することができる。(研究遂行能力)
4. グローバルな視野を持って、地域共生社会の実現に向けて指導的役割を担うことができる研究者および専門職業人としての能力を身に付けている。(総合的な学修経験と創造的思考力)

文化学領域 ＜博士(学術)＞

1. 文化研究の分野における高度に専門的な知識と系統的・統合的に理解する能力を身に付けている。(知識・理解)
2. 文化に関する事象や課題を人文科学的または社会科学的な視点で捉え、研究を通して課題解決に資するための高度な論理的思考力を身に付けている。(研究遂行能力)
3. 文化に関する研究分野の発展に寄与する新たな知見を提供し、広く社会に発信することができる。(研究遂行能力)

4. グローバルな視野を持って、文化に関する研究能力を活かし、研究成果を公表することができる。（総合的な学修経験と創造的思考力）

カリキュラム・ポリシー

博士後期課程は、博士前期課程において修得した知識及び技術を基盤とし、自立して継続的な研究活動を遂行できる高度専門職業人としての能力及び高等教育の発展に寄与する教育研究者としての能力を涵養することを目的とする。本課程は、以下の方針に基づきカリキュラムを編成する。

共通カリキュラム・ポリシー

（構造・内容）

1. カリキュラムを構成する主要科目群として、「専攻共通科目」、「専門科目」及び「研究指導科目」をおく。
2. 専攻共通科目群は、人間生活に係わる諸問題に対し、多角的な視点から接近することのできる能力を涵養することを目的とする。
3. 専門科目群に、「栄養・生活学」、「社会福祉学」、及び「文化学」の3領域をおく。
4. 専門科目群は、学術研究の動向についての理解を深化させることを目的とする。
5. 研究指導科目として、領域ごとに「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」をおく。

（評価方法）

6. 博士後期課程のディプロマ・ポリシーに沿った到達目標並びに成績評価の方法及び基準を周知する。
7. 博士後期課程の修了時には、ディプロマ・ポリシーに基づく評価、博士後期課程で修得すべき能力の評価等の最終試験を実施する。
8. 学位授与の審査は、主研究指導教員及び副研究指導教員による研究計画書審査、中間報告会、博士論文第一次審査及び公聴会における口頭発表を経た後、博士論文審査基準に準拠し学位審査委員会において審査を行う。

領域別カリキュラム・ポリシー

栄養・生活学領域 ＜博士（生活科学）＞

（順序性）

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるコースワークとして、1年次に栄養・生活学領域科目を中心としつつ、専攻共通科目や社会福祉学領域科目、文化学領域科目からも履修させる。
2. 分析に必要な知識及び技法を修得しながら、主体的な問題意識に沿って研究課題を設定し、合理的で遂行可能な研究計画を立案させるため、1年次に「栄養・生活学特別研究Ⅰ」を履修させる。加えて研究計画書の提出をさせる。
3. 研究計画書に従って研究を進め、指導教員とともに検討をするため、2年次に「栄養・生活学特別研究Ⅱ」を履修させる。また加えて、その成果を中間報告会で発表させる。
4. 収集した資料やデータを分析・検証しながら博士論文の執筆へと移行していくことができるように、3年次に「栄養・生活学特別研究Ⅲ」を履修させる。博士論文第一次審査を9月に行い、1月に博士論文を提出させる。

（教育方法）

5. 学生の志望に従い、博士後期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行い、コースワークを履修させ、博士論文作成に至るための支援をする。

6. 多様な視点から研究指導が得られるように、栄養・生活学領域の主研究指導教員と副研究指導教員各1名のほか、他領域から副研究指導教員を選ぶこととする。必要に応じて人間生活学研究科以外の教員・研究者を副研究指導教員として入れる。

社会福祉学領域 ＜博士(社会福祉学)＞

(順序性)

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるコースワークとして、1年次に社会福祉学領域科目を中心としつつ、専攻共通科目や栄養・生活学領域科目、文化学領域科目からも履修させる。
2. 分析に必要な知識及び技法を修得しながら、主体的な問題意識に沿って研究課題を設定し、合理的で遂行可能な研究計画を立案させるため、1年次に「社会福祉学特別研究Ⅰ」を履修させる。加えて研究計画書の提出をさせる。
3. 研究計画書に従って研究を進め、指導教員とともに検討をするため、2年次に「社会福祉学特別研究Ⅱ」を履修させる。また加えて、その成果を中間報告会で発表させる。
4. 収集した資料やデータを分析・検証しながら博士論文の執筆へと移行していくことができるように、3年次に「社会福祉学特別研究Ⅲ」を履修させる。博士論文第一次審査を9月に行い、1月に博士論文を提出させる。

(教育方法)

5. 学生の志望に従い、博士後期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行い、コースワークを履修させ、博士論文作成に至るための支援をする。
6. 多様な視点から研究指導が得られるように、社会福祉学領域の主研究指導教員と副研究指導教員各 1 名のほか、他領域から副研究指導教員を選ぶこととする。必要に応じて人間生活学研究科以外の教員・研究者を副研究指導教員として入れる。

文化学領域 ＜博士(学術)＞

(順序性)

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるコースワークとして、1年次に文化学領域科目を中心としつつ、専攻共通科目や栄養・生活学領域科目、社会福祉学領域科目からも履修させる。
2. 分析に必要な知識及び技法を修得しながら、主体的な問題意識に沿って研究課題を設定し、合理的で遂行可能な研究計画を立案させるため、1年次に「文化学特別研究Ⅰ」を履修させる。加えて研究計画書の提出をさせる。
3. 研究計画書に従って研究を進め、指導教員とともに検討をするため、2年次に「文化学特別研究Ⅱ」を履修させる。加えて、その成果を中間報告会で発表させる。
4. 収集した資料やデータを分析・検証しながら博士論文の執筆へと移行していくことができるように、3年次に「文化学特別研究Ⅲ」を履修させる。博士論文第一次審査を9月に行い、1月に博士論文を提出させる。

(教育方法)

5. 学生の志望に従い、博士後期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行い、コースワークを履修させ、博士論文作成に至るための支援をする。
6. 多様な視点から研究指導が得られるように、文化学領域の主研究指導教員と副研究指導教員各 1 名のほか、他領域から副研究指導教員を選ぶこととする。必要に応じて人間生活学研究科以外の教員・研究者を副研究指導教員として入れる。

アドミッション・ポリシー

博士後期課程は、人間生活学を基盤とした教育・研究を基盤とし、自立した研究者として知識基盤社会を支える能力と次世代の高等教育を担う人材を養成することを目的としています。したがって、博士後期課程では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 社会の生活課題に関心を有し、明確な目的意識、強い探究心、並びに研究的手法をもって課題の解決に取り組もうとする人
2. 課題達成への強い熱意をもち、学術研究に意欲的に取り組む人
3. 専門分野に関する深い知識、柔軟な発想力及び創造力をもつ人
4. 地域社会において栄養・生活、社会福祉、文化の面から住民と協働し、地域のシステムづくりを計画・遂行していく連携・調整能力及び協調性を備えた人間性豊かな人であると同時に、人間生活の向上に寄与できる豊かな人間性と研究倫理を有し、研究者及び高等教育を担う教育研究者をめざす人

入学者選抜の基本方針

博士後期課程の入学者選抜では、「筆記試験」「領域専門」及び「口述試験」を行い、提出された研究計画書と併せて、以下の能力を総合的に評価する。

筆記試験：英文の読解力と設問の内容を的確に把握し解答する能力について評価する。

領域専門：社会福祉学領域及び文化学領域では、小論文により、研究を進めるうえでの専門知識と論理性、抽象的思考力、分析力、独創性、設問の内容を的確に把握し解答する能力について評価する。栄養・生活学領域では、プレゼンテーションにより、研究を進めるうえでの専門知識、プレゼンテーションに基づく論理性、抽象的思考力、分析力、独創性、質問の内容を的確に把握し解答する能力について評価する。

口述試験：研究計画についての発表と質疑応答を行い、志願領域の専門性や、研究を進めていくための必要な能力について評価する。

研究計画書：研究課題に対する知識、研究の意義、研究目的、研究方法、記述等について評価する。

2 受講者の状況

【 学 部 】

(1)共通教養教育科目

リテラシー科目

○文化学部 文化学科

(単位:人)

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
英語コミュニケーションIA	未開講	英語コミュニケーションⅡ基礎プレゼンテーション	1
英語コミュニケーションIB	未開講	英語コミュニケーションⅡ応用プレゼンテーション	3
英語コミュニケーションIC	271	英語コミュニケーションⅡ基礎エッセーライティング	3
英語コミュニケーションID	152	英語コミュニケーションⅡ応用エッセーライティング	4
英語コミュニケーションIIA	20	情報処理概論	99
英語コミュニケーションIIB	12	コンピュータリテラシー	146
英語コミュニケーションIIC	19	ビジネスリテラシー	38
英語コミュニケーションIID	12	日本語表現法	0

○看護学部 看護学科

(単位:人)

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
英語コミュニケーションIA	未開講	英語コミュニケーションⅡ基礎プレゼンテーション	0
英語コミュニケーションIB	未開講	英語コミュニケーションⅡ応用プレゼンテーション	0
英語コミュニケーションIC	152	英語コミュニケーションⅡ基礎エッセーライティング	0
英語コミュニケーションID	78	英語コミュニケーションⅡ応用エッセーライティング	0
英語コミュニケーションIIA	3	情報処理概論	25
英語コミュニケーションIIB	0	コンピュータリテラシー	76
英語コミュニケーションIIC	1	ビジネスリテラシー	0
英語コミュニケーションIID	0	日本語表現法	0

○社会福祉学部 社会福祉学科

(単位:人)

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
英語コミュニケーションIA	未開講	英語コミュニケーションⅡ基礎プレゼンテーション	0
英語コミュニケーションIB	未開講	英語コミュニケーションⅡ応用プレゼンテーション	2
英語コミュニケーションIC	148	英語コミュニケーションⅡ基礎エッセーライティング	0
英語コミュニケーションID	76	英語コミュニケーションⅡ応用エッセーライティング	1
英語コミュニケーションIIA	2	情報処理概論	0
英語コミュニケーションIIB	1	コンピュータリテラシー	58
英語コミュニケーションIIC	0	ビジネスリテラシー	0
英語コミュニケーションIID	0	日本語表現法	0

○健康栄養学部 健康栄養学科

(単位:人)

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
英語コミュニケーションIA	未開講	英語コミュニケーションⅡ基礎プレゼンテーション	0
英語コミュニケーションIB	未開講	英語コミュニケーションⅡ応用プレゼンテーション	0
英語コミュニケーションIC	79	英語コミュニケーションⅡ基礎エッセーライティング	0
英語コミュニケーションID	49	英語コミュニケーションⅡ応用エッセーライティング	0
英語コミュニケーションIIA	1	情報処理概論	38
英語コミュニケーションIIB	0	コンピュータリテラシー	28
英語コミュニケーションIIC	0	ビジネスリテラシー	0
英語コミュニケーションIID	0	日本語表現法	0

データサイエンス科目

（単位：人）

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
ITリテラシー	191	AI概論	75
データサイエンス入門	27	プログラミング基礎	22

教養基礎科目

（単位：人）

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
科学と人間	60	倫理学	186
基礎化学	18	哲学	83
基礎生物学	348	文学	82
社会調査基礎論	36	基礎ジェンダー学	203
日本国憲法	245	心理学	273
法学	48	心理学入門	14
政治学	18	社会心理学基礎	9
経済学	91		

課題別教養科目

（単位：人）

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
生活と社会福祉	87	労働と人権	0
現代生活論	177	地域とグローバリゼーション	92
自然災害と防災の科学	137	家族関係論	134
平和論	未開講	異文化理解海外フィールドワーク	12
現代人権論	162	人権教育論	48
ジェンダーとキャリア	未開講		

健康・スポーツ科目

（単位：人）

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
健康スポーツ科学Ⅰ	269	健康とヘルスプロモーション	49
健康スポーツ科学Ⅱ	253	栄養と健康	77
対人関係とメンタルヘルス	171		

域学共生科目

（単位：人）

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
地域学概論	354	専門職連携論	79
土佐の歴史と文化	42	チーム形成論	78
土佐の経済とまちづくり	154	地域学実習I	348
土佐の自然と暮らし	184	地域学実習II	42
土佐の食と健康	136	域学共生実習	4

【 学 部 】

(2)専門教育科目

○文化学部 文化学科

(その1)　　(単位:人)

授業科目			受講者数
文化学部共通科目	リテラシー科目	基礎演習	165
		中国語基礎Ⅰ	96
		中国語基礎Ⅱ	91
		ドイツ語基礎Ⅰ	31
		ドイツ語基礎Ⅱ	25
		フランス語基礎Ⅰ	45
		フランス語基礎Ⅱ	46
		日本語Ⅰ	6
		日本語Ⅱ	6
		情報処理演習	166
		文献調査論	138
		基礎読書法	104
	エッセンシャル科目	文化哲学	176
		文化人類学	197
		文化と権利	175
		文化と裁判	61
		公共哲学	106
		民俗学	113
		文化と経済	39
		日本文学概論	150
		言語学概論	172
		日本語学概論	161
		グローバル平和論	未開講
		社会調査論	43
		域学共生フィールドワーク	25
		文化学課題研究ゼミナールⅠ	148
		文化学課題研究ゼミナールⅡ	142
		文化学課題研究ゼミナールⅢ	168
		文化学課題研究ゼミナールⅣ	175
	キャリア形成科目	キャリアデザイン論	130
		キャリア形成論	133
		企業実習	46
文化学部専門科目	言語文化系 英語学領域	英語学概論	57
		比較言語研究	40
		対照言語学	17
		言語教育実践論Ⅰ	5
		言語教育実践論Ⅱ	5
		英語文法論	58
		英語ライティングⅠ	11
		英語ライティングⅡ	8
		英語音声学	50
		英語スピーキングⅠ	13
		英語スピーキングⅡ	8
		英語学専門演習Ⅰ	24
		英語学専門演習Ⅱ	24
	言語文化系 国際文化領域	英文化・文学史	100
		英文化・文学論	33
		米文化・文学史	27
		米文化・文学論	28
		異文化理解Ⅰ	18
		異文化理解Ⅱ	22

授業科目			受講者数
文化学部専門科目	言語文化系 国際文化領域	異文化理解Ⅲ	0
		国際日本学	9
		比較日本学	31
		国際関係論	71
		国際開発論	24
		国際文化専門演習Ⅰ	27
		国際文化専門演習Ⅱ	23
	言語文化系 日本語学領域	日本語史	46
		日本語音声学・音韻論	83
		日本語学講読	80
		日本語文章構成論	77
		国語教育学講読Ⅰ	41
		国語教育学講読Ⅱ	15
		日本語教育学概論	23
		日本語教育教材論	16
		日本語学専門演習Ⅰ	39
		日本語学専門演習Ⅱ	44
	言語文化系 日本文学領域	基礎古典	77
		日本文学史(古典)	40
		日本文学史(近代)	29
		古典文学基礎講読Ⅰ	44
		古典文学基礎講読Ⅱ	37
		古典文学講読Ⅰ	48
		古典文学講読Ⅱ	45
		近代文学講読	49
		現代文学講読	62
		中国文学史	28
		中国文学講読(散文)	29
		中国文学講読(韻文)	33
		日本文学専門演習Ⅰ	37
		日本文学専門演習Ⅱ	44
		書道	22
	地域文化創造系 地域文化領域	地域文化論	140
		日本思想史	16
		日本文化論	127
		地域文化資源論Ⅰ	111
		地域文化資源論Ⅱ	90
		文化政策論	71
		男女共同参画社会論	27
		地域防災論	79
		住文化論	105
		地域文化専門演習Ⅰ	23
		地域文化専門演習Ⅱ	20
	地域づくり領域	地域づくり論	121
		地域産業論	26
		地域分析論	60
		地方自治論	105
		NPO論	43
		地域づくりフィールドスタディ	65
		地域づくり専門演習Ⅰ	23
		地域づくり専門演習Ⅱ	20

(その2)　　(単位:人)

授業科目				受講者数
文化学部専門科目	地域文化創造系	観光文化領域	観光文化論Ⅰ	99
			観光文化論Ⅱ	79
			景観文化論	113
			観光と自然環境	121
			観光文化フィールドスタディⅠ	25
			観光文化フィールドスタディⅡ	9
			観光フィールド専門演習Ⅰ	33
			観光フィールド専門演習Ⅱ	34
		観光まちづくり領域	観光学総論	98
			観光まちづくり論Ⅰ	60
			観光まちづくり論Ⅱ	20
			観光産業論Ⅰ	93
			観光産業論Ⅱ	未開講
			観光企画論	97
			観光まちづくりフィールドスタディⅠ	21
			観光まちづくりフィールドスタディⅡ	32
			観光まちづくり専門演習Ⅰ	33
			観光まちづくり専門演習Ⅱ	34

授業科目				受講者数
文化学部専門科目	地域文化創造系	現代法文化領域	文化と人権	175
			文化と統治システム	165
			社会秩序と法	89
			犯罪と法	48
			情報化社会と法文化	76
			地域社会と法文化	144
			現代法文化専門演習Ⅰ	17
			現代法文化専門演習Ⅱ	14
		生活法文化領域	生活と法文化	172
			災害と法	95
			ワーク・ライフ・バランスと法	5
			労働契約と法文化	未開講
			社会保障と法文化	0
			家族関係と法文化	未開講
			生活法文化専門演習Ⅰ	17
			生活法文化専門演習Ⅱ	12

○看護学部　看護学科

（その1）　　（単位：人）

授業科目			受講者数
専門基礎科目		医学の世界	81
		生化学	81
		栄養学	81
		薬理学	92
		微生物学	83
		人体の構造Ⅰ	83
		人体の構造Ⅱ	92
		人体の機能Ⅰ	102
		人体の機能Ⅱ	89
		人体のしくみの乱れⅠ	86
		人体のしくみの乱れⅡ	87
		心のしくみ	81
		診断学	81
		治療学総論	81
		病態と治療Ⅰ	78
		病態と治療Ⅱ	81
		病態と治療Ⅲ	82
		小児と疾患	80
		公衆衛生学	82
		健康管理論	80
		保健統計学	80
		疫学	79
		地域保健政策	83
		生命の科学と倫理	69
		医療史	22
		社会保障と看護	9
		心理学と心理的支援	27
		行動科学	14
		保健行動論	4
		人間工学	4
		在宅医療	5
		医療と経営	8
		助産学	21
		助産診断論	21
看護基礎科目	基礎看護学	看護学総論	81
		人間と看護	81
		健康と看護	81
		環境と看護	81
		看護研究方法論	80
		看護哲学と倫理	83
	看護援助学	生活と看護	81
		生活援助論	82
		看護過程論	81
		援助関係論	83
		フィジカルアセスメント	84
		治療援助論	79

授業科目			受講者数
看護基礎科目	看護援助学	症状と看護	81
		看護援助の動向と課題	0
		ふれあい看護実習	81
		看護基盤実習	79
		看護実践能力開発実習Ⅰ	78
	看護管理学	看護システム論	80
		看護サービス論	84
		看護教育論	0
		看護管理の動向と課題	0
		チーム医療実習	79
		看護管理実習	83
看護臨床科目	急性期看護学	急性期看護論	78
		急性期看護援助論	80
		回復期看護援助論	81
		急性期看護の動向と課題	13
		急性期看護実習	79
	慢性期看護学	慢性期看護論	79
		慢性期看護援助論	80
		終末期看護援助論	79
		慢性期看護の動向と課題	0
		慢性期看護実習	81
	老人看護学	老人看護学総論	80
		老人の健康と看護	80
		老人看護援助論	81
		老人看護の動向と課題	3
	精神看護学	精神看護学総論	82
		精神の健康と看護	81
		精神看護援助論	80
		精神看護の動向と課題	0
		精神看護実習	79
	小児看護学	小児看護学総論	82
		小児の健康と看護	82
		小児看護援助論	80
		小児看護の動向と課題	4
		小児看護実習	79
	母性看護学	母性看護学総論	82
		母性の健康と看護	81
		母性看護援助論	80
		母性看護の動向と課題	1
		母性看護実習	80
	助産看護学	助産看護学総論	8
		助産看護診断論	8
		助産技術論Ⅰ	8
		助産技術論Ⅱ	8
		助産看護援助論	8
		助産看護管理論	8
		助産看護の動向と課題	8
		助産看護実習Ⅰ	8
		助産看護実習Ⅱ	8

(その2)　　(単位:人)

授業科目			受講者数	授業科目			受講者数
看護臨床科目	在宅看護学	在宅看護学総論	80	総合科目		災害看護実践論	81
		在宅看護対象論	82			グローバル社会と看護Ⅰ	81
		在宅看護援助論	83			グローバル社会と看護Ⅱ	1
		在宅看護リエゾン論	0			異文化理解看護フィールドワーク	6
		在宅看護の動向と課題	0			看護地域フィールドワーク	3
		在宅看護実習	84			看護学の動向と課題	0
	地域看護学	地域看護学総論	81			看護セミナーⅠ	81
		地域の健康と看護	80			看護セミナーⅡ	0
		地域看護援助論	80			看護セミナーⅢ	0
		地域看護の動向と課題	10			看護セミナーⅣ	67
		地域看護実習	72			看護セミナーⅤ	64
	学校保健	学校保健	17			臨床看護論Ⅰ	3
		養護概説	14			臨床看護論Ⅱ	14
総合科目		看護研究	83			臨床看護論Ⅲ	31
		看護と政策	84			臨床看護論Ⅳ	1
		がん看護論	80			臨床看護論Ⅴ	4
		総合看護実習Ⅰ	83			臨床看護論Ⅵ	8
		総合看護実習Ⅱ	81			看護実践論Ⅰ	0
		家族看護実習	83			看護実践論Ⅱ	0
		看護実践能力開発実習Ⅱ	84			看護実践論Ⅲ	1
		バイオロジカルナーシング	38			看護実践論Ⅳ	0
		治療と看護	7			医学と看護の統合	83
		情報と看護	0			最新実践看護講座Ⅰ	2
		災害と看護	75			最新実践看護講座Ⅱ	0

○社会福祉学部　社会福祉学科

（単位：人）

授業科目		受講者数
基本科目	福祉対象入門	78
	福祉援助入門	85
	社会福祉入門演習	78
	社会福祉基礎演習	78
	心理学と心理的支援	81
	社会学と社会システム	79
	社会福祉の原理と政策Ⅰ	78
	社会福祉の原理と政策Ⅱ	80
	社会福祉史	73
	介護技術	10
社会福祉制度科目	社会保障論Ⅰ	78
	社会保障論Ⅱ	80
	公的扶助論	79
	障害者福祉論	75
	児童・家庭福祉論	76
	高齢者福祉論Ⅰ	79
	高齢者福祉論Ⅱ	75
	精神保健福祉の原理	24
	精神保健福祉制度論	22
	福祉行財政と福祉計画（～2020）	未開講
	福祉サービスの組織と経営	69
	権利擁護論	73
	更生保護制度	71
	保健医療サービス	76
	女性福祉論	26
	医療福祉論	64
からだとこころの理解科目	医学概論	86
	精神医学Ⅰ	26
	精神医学Ⅱ	26
	精神保健学Ⅰ	42
	精神保健学Ⅱ	36
	発達と老化の理解Ⅰ	14
	発達と老化の理解Ⅱ	17
	認知症の理解Ⅰ	16
	認知症の理解Ⅱ	16
	障害の理解Ⅰ	20
	障害の理解Ⅱ	19
	こころとからだのしくみⅠ	17
	こころとからだのしくみⅡ	17
ソーシャルワーク基礎科目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	82
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	82
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	78
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	76
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	77
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	67
	ソーシャルワークの理論と方法（精神）	未開講
	面接技法	20
	医療ソーシャルワーク論	39
ソーシャルワーク実践科目	ソーシャルワーク演習Ⅰ	76
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	73
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	68
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	68
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	64
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	75
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	75
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	63
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	46
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	64
	ソーシャルワーク実習Ⅲ	64
	事例研究法	7
	実践記録法	0

授業科目		受講者数
	チームアプローチ	0
	スーパービジョン	0
地域・国際福祉科目	地域福祉論Ⅰ	78
	地域福祉論Ⅱ	76
	地域福祉活動	3
	国際福祉論	56
	コミュニティソーシャルワーク	20
	福祉NPO論	47
	子育て支援論	8
	虐待防止論	36
社会復帰支援科目	ケアマネジメント論	32
	ケアマネジメント演習	11
	ケアプラン策定法	4
	就労支援サービス（～2020）	未開講
	精神障害リハビリテーション論	39
精神保健福祉実践科目	精神保健福祉援助演習（～2020）	未開講
	精神保健福祉援助演習Ⅰ	21
	精神保健福祉援助演習Ⅱ	25
	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	21
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	25
	精神保健福祉援助実習Ⅰ	25
	精神保健福祉援助実習Ⅱ	25
介護福祉理解科目	介護の基本Ⅰ	17
	介護の基本Ⅱ	12
	介護の基本Ⅲ	15
	コミュニケーション技術	17
	生活支援技術Ⅰ	17
	生活支援技術Ⅱ	17
	生活支援技術Ⅲ	12
	生活支援技術Ⅳ	12
	生活支援技術Ⅴ	16
	介護過程Ⅰ	17
	介護過程Ⅱ	12
	介護過程Ⅲ	12
	介護過程Ⅳ	16
介護福祉実践科目	介護総合演習Ⅰ	17
	介護総合演習Ⅱ	12
	介護総合演習Ⅲ	15
	介護総合演習Ⅳ	9
	介護実習Ⅰ	17
	介護実習Ⅱ	12
	介護実習Ⅲ	15
	医療的ケアⅠ	15
	医療的ケアⅡ	8
総合科目	福祉研究法入門	80
	社会福祉調査の基礎	68
	社会福祉専門演習Ⅰ	69
	社会福祉専門演習Ⅱ	70
	社会福祉専門演習Ⅲ	74
	社会福祉専門演習Ⅳ	73

○健康栄養学部　健康栄養学科

（単位：人）

授業科目		受講者数
基礎科目	健康栄養学基礎	46
	健康栄養学応用	45
社会・環境と健康	地域健康論	40
	介護論	40
	食と介護	40
	保健医療福祉論	41
	地域医療論	3
	公衆衛生学	40
	環境衛生学実習	40
	健康情報論実習	45
人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	生化学Ⅰ	46
	生化学Ⅱ	45
	生化学実験	40
	人体の構造と機能Ⅰ	45
	人体の構造と機能Ⅱ	45
	臨床医科学	0
	疾病論Ⅰ	40
	疾病論Ⅱ	39
	運動生理学	39
	生体科学実験・実習	39
食べ物と健康	食品学	45
	食品学実験Ⅰ	45
	食品学実験Ⅱ	40
	食材学	45
	食品の栄養素と機能	40
	食品衛生学	40
	食品衛生学実験	40
	フードシステム学	59
	調理学	46
	調理学実習Ⅰ	45
	調理学実習Ⅱ	45
	調理学実習Ⅲ	24
	調理科学実験	6
基礎栄養	基礎栄養学	45
	基礎栄養学実験	40

授業科目		受講者数
応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	40
	応用栄養学Ⅱ	40
	応用栄養学実習	39
	ライフステージ栄養学	39
栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	39
	栄養教育論Ⅱ	40
	栄養教育論Ⅲ	40
	栄養教育論実習Ⅰ	40
	栄養教育論実習Ⅱ	40
	学校栄養指導論Ⅰ	8
	学校栄養指導論Ⅱ	8
臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	39
	臨床栄養学Ⅱ	40
	臨床栄養学Ⅲ	40
	臨床実践栄養学	40
	臨床栄養学実習Ⅰ	40
	臨床栄養学実習Ⅱ	40
公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	39
	公衆栄養学Ⅱ	40
	地域公衆栄養学実習	40
給食経営管理論	給食経営管理論	40
	給食計画論	39
	給食経営管理実習Ⅰ	40
	給食経営管理実習Ⅱ	40
総合演習	管理栄養士総合演習Ⅰ	40
	管理栄養士総合演習Ⅱ	42
臨地実習	給食経営管理臨地実習	40
	臨床栄養学臨地実習Ⅰ	40
	臨床栄養学臨地実習Ⅱ	40
	地域公衆栄養学臨地実習	40
	地域実践栄養学臨地実習	8
その他	企業実習	未開講
	健康栄養フィールドワーク	11
	HACCP管理論	38
課題研究	卒業研究	42

【 学 部 】

(3)教職に関する専門教育科目

(単位:人)

授業科目		受講者数	授業科目		受講者数
教職に関する専門教育科目	教育原理	34	教職に関する専門教育科目	教育実習Ⅰ	23
	教育基礎理論	19		教育実習Ⅱ	23
	教師論	72		養護実習	14
	教育社会学	49		学校栄養教育実習	8
	発達心理学	34		教職実践演習(中・高)	23
	教育心理学	50		教職実践演習(養護)	14
	特別支援教育概論	55		教職実践演習(栄養)	8
	教育課程論	56		国語科教育法Ⅰ	20
	道徳教育論	20		国語科教育法Ⅱ	18
	特別活動論	35		国語科教育法Ⅲ	16
	教育の方法と技術及び総合的な学習の時間の指導法	49		国語科教育法Ⅳ	16
				英語科教育法Ⅰ	7
	情報通信技術を活用した教育の理論と方法	34		英語科教育法Ⅱ	7
				英語科教育法Ⅲ	7
	生徒指導の理論と方法及び特別活動の指導法	50		英語科教育法Ⅳ	7
	教育相談及びキャリア教育の理論と方法	53			

【 大 学 院 】

○看護学研究科看護学専攻 （博士前期課程）

（その1）　（単位：人）

授業科目			受講者数
共通科目	大学院共通科目	研究と倫理	1
		教育学特論	0
		教育心理学特論	未開講
		ジェンダー論	3
		臨床倫理	6
		グローバルヘルス論	0
		ケア論	0
		看護マネジメント論	6
	専攻共通科目	看護理論と実践	7
		看護学基盤論	6
		看護研究と実践	7
		看護倫理	7
		看護サービス管理論	6
		看護コンサルテーション論	6
		フィジカルアセスメント特論	6
		病態生理学	6
		臨床薬理学	7
		こころの発達	3
		データ分析方法論Ⅰ	3
		看護教育論Ⅰ	5
		看護教育論Ⅱ	7
		疫学研究方法論	7
		保健医療政策と経済Ⅰ	9
		保健医療政策と経済Ⅱ	9
		看護学の動向と展望	11
		看護情報学Ⅰ	2
		看護情報学Ⅱ	2
		最新専門看護実践講座Ⅰ	4
		最新専門看護実践講座Ⅱ	4
		インディペンデントスタディ	0
	共創看護学領域	看護理論と研究Ⅰ	1
		看護理論と研究Ⅱ	未開講
		学際的研究方法	0
		データ分析方法論Ⅱ	0
		看護学英語	0
		共創看護学セミナー	0
		バイオメトリクス看護学演習	0
	がん看護学領域	がん看護論	1
		緩和ケア特論	2
		がん看護方法論Ⅰ	2
		がん看護方法論Ⅱ	1
		がん看護方法論Ⅲ	1
		がん病態生理学	2
		がん診断治療学	未開講
		がん薬理学	3
		がん看護学実践演習Ⅰ	2
		がん看護学実践演習Ⅱ	1
		がん看護学実践演習Ⅲ	1
		がん看護学実践演習Ⅳ	1
		がん看護学実践演習Ⅴ	1

授業科目			受講者数
領域専門科目	慢性看護学領域	慢性看護論	1
		慢性看護対象論	0
		慢性看護方法論Ⅰ	0
		慢性看護方法論Ⅱ	1
		慢性疾患診断治療学Ⅰ	未開講
		慢性疾患診断治療学Ⅱ	1
		慢性看護学実践演習Ⅰ	0
		慢性看護学実践演習Ⅱ	1
		慢性看護学実践演習Ⅲ	0
		慢性看護学実践演習Ⅳ	1
		慢性看護学実践演習Ⅴ	1
	クリティカルケア看護学領域	クリティカルケア看護論Ⅰ	未開講
		クリティカルケア看護論Ⅱ	未開講
		クリティカルケア看護方法論Ⅰ	未開講
		クリティカルケア看護方法論Ⅱ	1
		クリティカルケア看護方法論Ⅲ	未開講
		クリティカルケア看護方法論Ⅳ	1
		クリティカルケア診断治療学Ⅰ	1
		クリティカルケア診断治療学Ⅱ	未開講
		クリティカルケア看護学実践演習Ⅰ	未開講
		クリティカルケア看護学実践演習Ⅱ	1
		クリティカルケア看護学実践演習Ⅲ	1
		クリティカルケア看護学実践演習Ⅳ	未開講
		クリティカルケア看護学実践演習Ⅴ	1
	母性看護学領域	女性健康看護論	未開講
		女性健康支援論	未開講
		子育て包括ケアシステム論	未開講
		女性の健康危機マネジメント論	未開講
		母性看護フィールド演習Ⅰ	未開講
		母性看護フィールド演習Ⅱ	未開講
	小児看護学領域	小児看護論	1
		小児看護対象論	1
		小児看護方法論Ⅰ	1
		小児看護方法論Ⅱ	1
		小児診断治療学Ⅰ	未開講
		小児診断治療学Ⅱ	2
		小児看護学実践演習Ⅰ	1
		小児看護学実践演習Ⅱ	1
		小児看護学実践演習Ⅲ	1
		小児看護学実践演習Ⅳ	0
		小児看護学実践演習Ⅴ	1

（その2）　　（単位：人）

授業科目			受講者数
領域専門科目	老人看護学領域	老人看護論	未開講
		老人看護対象論	未開講
		老人看護方法論	1
		老人ケアシステム論	1
		老人看護展開論Ⅰ	未開講
		老人看護展開論Ⅱ	未開講
		老年病診断治療学Ⅰ	未開講
		老年病診断治療学Ⅱ	1
		老人看護学実践演習Ⅰ	未開講
		老人看護学実践演習Ⅱ	未開講
		老人看護学実践演習Ⅲ	1
		老人看護学実践演習Ⅳ	1
		老人看護学実践演習Ⅴ	1
	精神看護学領域	精神看護論	1
		精神看護対象論	1
		精神看護方法論Ⅰ	1
		精神看護方法論Ⅱ	1
		精神看護展開論Ⅰ	1
		精神看護展開論Ⅱ	0
		精神看護展開論Ⅲ	0
		精神看護展開論Ⅳ	0
		精神診断治療学Ⅰ	2
		精神診断治療学Ⅱ	未開講
		精神看護学実践演習Ⅰ	1
		精神看護学実践演習Ⅱ	1
		精神看護学実践演習Ⅲ	1
		精神看護学実践演習Ⅳ	1
		精神看護学実践演習Ⅴ	1
	家族看護学領域	家族看護論	2
		家族看護対象論	2
		家族看護方法論Ⅰ	7
		家族看護方法論Ⅱ	7
		家族看護実践論Ⅰ	2
		家族看護実践論Ⅱ	0
		家族療法	未開講
		家族ケアの開発	2
		家族看護学実践演習Ⅰ	2
		家族看護学実践演習Ⅱ	2
		家族看護学実践演習Ⅲ	2
		家族看護学実践演習Ⅳ	2
		家族看護学実践演習Ⅴ	2
	在宅看護学領域	在宅看護論	1
		在宅看護方法論Ⅰ	1
		在宅看護方法論Ⅱ	4
		在宅看護方法論Ⅲ	未開講
		在宅ケアシステム論	未開講
		在宅看護展開論Ⅰ	1
		在宅看護展開論Ⅱ	1
		在宅療養診断治療学Ⅰ	未開講
		在宅療養診断治療学Ⅱ	1
		在宅リエゾン看護論	5
		在宅リエゾン看護演習	0
		在宅看護学実践演習Ⅰ	1
		在宅看護学実践演習Ⅱ	1
		在宅看護学実践演習Ⅲ	未開講
		在宅看護学実践演習Ⅳ	未開講
		在宅看護学実践演習Ⅴ	未開講

授業科目			受講者数
領域専門科目	地域看護学領域	地域看護論	未開講
		地域ケアシステム論	未開講
		地域看護展開論	未開講
		地域フィールド演習Ⅰ	未開講
		地域フィールド演習Ⅱ	未開講
	災害・国際看護学領域	災害看護論	0
		グローバル社会看護論	0
		災害・国際看護方法論	0
		感染症看護セミナー	4
		環境衛生看護セミナー	0
		共生社会看護セミナー	0
		人道支援看護セミナー	0
		災害看護管理セミナー	0
		災害看護活動論（準備期）	3
		環境防災学	1
		災害・国際看護学研究方法Ⅱ	1
	看護管理学領域	看護管理論	0
		システム経営管理論	0
		看護管理展開論	0
		看護管理の動向と展望	0
		看護管理学実践演習Ⅰ	0
		看護管理学実践演習Ⅱ	未開講
		看護管理学実践演習Ⅲ	未開講
	臨床看護学領域	精神看護ケア研究	1
		老人看護ケア研究	4
		がん看護ケア研究	0
		小児看護ケア研究	2
		慢性看護ケア研究	0
		クリティカルケア研究	0
		臨床看護管理研究	4
		臨床看護教育研究	0
		母性・助産看護ケア研究	3
	地域保健学領域	地域ケア研究	4
		学校保健研究	1
		家族ケア研究	6
		在宅ケア研究	3
		保健学研究	1
		災害・国際看護ケア研究	0
研究支援科目		看護課題研究	8
		看護学研究方法Ⅰ	1
		看護学研究方法Ⅱ	0
		看護教育学専門演習	0
		看護教育学研究方法Ⅰ	1
		看護教育学研究方法Ⅱ	1
		臨床看護学専門演習	5
		臨床看護学研究方法Ⅰ	3
		臨床看護学研究方法Ⅱ	3
		地域保健学専門演習	1
		地域保健学研究方法Ⅰ	1
		地域保健学研究方法Ⅱ	1

○看護学研究科看護学専攻（博士後期課程）

（単位：人）

授業科目		受講者数
専攻共通科目	理論看護学Ⅰ	6
	理論看護学Ⅱ	3
	看護学研究方法Ⅰ	6
	看護学研究方法Ⅱ	2
	看護倫理学	4
	イノベーション看護学	7
	国際看護学	2
	医学研究方法論	0
	インディペンデントスタディ	0
	プロフェッショナルライティング	0
専攻専門科目	共創看護学Ⅰ	3
	共創看護学Ⅱ	0
	がん看護学Ⅰ	0
	がん看護学Ⅱ	1
	成人看護学Ⅰ	0
	成人看護学Ⅱ	1
	小児看護学Ⅰ	0
	小児看護学Ⅱ	0
	老人看護学Ⅰ	0
	老人看護学Ⅱ	0

授業科目		受講者数
専攻専門科目	精神看護学Ⅰ	0
	精神看護学Ⅱ	0
	家族看護学Ⅰ	0
	家族看護学Ⅱ	0
	在宅看護学Ⅰ	0
	在宅看護学Ⅱ	0
	地域看護学Ⅰ	0
	地域看護学Ⅱ	0
	学校保健学Ⅰ	2
	学校保健学Ⅱ	1
	災害・国際看護学Ⅰ	0
	災害・国際看護学Ⅱ	0
	看護病態生理学Ⅰ	0
	看護病態生理学Ⅱ	0
	看護経営管理学Ⅰ	0
	看護経営管理学Ⅱ	0
研究支援科目	看護学特別研究Ⅰ	6
	看護学特別研究Ⅱ	11
	看護学特別研究Ⅲ	6

○看護学研究科共同災害看護学専攻（博士課程）

（単位：人）

授業科目		受講者数
災害看護学の基盤を支える科目群	看護研究	未開講
	理論看護学	未開講
	危機管理論	未開講
	環境防災学Ⅰ	未開講
	環境防災学Ⅱ	未開講
	グローバルヘルス	未開講
	災害法制度と政策論	未開講
	専門職連携実践論	未開講
	災害時専門職連携演習（災害IP演習）	未開講
	災害医療学	未開講
	災害心理学	未開講
	災害と文化	未開講
	災害社会福祉学	未開講
	Professional writing	未開講
	Proposal writing (Research proposal writing skill)	未開講
	Program writing (Program Proposal writing skill)	未開講
災害看護学の専門科目群	災害看護学総論	未開講
	災害看護活動論Ⅰ（急性期）	未開講
	災害看護活動論Ⅱ（亜急性期）	未開講
	災害看護活動論Ⅲ（復旧・復興）	未開講
	災害看護活動論Ⅳ（備え）	未開講
	災害看護グローバルコーディネーション論	未開講
	災害看護リーダシップ・管理論	未開講
	災害看護倫理	未開講
	災害看護理論構築	未開講
	インターンシップⅠ	0
	インターンシップⅡ	0

授業科目		受講者数
インデペンデント学修科目群	災害看護ゼミナールA	未開講
	災害看護ゼミナールB	未開講
	災害看護ゼミナールC	未開講
	災害看護ゼミナールD	未開講
	災害看護ゼミナールE	未開講
	インデペンデントスタディⅠ	0
	インデペンデントスタディⅡ	0
	インデペンデントスタディⅢ	0
	インデペンデントスタディⅣ	0
	インデペンデントスタディⅤ	0
災害看護学研究支援科目群	災害看護研究ゼミナール	未開講
	実践課題研究	未開講
	災害看護研究デベロップメント	未開講
	博士論文	4(0)

※カッコ内は本学の受講者数

○人間生活学研究科人間生活学専攻 （博士前期課程）

（単位:人）

授業科目			受講者数
共通科目	大学院共通科目	研究と倫理	10
		教育学特論	5
		教育心理学特論	未開講
		ジェンダー論	6
		臨床倫理	0
		グローバルヘルス論	2
		ケア論	0
		看護マネジメント論	0
	専攻共通科目	研究方法論Ⅰ	9
		研究方法論Ⅱ	9
		研究方法論Ⅲ	6
		データ解析論	3
		地域資源論	0
		健康リハビリテーション論	未開講
		福祉マネジメント論	3
栄養・生活学領域科目	食物科学	食品生化学特論	2
		食品製造学特論	7
		調理科学特論	2
		食物科学実践演習	5
	人間栄養学	栄養学特論	3
		臨床栄養学特論	未開講
		健康動態論	0
		栄養疫学論	未開講
	栄養・生活学	栄養・生活特論	1
		実践栄養学特論	2
		栄養・生活統計論	0
		環境生態論	未開講
		災害栄養フード・アセスメント論	2
社会福祉学領域科目	福祉専門基礎	社会福祉原論	未開講
		福祉リハビリテーション論	6
		ソーシャルワーク論	8
		社会保障論	未開講
		福祉行財政論	0
		認知症ケア論	7
	地域社会・多文化	地域福祉論	7
		地域福祉政策論	未開講
		国際福祉論	未開講
		多文化福祉論	7

授業科目			受講者数
社会福祉学領域科目	高齢	介護福祉論	7
		高齢者福祉論	未開講
	障害	障害者福祉論	7
		精神保健福祉論	0
	家庭・児童	児童支援福祉論	未開講
		家族支援福祉論	8
文化学領域科目	地域文化	地域文化論Ⅰ	1
		地域文化論Ⅱ	未開講
		地域文化論Ⅲ	1
		観光文化論Ⅰ	0
		観光文化論Ⅱ	未開講
		観光文化論Ⅲ	7
	日本文化	日本文化論Ⅰ	未開講
		日本文化論Ⅱ	1
		日本語文化論	未開講
		文学Ⅰ	0
		文学Ⅱ	未開講
		文学Ⅲ	5
	英語文化	英語文化論Ⅰ	1
		英語文化論Ⅱ	未開講
		英語文化論Ⅲ	未開講
		英語言語文化論特論Ⅰ	0
		英語言語文化論特論Ⅱ	0
		国際日本学	未開講
研究指導科目		栄養・生活学課題研究演習	5
		社会福祉学課題研究演習	3
		文化学課題研究演習	2

○人間生活学研究科人間生活学専攻 （博士後期課程）

（単位:人）

授業科目			受講者数
専攻共通科目		研究デザイン	未開講
		研究倫理	2
専門科目	栄養・生活学領域科目	臨床病態栄養学	0
		環境生態学	0
		人間栄養学	1
		食品機能学	2
		健康動態学	未開講
	社会福祉学領域科目	介護福祉学	0
		障害者福祉学	0
		児童・家族福祉学	0
		地域ソーシャルワーク学	1
		国際福祉政策学	0
		福祉リハビリテーション学	未開講

授業科目			受講者数
専門科目	文化学領域科目	地域文化学Ⅰ	1
		地域文化学Ⅱ	0
		言語文化学Ⅰ	0
		言語文化学Ⅱ	0
研究指導科目		栄養・生活学特別研究Ⅰ	2
		栄養・生活学特別研究Ⅱ	0
		栄養・生活学特別研究Ⅲ	1
		社会福祉学特別研究Ⅰ	1
		社会福祉学特別研究Ⅱ	0
		社会福祉学特別研究Ⅲ	0
		文化学特別研究Ⅰ	0
		文化学特別研究Ⅱ	0
		文化学特別研究Ⅲ	0

3 科目等履修生・特別聴講学生の状況

(1)科目等履修生

(単位:人)

授 業 科 目	受講者数
観光産業論Ⅰ	1
社会秩序と法	1

(2)特別聴講学生

(単位:人)

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
基礎演習	5	基礎ジェンダー学	1
中国語基礎Ⅰ	4	心理学	5
感染症看護セミナー	2	現代人権論	5
災害看護活動論(準備期)	1	健康スポーツ科学Ⅰ	3
環境防災学	1	対人関係とメンタルヘルス	3
中国語基礎Ⅱ	1	栄養と健康	3
ドイツ語基礎Ⅰ	2	地域学概論	2
日本語Ⅰ	5	英語文法論	2
日本語Ⅱ	5	日本語音声学・音韻論	2
文化人類学	4	基礎古典	2
文化と権利	3	近代文学講読	1
文化と裁判	1	日本文化論	1
日本文学概論	3	観光文化論Ⅰ	2
言語学概論	2	観光と自然環境	1
日本語学概論	2	観光学総論	4
ビジネスリテラシー	1	観光産業論Ⅰ	3
基礎生物学	4	社会秩序と法	1
経済学	1	生活と法文化	3
倫理学	3		

4 教員免許状取得状況・国家資格等合格状況

(1)教員免許状取得状況(過去3年間分)

(単位:人)

学部・学科	区 分		令和5年度	令和6年度	令和7年度
文化学部 文化学科	免許状取得者数	実人数	18	17	24
		中一種免(英語)	8	4	8
		高一種免(英語)	8	4	8
		中一種免(国語)	10	13	16
		高一種免(国語)	10	13	16
	教員就職者数		15	10	16
看護学部 看護学科	免許状取得者数	実人数	12	8	14
		一種免(養護)	12	8	14
	教員就職者数		5	2	0
健康栄養学部 健康栄養学科	免許状取得者数	実人数	15	9	8
		一種免(栄養)	15	9	8
	教員就職者数		2	3	4
看護学研究科 博士前期課程	免許状取得者数	実人数	1	1	1
		高専修免(看護)	0	0	0
		養教専修免	1	1	1
人間生活学研究科 博士前期課程	免許状取得者数	実人数			
		中専修免(英語)			
		高専修免(英語)			
		栄教専修免			
合 計	免許状取得者数(実人数)		46	35	47
	教員就職者数		22	15	20

※教員就職者数は正規採用者と臨時的任用者との合計

(2)国家試験合格状況

(単位:人)

国家資格	受 験 日	区 分	受験者数	合格者数	合格率
看 護 師	令和8年2月15日	新 卒	83	81	97.6%
		既 卒	0	0	
保 健 師	令和8年2月13日	新 卒	75	69	92.0%
		既 卒	0	0	
助 産 師	令和8年2月12日	新 卒	8	8	100.0%
		既 卒	1	1	100.0%
社会福祉士	令和8年2月1日	新 卒	66	66	100.0%
		既 卒	8	6	75.0%
精神保健福祉士	令和8年1月31日 令和8年2月1日	新 卒	25	25	100.0%
		既 卒	0	0	
介護福祉士	令和8年1月25日	新 卒	8	7	87.5%
		既 卒	0	0	
管理栄養士	令和8年3月1日	新 卒	42	28	66.7%
		既 卒	0	4	

（3）専門看護師・認定看護管理者合格状況

（単位：人）

専門看護分野名	合格者数
がん看護	0
慢性疾患看護	0
急性・重症患者看護	0
小児看護	1
精神看護	0
家族支援看護	1
在宅看護	1
老人看護	0
認定看護管理者	1

５ 学位等及び大学賞･学長賞等の授与状況

（1）学位等授与状況

〇博　士

（単位:人）

研　究　科　名	博　　士	
	令和7年度	累　　計
看護学研究科(博士後期課程)	5	57
看護学研究科(博士課程)	0	8
人間生活学研究科(博士後期課程)	1	16
健康生活科学研究科健康生活科学専攻(博士後期課程)		50
合　　計	6	131

〇修　士

（単位:人）

研　究　科　名	修　　士	
	令和7年度	累　　計
看護学研究科(博士前期課程)	14	367
人間生活学研究科(博士前期課程)	11	216
合　　計	25	583

【学位授与者一覧】

〇博　士

授与年月日	学位の種類	氏　名	論　文　名
令和7年9月24日	博士(看護学)	石浦　光世	重度の障害のある幼児期のこどもが社会に参加する力を育む看護支援
令和7年9月24日	博士(看護学)	宮脇　聡子	遺伝性腫瘍と診断された乳がんサバイバーのTransition
令和7年9月24日	博士(看護学)	中村　夏子	浮腫の測定による心不全の評価
令和8年3月19日	博士(看護学)	池田　恵美子	スタッフナースのセルフリーダーシップに関する研究
令和8年3月19日	博士(看護学)	田之頭　恵里	計画手術からの回復過程にある学童期の子どもの主体性の様相
令和8年3月19日	博士(生活科学)	小山　智久	小麦粉ドウへのNaCl、水、及び各種ポリフェノールの添加が小麦粉ドウ内の化学的相互作用や加工特性に及ぼす影響

〇修　士

授与年月日	学位の種類	氏　名	論　文　名
令和7年9月24日	修士(看護学)	阿部　李佳子	COVID-19 パンデミックに立ち向かった訪問看護師のレジリエンス
令和7年9月24日	修士(学術)	GU JUNHAO	吉延棚田の開発と保護に関する研究-中国の棚田景観の開発利用の経験を参考にして
令和8年3月19日	修士(看護学)	安岡　愛	急性期一般病棟の身体拘束最小化に関する研究
令和8年3月19日	修士(看護学)	淺香　早希	入退院を繰り返す心不全患者と共に生活する家族の家族マネジメント
令和8年3月19日	修士(看護学)	穴吹　亮典	成人初期にある精神障害者の社会的自立を支える親への看護実践

○修　士（続き）

授与年月日	学位の種類	氏　名	論　文　名
令和8年3月19日	修士(看護学)	榎島　美静	慢性疾患とともに生きる思春期の人々の症状マネジメント
令和8年3月19日	修士(看護学)	岸本　晶子	看護師が日常生活援助の中で行う自らの意思を言語的に表明できない高齢者の意向を汲み取るケア
令和8年3月19日	修士(看護学)	坂本　美紀	地域包括支援センターにおける救急外来からの帰宅時支援の情報活用
令和8年3月19日	修士(看護学)	佐條　萌梨	診療所で行う2型糖尿病をもつ就労者への治療継続支援―CDEJ資格を有する看護師への質問紙調査から―
令和8年3月19日	修士(看護学)	柴﨑　有美	未成年の子どもを持つ終末期がん患者の家族に対する家族支援専門看護師による家族支援
令和8年3月19日	修士(看護学)	園田　真利子	急性期病院におけるせん妄の高齢患者の「もてる力」を捉える援助
令和8年3月19日	修士(看護学)	長尾　涼太	外来に通院している軽症脳卒中患者の再発予防に向けたセルフマネジメント
令和8年3月19日	修士(看護学)	羽澤　昌里	がん薬物療法の継続を中止した後期高齢がん患者の意思決定のプロセス
令和8年3月19日	修士(看護学)	方　愛	新人看護師の臨床判断における「気づき」の認知的プロセス
令和8年3月19日	修士(看護学)	矢野　晋平	ICUにおける人工呼吸器装着患者の日常生活行動
令和8年3月19日	修士(学術)	北村　優佳	GHQ/SCAP・CIE映画に関する批判的談話分析
令和8年3月19日	修士(社会福祉学)	角　操	特別養護老人ホームにおける「在宅・入所相互利用加算」の実践方法の研究
令和8年3月19日	修士(生活科学)	門脇　愛美	近赤外線分光法を用いた共存物質存在下におけるペクチンゲルの硬度測定と共存物質がもたらす化学構造変化の解析
令和8年3月19日	修士(生活科学)	小柳　彩華	フキの葉抽出物の抗糖尿病作用に着目した機能性の評価
令和8年3月19日	修士(社会福祉学)	CUI XIAOMAN	過疎地域における遠隔医療の実践方法に関する研究―都道府県デジタル推進計画および回復期病院の取り組みの分析―
令和8年3月19日	修士(社会福祉学)	篠原　志津	子ども・若者・家庭の多面的な生活課題に対応し得る総合的な地域支援ネットワーク体制の構築に関する一考察
令和8年3月19日	修士(生活科学)	中城　仁暉	疾患モデルマウスを用いた炎症性腸疾患の新規治療法の探究 ～腸管破骨細胞を治療標的として～
令和8年3月19日	修士(学術)	REN CHENTAO	衰退している伝統産業の復興による地域活性化する研究 ―高知県の竹産業を中心に―
令和8年3月19日	修士(生活科学)	前田　律子	イタドリ茎部由来成分の抗アレルギー作用について
令和8年3月19日	修士(生活科学)	三澤　伶輔	クロモジ抽出物投与によるマウスの骨格筋増量作用とそのメカニズム

(2)「地域共生推進士」認定書授与状況

授与年月日	称　号	授与者人数(人)	部　局　内　訳
令和8年3月19日	地域共生推進士	39	文化学部23名、看護学部14名、社会福祉学部2名

(3)日本語教員授与状況

授与年月日	称　号	授与者人数(人)
令和8年3月19日	日本語教員	5

(5)大学賞・学長賞授与状況

【大学賞】

学部・研究科	学科・専攻	学年	受賞者数	功績
看護学部	看護学科	4	1	入学時より高い目標を掲げ、熱意をもって学業へ取り組み、周囲と協働関係を築き、向上心をもって看護実践と看護研究に励み、特に優秀な成績を収めた。
人間生活学研究科	人間生活学専攻 博士前期課程	2	1	大学入学以来、博士前期課程修了に至るまで常に高い志と熱意をもって研鑽に励み、優れた学業成績と研究成果を収め、学術と社会の発展に貢献した。

【学長奨励賞】

学部・研究科	学科・専攻	学年	氏名	功績
文化学部	文化学科	4	小川　亮	各学部から、大学における学業成績が特に優れていると認められ、かつ、他の学生の模範となる学生を推薦いただき、選考を行った。 今年度は、文化学部9名、看護学部6名、社会福祉学部6名、健康栄養学部3名、計24名の学生が受賞した。
			谷口　茉優	
			千頭　紗綾	
		3	逢坂　珠穂	
			安岡　沙里	
			下村　彩巴	
		2	亀田　菜月	
			山本　和花	
			有澤　杏	
看護学部	看護学科	4	藤崎　里奈	
			大岩　由奈	
		3	手水　彩夏	
			御手洗　澪	
		2	島居　那奈	
			西内　彩花	
社会福祉学部	社会福祉学科	4	井上　萌実	
			植田　愛唯	
		3	上間　怜奈	
			安光　乃彩	
		2	大津　絢那	
			尾﨑　結衣	
健康栄養学部	健康栄養学科	4	大島　綾乃	
		3	田中　千尋	
		2	大原　涼叶	

【学長賞】

所属	学科	学年	氏名	功績
文化学部	文化学科	4	元久　莉緒	オーテピア高知図書館と協働し、読書文化向上に貢献。YouTubeで40本超の読み聞かせ動画を制作し、SNSで魅力を発信。ビブリオバトル高知大会では運営を担い、活字文化推進会議では全国大会の運営のみならずバトラーとして参加するなど、継続的な活動と積極性が高く評価されている。
			佐保　菜々美	
			松宮　末妃	RKC高知放送のラジオ番組「なないろクレヨンUoK！」を企画・構成し、高知県や本学の魅力を発信している。地域活動やイベント紹介を継続し、学生目線で社会課題も伝え、県民に新たな視点を提供。県と本学の認知度向上に大きく貢献した。
			金子　礼奈	
看護学部	看護学科	4	岡邉　里香	「イケあい地域災害学生ボランティアセンター」第11代幹部として、未災地ツアーを復活し、中学生と地域住民をつなぎ減災意識を啓発。交流イベントや学習会を企画し、防災サークルの存続と地域防災に尽力し、後輩の模範となった。
			佐々木　祐奈	
			高倉　萌々子	
			一ノ瀬　航	入学時から災害看護を志し、災害看護に関する学習会の開催や地域防災訓練に参加。能登半島地震では「日本災害医学会学生部会（DMAS）」会員として石川県庁で保健医療対策本部を支援したり、輪島市でボランティア活動を実施したりと、地域貢献活動を推進した。
			坂　衣織	
			有馬　朋佳	「健援隊」の活動において、高齢者への健康便りや避難訓練、保育園児への健康教育、紅葉祭でのAED体験など幅広く実施し、地域のヘルスリテラシー向上とセルフケア支援に貢献した。後輩の相談役として10年続く活動の継承にも尽力した。
			伊藤　優	
			松井　萌	
			渡部　遥伽	
社会福祉学部	社会福祉学科	4	森岡　ふみ	手話を通じた地域活動、女子カフェやDV予防講座の企画・講師、精神・発達障害理解促進に継続的に取り組んだ。手話では県最年少で通訳試験挑戦予定の実力を持ち、リカバリーカレッジでの活動も評価され、地域課題解決に貢献した。
			石川　紗羅	防災ではサークル代表として活動再開を牽引し、未災地ツアーや被災地支援に参加。地域づくりでは高齢者訪問や防災食づくりを住民と協働。さらに女子カフェやDV予防講座を企画・講師として実施し、若者支援と地域課題解決に貢献した。
			UOK手話サークル	「手話は言語である」ことを軸に、専門職を目指しつつ地域で手話普及に尽力した。勉強会や高齢者講座、福祉フェア、こども食堂など幅広い世代に活動を展開した。県条例PR動画出演など啓発にも貢献し、手話普及に不可欠な存在となっている。
			Kochi Teens Base	学校に通いづらい中高生の居場所づくりに参画。空間づくりや広報を担い、毎週の活動で子どもに寄り添い、笑顔や自己表現を引き出した。運営協議会で提案も行い、地域に新たな安心できる場を創出している。
			かんきもん	援農部門を中心に過疎地域で住民と協働し、農業体験や商品開発を通じて地域資源を活かした地域活性化に貢献。担い手不足解消や連携の重要性を学び、持続可能な地域づくりに寄与した。
			ジェンダーカフェ	高知県初の中高生女子カフェ「FIRST PLACE」の設計・運営に主体的に参画し、県職員や支援団体と協働。デートDV予防講座や高校出前授業を企画・実施し、独自教材で講師も務めた。先駆的な取り組みで、若年女性支援と地域課題解決に貢献した。
			土曜の永国寺カフェ企画運営団体	社会的処方を軸に、地域包括支援センターや住民と協働し、学びとつながりの場を創出。大学の学びを地域に還元し、認知症理解の普及にも貢献し、地域から高い信頼を得ている。
			永国寺はらっぱフェス企画運営団体	永国寺はらっぱフェスの企画段階から2年間継続参加し、会場運営やカフェ提供、編みぐるみ制作などでイベントのより良い雰囲気づくりに貢献。地域交流を促進し、学生・住民に大きな影響を与えた。

協定校	氏名	内容		招聘者
健康栄養学部	健康栄養学科	4	芦田　真子	1回生から地域貢献活動に積極的に参加。COME☆RISHでは部長として米の収穫から販売まで担い、消費拡大に貢献。「小1サポーター」として小学校で担任補助や児童支援を3年間継続し、児童や教員から高評価を得た。
			東出　彩未	こども食堂で調理補助や盛り付け、片付けを行い、食事提供を支援。子どもと遊びや学習を通じ交流し、夏祭りやクリスマスなどのイベント準備も担当。複数の食堂で4年間活動し、地域に信頼される存在となった。
			馬場　日和	室戸ボランティアリーダーとして教育事業活動に主体的に参加。キャンプ企画長や副代表を務め、企画書作成から実施まで中心的役割を果たし、自然体験を通じた学びを提供し地域教育に貢献した。
			鍬﨑 ひかる	立志社中チームおよび活輝創生実行委員会で4年間活動。桜まつり企画や代表として地域再生に尽力し、調整力と発想力で特色ある取組を創出。尾川地区の課題解決に貢献し、地域から信頼される存在となった。
			大西　彩花	「香川Olive Deers」に所属し、全日本社会人ホッケー選手権で2年連続準優勝。また、「高知社会人ホッケークラブ」にも所属し、高知・香川両チームで練習を重ね、学業と両立し地域スポーツ振興にも貢献した。
文化学部	文化学科	4	麻岡　里光	RKC高知放送のラジオ番組「なないろクレヨンUoK！」を企画・構成し、高知県や本学の魅力を発信している。また、おおとよ探検隊の創設および主要メンバーとして、地域の魅力を広く社会に伝え、地域社会の活性化に大きく寄与した。
			太田　璃乃	大豊町立川地区で学生主体のカフェ運営や広報活動を行い、地域住民と交流しながら魅力を発信。過疎高齢化が進む地域に活力をもたらし、地域資源の発見や新規事業にも挑戦。域学共生の理想的モデルとして高く評価されている。
			岡本　奈津子	
			久保　彩音	
			清水　涼花	
			天羽　優衣	
			末政　七海	

（6）サーティフィケーション授与状況

協定校	氏名	内容	招聘者
エルムズカレッジ	・Stephy Beauzile ・Nathaniel Caraballo ・Kayleen Delgado-Ruiz ・Alistair Hoffman-Ovens ・Kayla Joyce ・Thorn Tuttle	アメリカ、エルムズカレッジ短期受入研修 2025年5月24日～6月5日	高知県立大学 （国際交流センター）
文藻外語大学 開南大学	・林詩璇 ・許竣傑 ・郭倞廷 ・王怡蘋	高知の産業・伝統文化を学ぶ高知県立大学プログラム 2026年1月23日～1月30日	高知県立大学 （国際交流センター）
国立木浦大学校	・姜慧蓮 ・金拏冏 ・金秀嬪 ・羅炫燁 ・朴恩瑩 ・李叡侖 ・李侖珍 ・鄭贇書 ・鄭賀榮 ・曺謙 ・曺律 ・黃多偕 ・黃秀正 ・Kim Chaeun ・Choi Ranhee	韓国、国立木浦大学校受入プログラム 2026年1月19日～1月30日	高知県立大学 （国際交流センター）
北京聯合大学旅游学院文藻外語大学 国立木浦大学校	・何雨晨 ・臧書睿 ・陳侑欣 ・吳鈺柔 ・李韶二	2025年度交換留学生	高知県立大学 （国際交流センター）
文藻外語大学	・涂品帆 ・何妤欣	中国語教育実習 2025年10月1日～2026年2月16日	高知県立大学 （文化学部）

6 SD・FD活動実施状況

（1）全学SD・FD

区 分	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数（人）	主 催	共 催
SD	令和7年度SD研修（ハラスメント防止研修） 「高等教育機関の特徴をふまえた職場のウェルビーイング向上」	上月　翔太（愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 講師 ）	令和7年9月30日	108	人権委員会	－
FD	第1回社会的処方研究会「健やかで幸せに老いるために－高知県津野町のニーズ調査を参考にして」	地域共生学研究機構 機構長　甲田 茂樹 氏	令和7年5月14日	57	高知県立大学地域共生学研究機構	FD専門部会
	強い公立大学の在り方を考える～誰も経験したことのない少子化時代への対応～	リクルート進学総研所長・カレッジマネジメント編集長 小林浩　氏	令和7年8月22日	54	高知工科大学	高知県立大学
	学生対応のための精神障害の理解	高知県精神保健福祉センター 所長　山﨑正雄　氏	令和7年11月12日	94	FD専門部会	－

（2）部局別SD・FD

部 署	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数（人）	主 催	共 催
文化学部	「基礎演習」および新1回生の状況	「基礎演習」担当教員7名	令和7年9月8日	15	文化学部FD委員会	－
看護学部・看護学研究科	看護学教育モデル・コア・カリキュラム令和6年度改訂版　Appendixの理解と活用	日本看護系大学協議会常任理事 鎌倉やよい氏 看護実践能力評価基準検討委員会副委員長 西村礼子氏	令和7年4月28日	24	日本看護系大学協議会	－
	文部科学省・厚生労働省からの情報提供	文部科学省高等教育局医学教育課 加藤治実氏 厚生労働省医政局看護課 習田由美子氏	令和7年6月20日	12	日本看護系大学協議会	－
	看護学教育モデル・コア・カリキュラムに基づくコンピテンシーの評価方法について	日本看護系大学協議会常任理事 鎌倉やよい氏 看護実践能力評価基準検討委員会副委員長 西村礼子氏	令和7年7月14日	14	日本看護系大学協議会	－
	第3回JABNE研修交流集会	①東京都立大学 大学教育センター教授松田岳士氏 ②パネリスト兵庫県立大学看護学部教授 川崎優子氏 愛知医科大学看護学部　教授　心光　世津子　氏	令和7年8月20日	9	日本看護学教育評価機構	看護学部FD委員会
	「令和6年度改訂版看護学教育モデル・コア・カリキュラム」に関する理解を深める1回目	グループワーク及びディスカッション	令和7年9月18日	41	看護学部FD委員会	－
	次世代育成力強化に向けた教授能力開発	千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター長 和住淑子氏	オンデマンド動画視聴+個人ワーク	5	千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター	－
	「令和6年度改訂版看護学教育モデル・コア・カリキュラム」に関する理解を深める2回目	グループワーク及びディスカッション	令和7年11月12日	39	看護学部FD委員会	－
	看護を語る会	青木早苗（看護学部　教授） 島本亮（看護学部　教授） 岩井由里（看護学部　助教） 小松原大典（看護学部　助教）	令和8年3月16日	47	看護学部FD委員会	－
社会福祉学部	大学の魅力発信に向けて	広報委員会	令和7年5月21日	22	社会福祉学部FD委員会	広報委員会
	新たな研究シーズの共有	田中顕悟（社会福祉学部　准教授） 井上夏子（社会福祉学部　講師） 清家庸佑（社会福祉学部　講師）	令和7年5月26日	23	社会福祉学部FD委員会	－

部　署	内　容	講師・担当者	年月日	参加者数（人）	主　催	共　催
社会福祉学部	競争的資金獲得のための準備と方法	河内康文（社会福祉学部　准教授） 田中眞希（社会福祉学部　講師）	令和7年7月28日	21	社会福祉学部FD委員会	－
	学生の修学支援1	FD委員会	令和7年9月22日	21	社会福祉学部FD委員会	－
	ハンセン病と差別の連鎖	木村真三　氏	令和7年12月8日	10	社会福祉学部FD委員会	－
	社会福祉学部の価値創出	清家庸佑（社会福祉学部　講師）	令和7年12月22日	19	社会福祉学部FD委員会	－
	ウェルビーイングを学ぶ	田中きよむ（社会福祉学部　教授）	令和8年1月26日	20	社会福祉学部FD委員会	－
	チーム基盤型学習と教育効果	秋谷 公博（地域教育研究センター准教授）	令和8年2月9日	23	社会福祉学部FD委員会	－
健康栄養学部	科学研究費助成事業の概要、科研費獲得の方法とコツ（実例とポイントでわかる採択されるための申請書の書き方）について	公立大学教職員研修システム	令和7年7月10日～9月4日	8	健康栄養学部	－
	入学前教育プログラム（基礎学力支援、職業理解と心構えの形成）について	株式会社進研アド　平田様 竹井悠一郎（健康栄養学部　准教授）	令和7年10月1日	13	健康栄養学部	－
	令和7年度 包括連携事業 生活習慣病予防のための料理教室の実施報告（包括連携事業担当者からの情報提供と意見交換）	隅田有公子（健康栄養学部　講師）	令和8年1月19日	19	健康栄養学部FD委員会	－
地域教育研究センター	要配慮の学生への対応について	石山貴章 （地域教育研究センター　教授）	令和7年6月16日	5	地域教育研究センターFD委員会	－
	域学共生と地域貢献について	秋谷公博 （地域教育研究センター　准教授）	令和8年3月3日	4	地域教育研究センターFD委員会	－

（3）全学人権研修会

部　署	内　容	講師・担当者	年月日	参加者数（人）	主　催	共　催
全学	令和7年度SD研修（ハラスメント防止研修） 「高等教育機関の特徴をふまえた職場のウェルビーイング向上」	上月　翔太（愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 講師 ）	令和7年9月30日	108	人権委員会	－

（4）部局別人権研修会

部　署	内　容	講師・担当者	年月日	参加者数（人）	主　催	共　催
文化学部	開催無し	－	－	－	－	－
看護学研究科	令和7年度 第1回看護学部人権研修 （臨地実習における倫理的配慮）	ハラスメント等防止専門部会委員 （看護学部）	令和7年5月21日	34	人権委員会	－
看護学部・	令和7年度 第2回看護学部人権研修 （－互いを尊重し高めあう組織と人づくり－ キャンパスハラスメントを防ぐために）	手島 恵 （東京医療保健大学副学長）	令和8年1月28日	37	人権委員会	－
社会福祉学部	教育・研究活動とハラスメント	田中 顕悟 （社会福祉学部　教授）	令和8年3月4日	22	人権委員会	社会福祉学部FD委員会
健康栄養学部	だれもが幸せにくらすために ～ハラスメント防止に向けて ～	江渕 弘明（公益財団法人 高知県人権啓発センター）	令和8年3月10日	18	人権委員会	－
地域教育研究センター	障がいのある学生への対応と考え方	石山　貴章 （地域教育研究センター　教授）	令和7年6月16日	4	人権委員会	地域教育研究センターFD研修会
事務局	大学におけるハラスメントの防止対策について	宮林 常崇（一般社団法人公立大学協会 参与） ※オンデマンド形式で実施	〈視聴期間〉 令和7年7月1日～ 令和7年9月30日	53	人権委員会	－

（5）学外研修

部　署	内　容	期　間	参加者数（人）	主　催
事務局	新規採用職員研修（基礎①）	令和7年4月14日	1	高知県
	新規採用職員研修（社会人経験者）	令和7年4月11日	1	高知県
	新規採用職員研修（基礎①） （受講方法：オンライン）	令和7年4月21日～5月20日 令和7年5月14日～6月12日	1	高知県
	新規採用職員研修（社会人経験者） （受講方法：オンライン）	令和7年4月21日～5月20日 令和7年5月14日～6月12日	1	高知県
	新規採用職員研修（基礎②）	令和7年5月12日	1	高知県
	新規採用職員研修（基礎③）	令和7年6月16日～6月17日	1	高知県
	新規採用職員研修（社会人経験者）	令和7年6月20日	1	高知県
	公立大学に関する基礎研修 （受講方法：オンライン）	令和7年4月18日	2	一般社団法人公立大学協会
	「次世代リーダー養成ゼミナール（第1回）」開講講義	令和7年5月23日	4	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	公立大学職員セミナー（初任職員向け）	令和7年8月25日～8月26日	3	一般社団法人公立大学協会
	SPODフォーラム2025	令和7年8月27日～8月29日	14	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	高知工科大学SD研修（SPOD内講師派遣プログラム）　これからの教職協働	令和7年9月8日	3	高知工科大学
	香川高等専門学校（SPOD内講師派遣プログラム）　職員のためのわかりやすい説明入門	令和7年9月16日	1	香川高等専門学校
	公立大学法人会計セミナー（中級） （受講方法：オンライン）	令和7年9月24日～令和8年1月15日	1	一般社団法人公立大学協会
	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（レベルⅢ）	令和7年10月2日～10月3日	2	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（レベルⅠ）	令和7年10月30日～10月31日	3	四国地区教職員 能力開発ネットワーク

Ⅴ　学生

1　行事実績

令和7年

4月　4日(金)		入学式
4月　7日(月)		新入生ガイダンス・在学生ガイダンス
4月　8日(火)		新入生ガイダンス・在学生ガイダンス
4月10日(木)		前期授業開始
4月12日(土) ～	4月13日(日)	健康診断(池キャンパス)
4月17日(木)		履修登録締切
4月20日(日)		健康診断(永国寺キャンパス)
4月21日(月)		創立記念日
4月24日(木) ～	4月30日(水)	前期履修登録変更期間
5月　2日(金)		火曜日授業
5月　8日(木)		月曜日授業
5月14日(水)		定例学生大会(午後)
5月26日(月) ～	5月30日(金)	前期履修中止届出期間
7月　3日(木)		月曜日授業
7月　7日(月) ～	7月25日(金)	後期英語コミュニケーション科目履修希望調査
7月26日(土) ～	7月27日(日)	オープンキャンパス
8月　1日(金) ～	8月　8日(金)	補講・試験期間
8月　9日(土) ～	9月　8日(月)	夏季休業期間
8月29日(金)		前期成績提出締切
8月30日(土) ～	8月31日(日)	大学院第一次学生募集選抜
9月　5日(金)		前期成績開示日
9月　9日(火) ～	9月30日(火)	集中講義期間
9月24日(水)		9月卒業式・修了式
9月26日(金)		前期成績判定日
10月　1日(水)		後期授業開始
10月　8日(水) ～	10月14日(火)	後期履修登録変更期間
10月16日(木)		月曜日授業
11月　8日(土)		大学祭(紅葉祭)
11月21日(月) ～	11月28日(金)	後期履修中止届出期間
11月22日(土) ～	11月23日(日)	学校推薦型選抜・社会人選抜・3年次編入学選抜
12月16日(火) ～	12月23日(火)	集中講義期間
12月24日(水) ～	1月　4日(日)	冬季休業期間

令和8年

1月　5日(月)		授業開始
1月14日(水)		月曜日授業
1月16日(金)		休講(大学入学共通テスト準備のため)
1月17日(土) ～	1月18日(日)	大学入学共通テスト
1月10日(土)		大学院第二次学生募集選抜
1月11日(日)		私費外国人留学生選抜
2月　2日(月) ～	2月20日(金)	次年度前期英語コミュニケーション科目履修希望調査
2月10日(火) ～	2月18日(水)	補講・試験期間
2月19日(木) ～	3月19日(木)	集中講義期間
2月25日(水) ～	2月26日(木)	一般選抜(前期日程)
2月26日(木)		後期成績提出締切(4回生)
2月27日(金)		後期成績開示日(4回生)
3月　2日(月)		後期成績提出締切(1～3回生)
3月　4日(水)		卒業判定会議
3月　9日(月)		成績開示日(1～3回生)
3月12日(水) ～	3月13日(木)	一般選抜(後期日程)・社会人選抜
3月19日(木)		卒業式・修了式
3月20日(金) ～	3月31日(火)	春季休業期間
3月26日(木)		後期成績判定日(1～3回生)

2 入学の状況

（1）令和8年度入学者選抜結果（令和7年度実施）

（単位：人）

学部・学科名		区 分		募集人員 a	志願者数b		志願倍率 b/a	受験者数c		受験倍率 c/a	合格者数d		合格倍率 c/d	追加合格者数		入学者数	
					全体	(県内)		全体	(県内)		全体	(県内)		全体	(県内)	全体	(県内)
文化学部	文化学科［言語文化系／地域文化創造系］	推薦	県内	30	48	(48)	1.6	48	(48)	1.6	30	(30)	1.6			30	(30)
			全国	8	30	(0)	3.8	30	(0)	3.8	17	(0)	1.8			17	(0)
		一般	前期	72	195	(42)	2.7	175	(39)	2.4	87	(15)	2.0	0	(0)	76	(13)
			後期	10	266	(60)	26.6	90	(25)	9.0	10	(3)	9.0	0	(0)	8	(2)
		社会人		若干名	0	(0)	－	0	(0)	－	0	(0)	－			0	(0)
		私費外国人留学生		若干名	7		－	6		－	4		1.5			3	
		1年次計		120	546	(150)	4.6	349	(112)	2.9	148	(48)	2.4	0	(0)	134	(45)
		3年次編入		5	3	(2)	0.6	2	(1)	0.4	0	(0)	－	0	(0)	0	(0)
		合計		125	549	(152)	4.4	351	(113)	2.8	148	(48)	2.4	0	(0)	134	(45)
	文化学科［文化総合系(夜間主コース)］	推薦	県内	10	8	(8)	0.8	8	(8)	0.8	8	(8)	1.0			8	(8)
		社会人A		10	12	(7)	1.2	12	(7)	1.2	6	(2)	2.0	0	(0)	6	(2)
		社会人B		10	18	(12)	1.8	13	(9)	1.3	9	(6)	1.4	0	(0)	7	(5)
		1年次計		30	38	(27)	1.3	33	(24)	1.1	23	(16)	1.4	0	(0)	21	(15)
		3年次編入		3	0	(0)	－	0	(0)	－	0	(0)	－	0	(0)	0	(0)
		合計		33	38	(27)	1.2	33	(24)	1.0	23	(16)	1.4	0	(0)	21	(15)
看護学部	看護学科	推薦	県内	25	46	(46)	1.8	46	(46)	1.8	25	(25)	1.8			25	(25)
			全国	5	18	(0)	3.6	18	(0)	3.6	5	(0)	3.6			5	(0)
		一般	前期	45	145	(30)	3.2	133	(30)	3.0	51	(11)	2.6	0	(0)	49	(11)
			後期	5	99	(25)	19.8	33	(10)	6.6	6	(1)	5.5	0	(0)	6	(1)
		社会人		若干名	2	(2)	－	2	(2)	－	1	(1)	2.0			0	(0)
		私費外国人留学生		若干名	0		－	0		－	0		－			0	
		合計（1年次計）		80	310	(103)	3.9	232	(88)	2.9	88	(38)	2.6	0	(0)	85	(37)
社会福祉学部	社会福祉学科	推薦	県内	20	20	(20)	1.0	20	(20)	1.0	20	(20)	1.0			20	(20)
			全国	10	17	(0)	1.7	17	(0)	1.7	10	(0)	1.7			10	(0)
		一般	前期	35	97	(18)	2.8	89	(18)	2.5	42	(7)	2.1	0	(0)	36	(7)
			後期	5	90	(26)	18.0	37	(12)	7.4	9	(3)	4.1	0	(0)	9	(3)
		社会人		若干名	0	(0)	－	0	(0)	－	0	(0)	－			0	(0)
		私費外国人留学生		若干名	3		－	2		－	2		1.0			1	
		合計（1年次計）		70	227	(64)	3.2	165	(50)	2.4	83	(30)	2.0	0	(0)	76	(30)
健康栄養学部	健康栄養学科	推薦	県内	12	16	(16)	1.3	16	(16)	1.3	12	(12)	1.3			12	(12)
			全国	5	14	(0)	2.8	14	(0)	2.8	5	(0)	2.8			5	(0)
		一般	前期	23	69	(9)	3.0	61	(8)	2.7	27	(4)	2.3	0	(0)	24	(4)
		社会人		若干名	1	(1)	－	1	(1)	－	1	(1)	1.0			1	(1)
		私費外国人留学生		若干名	1		－	1		－	0		－			0	
		合計（1年次計）		40	101	(26)	2.5	93	(25)	2.3	45	(17)	2.1	0	(0)	42	(17)
学部計（夜間主を除く）		推薦	県内	87	130	(130)	1.5	130	(130)	1.5	87	(87)	1.5			87	(87)
			全国	28	79	(0)	2.8	79	(0)	2.8	37	(0)	2.1			37	(0)
		一般	前期	175	506	(99)	2.9	458	(95)	2.6	207	(37)	2.2	0	(0)	185	(35)
			後期	20	455	(111)	22.8	160	(47)	8.0	25	(7)	6.4	0	(0)	23	(6)
		社会人		若干名	3	(3)	－	3	(3)	－	2	(2)	1.5			1	(1)
		私費外国人留学生		若干名	11		－	9		－	6		1.5			4	
		1年次計		310	1,184	(343)	3.8	839	(275)	2.7	364	(133)	2.3	0	(0)	337	(129)
		3年次編入計		5	3	(2)	0.6	2	(1)	0.4	0	(0)	－	0	(0)	0	(0)
		総合計		315	1,187	(345)	3.8	841	(276)	2.7	364	(133)	2.3	0	(0)	337	(129)
学部総合計（夜間主も含む）		1年次総合計		340	1,222	(370)	3.6	872	(299)	2.6	387	(149)	2.3	0	(0)	358	(144)
		3年次編入総合計		8	3	(2)	0.4	2	(1)	0.3	0	(0)	－	0	(0)	0	(0)
		総合計		348	1,225	(372)	3.5	874	(300)	2.5	387	(149)	2.3	0	(0)	358	(144)
看護学研究科				26	16	(8)	0.6	16	(8)	0.6	13	(8)	1.2	0	(0)	13	(8)
人間生活学研究科				21	22	(12)	1.0	21	(12)	1.0	14	(11)	1.5	0	(0)	12	(9)
研究科計				47	38	(20)	0.8	37	(20)	0.8	27	(19)	1.4	0	(0)	25	(17)

(2)出身地別入学状況

【 学 部 】

○一般選抜

(単位:人)

学部	文化学部		看護学部		社会福祉学部		健康栄養学部	合　　計			
学科	文　化		看　護		社会福祉		健康栄養				
区分	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	前期	後期	計	割合
北海道	1	1	0	0	0	0	1	2	1	3	1.4%
青森	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
岩手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
宮城	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
秋田	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
山形	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
福島	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
茨城	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
栃木	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.5%
群馬	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0.5%
埼玉	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.5%
千葉	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0.5%
東京	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0.5%
神奈川	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0.5%
新潟	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
富山	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0.5%
石川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
福井	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0.5%
山梨	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
長野	4	0	0	0	0	0	1	5	0	5	2.4%
岐阜	2	0	3	0	0	0	0	5	0	5	2.4%
静岡	1	0	1	0	3	0	1	6	0	6	2.9%
愛知	0	1	1	0	2	0	1	4	1	5	2.4%
三重	0	0	0	0	2	0	0	2	0	2	1.0%
滋賀	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0.5%
京都	4	0	6	0	1	0	2	13	0	13	6.3%
大阪	0	0	3	1	1	0	1	5	1	6	2.9%
兵庫	6	0	8	0	1	0	1	16	0	16	7.7%
奈良	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
和歌山	3	0	2	0	1	0	0	6	0	6	2.9%
鳥取	1	0	1	0	0	0	1	3	0	3	1.4%
島根	3	0	2	0	1	0	0	6	0	6	2.9%
岡山	8	1	1	0	1	2	3	13	3	16	7.7%
広島	7	0	1	1	2	2	1	11	3	14	6.7%
山口	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
徳島	7	3	2	0	4	1	1	14	4	18	8.7%
香川	3	0	1	2	2	1	1	7	3	10	4.8%
愛媛	5	0	4	1	3	0	0	12	1	13	6.3%
高知	13	2	11	1	7	3	4	35	6	41	19.7%
福岡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
佐賀	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
長崎	1	0	0	0	1	0	0	2	0	2	1.0%
熊本	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
大分	2	0	0	0	0	0	0	2	0	2	1.0%
宮崎	1	0	0	0	1	0	0	2	0	2	1.0%
鹿児島	2	0	0	0	0	0	0	2	0	2	1.0%
沖縄	0	0	2	0	1	0	0	3	0	3	1.4%
合計	**76**	**8**	**49**	**6**	**36**	**9**	**24**	**185**	**23**	**208**	**100%**

○学校推薦型選抜

（単位:人）

学部	文　化		看　護	社会福祉	健康栄養	合　計	割合
学科	文化学科 言語文化系／地域文化創造系	文化学科 文化総合系（夜間主コース）	看　護	社会福祉	健康栄養		
三重県	0	0	0	0	1	1	0.8%
京都府	0	0	0	1	0	1	0.8%
兵庫県	3	0	2	0	1	6	4.5%
岡山県	1	0	0	2	1	4	3.0%
広島県	0	0	1	0	0	1	0.8%
徳島県	4	0	0	1	1	6	4.5%
香川県	2	0	0	1	0	3	2.3%
愛媛県	6	0	1	4	0	11	8.3%
高知県	30	8	25	20	12	95	72.0%
福岡県	0	0	0	1	0	1	0.8%
長崎県	0	0	1	0	0	1	0.8%
沖縄県	1	0	0	0	1	2	1.5%
合計	**47**	**8**	**30**	**30**	**17**	**132**	**100%**

【大　学　院】

（単位:人）

研究科	看護学研究科		人間生活学研究科		合　計	割合
専攻	看護学専攻		人間生活学専攻			
課程	博士前期課程	博士後期課程	博士前期課程	博士後期課程		
北海道	0	0	1	0	1	4.0%
東京都	0	0	1	0	1	4.0%
石川県	1	0	0	0	1	4.0%
大阪府	1	1	0	0	2	8.0%
兵庫県	0	1	0	0	1	4.0%
広島県	0	0	1	0	1	4.0%
高知県	4	4	7	2	17	68.0%
福岡県	1	0	0	0	1	4.0%
合計	**7**	**6**	**10**	**2**	**25**	**100%**

3 学生数（令和7年5月1日現在）

（単位：人）

学部・学科・専攻		1回生			2回生			3回生			4回生			5回生以上			合計		
		県内	県外	計	県内	県外	計	県内	県外	計	県内	県外	計	県内	県外	計	県内	県外	計
文化学部（昼）	文化学科	52	84	136	54	75	129	52	76	128	65	89	154				223	324	547
	編入生	0	0	0	0	0	0	1	2	3	0	3	3				1	5	6
	小　計	52	84	136	54	75	129	53	78	131	65	92	157				224	329	553
文化学部（夜間主）	文化学科	10	8	18	12	6	18	14	6	20	24	16	40				60	36	96
	編入生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1				0	1	1
	小　計	10	8	18	12	6	18	14	6	20	24	17	41				60	37	97
看護学部	看護学科	38	43	81	35	47	82	35	46	81	49	37	86				157	173	330
	編入生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0	0	0
	小　計	38	43	81	35	47	82	35	46	81	49	37	86				157	173	330
社会福祉学部	社会福祉学科	32	46	78	33	42	75	26	44	70	30	47	77				121	179	300
	編入生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0	0	0
	小　計	32	46	78	33	42	75	26	44	70	30	47	77				121	179	300
健康栄養学部	健康栄養学科	18	27	45	12	29	41	19	22	41	15	27	42				64	105	169
	編入生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0	0	0
	小　計	18	27	45	12	29	41	19	22	41	15	27	42				64	105	169
学部合計	学部合計	150	208	358	146	199	345	146	194	340	183	216	399				625	817	1,442
	編入生合計	0	0	0	0	0	0	1	2	3	0	4	4				1	6	7
	合　計	150	208	358	146	199	345	147	196	343	183	220	403				626	823	1,449
大学院	看護学研究科看護学専攻（博士前期）	9	5	14	5	10	15										14	15	29
	看護学研究科看護学専攻（博士後期）	3	4	7	1	2	3	8	10	18							12	16	28
	看護学研究科共同災害看護学専攻（博士）													0	2	2	0	2	2
	人間生活学研究科（博士前期）	4	5	9	11	2	13										15	7	22
	人間生活学研究科（博士後期）	2	1	3	0	0	0	3	0	3							5	1	6
大学院合計	合　計	18	15	33	17	14	31	11	10	21	0	0	0	0	2	2	46	41	87
総計		168	223	391	163	213	376	158	206	364	183	220	403	0	2	2	672	864	1,536

4 休学・退学・修業年限を超えて在籍する学生数及び単位互換の状況

(1)年次別休学者数

(単位:人)

区分			令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
文化学部	文化学科		24	19	20	24	24
看護学部	看護学科		4	5	3	5	3
社会福祉学部	社会福祉学科		5	4	5	8	4
健康栄養学部	健康栄養学科		4	1	3	0	2
学部合計			37	29	31	37	33
大学院	看護学研究科	看護学専攻(博士前期)	3	3	2	3	4
		看護学専攻(博士後期)	7	5	4	7	7
		共同災害看護学専攻(博士)	0	1	2	2	1
	人間生活学研究科	人間生活学専攻(博士前期)	1	0	1	1	2
		人間生活学専攻(博士後期)	1	1	3	3	0
大学院合計			12	10	12	16	14
合計			49	39	43	53	47

(2)年次別退学者数

(単位:人)

区分			令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
文化学部	文化学科		19	16	15	12	12
看護学部	看護学科		3	2	1	3	2
社会福祉学部	社会福祉学科		4	4	1	3	3
健康栄養学部	健康栄養学科		2	0	3	1	2
学部合計			28	22	20	19	19
大学院	看護学研究科	看護学専攻(博士前期)	1	1	0	0	0
		看護学専攻(博士後期)	0	1	0	1	0
		共同災害看護学専攻(博士)	0	0	0	0	0
	人間生活学研究科	人間生活学専攻(博士前期)	0	2	0	1	2
		人間生活学専攻(博士後期)	0	2	0	2	1
大学院合計			1	6	0	4	3
合計			29	28	20	23	22

(3)修業年限を超えて在籍する学生数(令和7年4月1日現在)

(単位:人)

区分		5年	6年	7年	8年以上	計
文化学部	文化学科	26	6	4	1	37
看護学部	看護学科	4	0	0	0	4
社会福祉学部	社会福祉学科	1	1	0	0	2
健康栄養学部	健康栄養学科	0	0	0	0	0
学部合計		31	7	4	1	43

(単位:人)

区分			3年	4年	5年	6年以上	計
大学院	看護学研究科	看護学専攻(博士前期)	1	1	0	0	2
		看護学専攻(博士後期)		5	6	2	13
		共同災害看護学専攻(博士)				2	2
	人間生活学研究科	人間生活学専攻(博士前期)	2	1	0	0	3
		人間生活学専攻(博士後期)		0	2	0	2
大学院合計			3	7	8	4	22

(4)単位互換の状況

(単位:人)

大学名	派遣		受入	
	人数	科目数(延べ)	人数	科目数(延べ)
高知大学	4	12	0	0
高知短期大学	0	0	0	0
高知学園短期大学	0	0	0	0
高知工科大学	1	1	5	10
名古屋市立大学	0	0	0	0
名桜大学	0	0	0	0
合計	5	13	5	10

5 課外活動

（単位：人）

文化系　（令和8年3月31日現在）		体育系　（令和8年3月31日現在）	
団　体　名	部員数	団　体　名	部員数
☆こどもみらい塾☆	16	女子ソフトボール部	10
ハモ☆イケ	9	高知県立大学準硬式野球部	17
箏曲部	8	バレーボール部	22
なないろクレヨンUoK!	10	高知県立大学卓球サークル	11
おおとよ探検隊	31	学生よさこいチーム粋恋	5
編みものサークル	12	よさこいチーム叢雲	5
池キャンパス吹奏楽部	11	水泳部	7
高知県立大学災害看護学生チーム(SIT)	20	池バスケットボールサークル	14
かんきもん	84	弓道部	8
裏千家茶道部（永国寺）	4	高知県立大学合氣道部	8
漫画研究部	9	高知県立大学少林寺拳法部	3
競技かるた部	6	高知県立大学ダンスサークル	22
ことば研究会	3	FC.SOPHIA	17
オーテピアンズ	10	バドミントンサークル	28
カフェサークルcaféier	25	バスケットボール部	12
エスコーターズ	6	UKSC	10
Pシスターズ	16	学生よさこいチーム炎	4
国際交流クラブ	32	テニスサークル	5
3大学合同地域活性化団体　Sun-fes	20	高知学生　旅鯨人	3
マンドリンクラブ	3	陸上競技部	5
高知県立大学　写真部	16	一打必勝テニスクラブ	8
軽音楽部RiOT	62		
UOK手話サークル	70		
イケあい　地域災害学生ボランティアセンター	38		
茶道部（池）	4		
図書館サークルLibe	9		
室戸ボランティアリーダー	13		
YAMATON PRODUCTION	3		
グローカルクラブ	23		
いけいけサロン活動	15		
活輝創生実行委員会	16		
永国寺キャンパス吹奏楽団	9		
ジェンダーカフェ	9		
Pilina	10		
COME☆RISH	20		
劇団言の葉	9		
国際ボランティアBWP	7		
高知県公立大学生協　学生委員会	17		
応急救護学生チーム LIFE	10		
NPO法人 BORDER FREE 高知ベース	3		
40団体	698	21団体	224
61団体		922人	

６ 授業料等の納入状況

（1）入学料・授業料

（単位：円）

区　分		入学検定料の額	入学料の額		授業料の額	
			県内生	県外生		
学　生	学　部	17,000 夜間主コース：10,000	141,000 夜間主コース：70,500	282,000 夜間主コース：141,000	年　額	535,800 夜間主コース：267,900
		編入：30,000 編入夜間主コース：18,000				
	大学院	30,000				
科目等履修生		4,900	14,100 夜間主コース：7,500	28,200 夜間主コース：14,100	1単位	14,800 夜間主コース：7,400
研　究　生		4,900	42,300	84,600	月　額	29,700

（2）授業料免除状況①（経済的理由による免除、家計急変等特別な事情による免除）

区　分		学　部			大　学　院			合　計		
		半額免除	全額免除	合計	半額免除	全額免除	合計	半額免除	全額免除	合計
令和4 (2022) 年度	免除者（人）	23	41	64	3	6	9	26	47	73
	免除額（円）	6,072,400	16,699,100	22,771,500	803,700	3,214,800	4,018,500	6,876,100	19,913,900	26,790,000
令和5 (2023) 年度	免除者（人）	28	33	61	2	6	8	30	39	69
	免除額（円）	7,054,700	12,635,950	19,690,650	535,800	3,036,200	3,572,000	7,590,500	15,672,150	23,262,650
令和6 (2024) 年度	免除者（人）	25	32	57	3	6	9	28	38	66
	免除額（円）	5,759,750	9,488,000	15,247,750	803,700	3,214,800	4,018,500	6,563,450	12,702,800	19,266,250
令和7 (2025) 年度	免除者（人）	25	23	48	1	3	4	26	26	52
	免除額（円）	5,447,250	5,536,600	10,983,850	267,900	1,607,400	1,875,300	5,715,150	7,144,000	12,859,150

（3）授業料免除状況②（成績優秀者に対する免除）

区　分		学　部			大　学　院			合　計		
		半額免除	全額免除	合計	半額免除	全額免除	合計	半額免除	全額免除	合計
平成28 (2016) 年度	免除者（人）	10	12	22	－	－	0	10	12	22
	免除額（円）	2,679,000	6,161,700	8,840,700	－	－	0	2,679,000	6,161,700	8,840,700
平成29 (2017) 年度	免除者（人）	11	12	23	－	－	0	11	12	23
	免除額（円）	2,946,900	5,893,800	8,840,700	－	－	0	2,946,900	5,893,800	8,840,700
平成30 (2018) 年度	免除者（人）	12	12	24	－	－	0	12	12	24
	免除額（円）	3,036,200	5,893,800	8,930,000	－	－	0	3,036,200	5,893,800	8,930,000
令和元 (2019) 年度	免除者（人）	12	12	24	－	－	0	12	12	24
	免除額（円）	2,812,950	6,429,600	9,242,550	－	－	0	2,812,950	6,429,600	9,242,550

※平成28年度に制度開始、成績優秀による免除は令和元年度まで

（令和2年度以降は、制度変更により、学長奨励賞 受賞者への副賞として奨励金支給開始）

7 日本学生支援機構奨学金受給状況（令和8年3月1日現在）

① 貸与奨学金

【学部】　　（単位：人）

学部	第一種	第二種
文化学部	95	75
文化学部(夜間主)	10	3
看護学部	56	59
社会福祉学部	74	47
健康栄養学部	31	17
計	266	201

※うち併用貸与 63人

【大学院】　　1人

② 給付奨学金(授業料減免のみの者も含む)

（単位：人）

支援区分	前期	後期	計
第Ⅰ区分	106	92	198
第Ⅰ区分（多子）	20	18	38
第Ⅱ区分	48	51	99
第Ⅱ区分（多子）	10	10	20
第Ⅲ区分	27	27	54
第Ⅲ区分（多子）	13	14	27
第Ⅳ区分	68	50	118
多子世帯	125	140	265
計	417	402	819

8 卒業(修了)者状況

(1)年次別卒業(修了)者数

(単位:人)

区分 ＼ 年度			令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
学部	文化学部	文化学科	160	139	141	134	165
	看護学部	看護学科	81	80	79	82	84
	社会福祉学部	社会福祉学科	74	68	79	71	72
	健康栄養学部	健康栄養学部	41	41	38	42	42
	学　部　計		356	328	337	329	363
大学院	看護学研究科看護学専攻(博士前期)		18	21	13	11	14
	看護学研究科看護学専攻(博士後期)		1	1	5	8	5
	看護学研究科共同災害看護学専攻(博士)		3	0	0	1	0
	人間生活学研究科人間生活学専攻(博士前期)		10	6	6	5	11
	人間生活学研究科人間生活学専攻(博士後期)		1	2	2	0	1
	大 学 院 計		33	30	26	25	31
合　計			389	358	363	354	394

（2）令和7年度卒業者 就職状況

学科別産業別就職状況（令和8年5月1日現在）

（単位：人）

区　　分		文化学部	文化学部	看護学部	社会福祉学部	健康栄養学部	合計
		文化	文化（夜）	看護	社会福祉	健康栄養	
卒業者数		133	32	84	72	42	363
進学・留学決定者数		3	2	1	1	0	7
就職希望者数（A）		120	29	82	69	41	341
就職決定者数（B）		118	29	79	69	41	336
就職決定率(B)/(A)%		98.3%	100.0%	96.3%	100.0%	100.0%	98.5%
農林水産業・鉱業							0　(0)
建設業			1　(1)		1		1　(1)
製造業		4　(1)	1		1	3	9　(1)
電気・ガス・水道業							0　(0)
情報通信業		9　(1)	3　(2)			1　(1)	13　(4)
運輸業、郵便業		5　(3)	2				7　(3)
卸売業、小売業		20　(10)	4　(2)	1	2	6	32　(12)
金融業、保険業		17　(14)	2　(1)		1　(1)		20　(16)
不動産業、物品賃貸業		7			1		8　(0)
学術研究、専門・技術サービス業		3	1		1		5　(0)
宿泊業、飲食サービス業		8　(2)	1			6　(2)	15　(4)
生活関連サービス業、娯楽業		2　(1)				1	3　(1)
教育、学習支援業	学校教育	16　(6)			2	4　(2)	22　(8)
	学習支援	1	1				2　(0)
医療・福祉	医療・保健	2　(2)	2	66　(21)	16　(6)	14　(1)	100　(30)
	福祉・介護	4	1	1	19　(6)		25　(6)
複合サービス事業		1					1　(0)
サービス業（他に分類されないもの）		4	2		1	1	8　(0)
公務		15　(5)	8　(4)	12　(6)	25　(8)	5　(3)	65　(26)
上記以外							0　(0)
合　　計		118　(45)	29　(10)	79　(27)	69　(21)	41　(9)	336　(112)

注　（ ）内の数値は高知県内に就職した者

分類は日本標準産業分類による分類

Ⅵ　図書館運営本部

１ 概要

図書館運営本部の目的（高知県立大学図書館運営本部規程第2条）

本部は、高知県立大学学則第60条に定める附属図書館の管理及び運営を行い、教職員及び学生の教育、研究の支援を行うとともに、地域社会における図書館活動の促進に取り組み、地域の発展に寄与することを目的とする。

２ 組織・所掌事項

（1）所掌事項

本部は、次の各号に掲げる事項を実施する。（高知県立大学図書館運営本部規程第5条第1項）

1.本部の運営方針及び計画に関すること。

2. 本部の予算及び決算に関すること。

3. 附属図書館の整備計画及び維持管理に関すること。

4. 附属図書館の図書館資料の収集、利用、管理及び調査等に関すること。

5. 学術情報の電子化及び情報発信等に関すること。

6. 利用者教育に関すること。

7. 他の図書館等との連携に関すること。

8. その他本部の運営に関し必要な事項

(2) 組織

本部は、次の各号に掲げる職員をもって構成する。（高知県立大学図書館運営本部規程第6条第1項）

1. 本部長

2. 高知県立大学の各学部から選出された教員各1名

3. 高知県立大学の各研究センターから選出された教員各1名

4. 高知県立大学の大学院の各研究科から選出された教員各1名

5. 図書部長

6. 図書部に所属する司書1名

7. その他本部長が必要と認めた者

３ 図書等受入状況

（単位:冊）

図　書		永国寺	池	合　計
和漢書	令和7年度 受入数	884	1,618	2,502
	令和7年度 除籍等	16	141	157
	蔵書数 （令和8年3月31日現在）	134,553	92,933	227,486
洋書	令和7年度 受入数	29	115	144
	令和7年度 除籍等	0	560	560
	蔵書数 （令和8年3月31日現在）	20,571	13,422	33,993
合計	令和7年度 受入数	913	1,733	2,646
	令和7年度 除籍等	16	701	717
	蔵書数 （令和8年3月31日現在）	155,124	106,355	261,479

（単位:タイトル）

雑　誌		永国寺	池	合　計
和雑誌	令和7年度 受入数	82	116	198
	令和7年度 受入開始数	2	0	2
	令和7年度 除籍等	0	0	0
	蔵書数 （令和8年3月31日現在）	949	967	1,916
洋雑誌	令和7年度 受入数	7	18	25
	令和7年度 受入開始数	0	0	0
	令和7年度 除籍等	0	0	0
	蔵書数 （令和8年3月31日現在）	235	211	446
合計	令和7年度 受入数	89	134	223
	令和7年度 受入開始数	2	0	2
	令和7年度 除籍等	0	0	0
	蔵書数 （令和8年3月31日現在）	1,184	1178	2,362

4　附属図書館利用状況

＜附属図書館利用状況＞　（単位:人、冊）

	永国寺	池	合計
入館者数(人)	51,071	36,536	87,607
貸出人数(人)	3,234	2,219	5,453
貸出冊数(冊)	5,222	5,084	10,306

令和7年度末の学外登録者数は、両図書館合わせて237名である。

＜文献複写＞　（令和8年3月31日現在）　（単位:件）

	依　頼			受 付
	公費	私費	合計	計
永国寺	63	74	137	66
池	113	77	190	267
合計	176	151	327	333

＜相互貸借＞　（令和8年3月31日現在）　（単位:件）

	依　頼			受 付
	公費	私費	合計	計
永国寺	22	15	37	52
池	5	12	17	74
合計	27	27	54	126

VII　地域共生学研究機構

既存の地域教育研究センターと健康長寿センター、総合情報センターを新たな研究機関として再構築し、分野横断的・共創的な教育・研究を推進。研究成果の社会還元機能を強化し、高知県における地域共生社会を支援することを目的として、令和6年4月に設置された。

(1)社会的処方研究会等

地域課題解決の取り組みに関する意見交換の場として開催し、本学の地域活動や研究を通じた解決策を模索し、大学の取り組みを地域へ還元することを目的として開催(原則毎月)。

No.	種別	開催日	テーマ	対象者	参加者数(人)
1	研究会第1回(非公開)	令和7年5月14日	健やかで幸せに老いるために ― 高知県津野町のニーズ調査を参考にして	学内限定	57
2	シンポジウム第1回	令和7年6月14日	共生社会の未来を描く認知症カフェ	県民他	173
3	研究会第2回	令和7年9月27日	高知県立大学が取り組む退院支援・訪問看護師育成の10年 ～「病院から地域へ」を支える多職種連携による仕組みづくりと人材育成～	県民他	51
4	シンポジウム第2回	令和7年11月7日	みんなでつくる地域共生社会 ～地域活動の持続的発展と関係構築の秘訣を探る～	県民他	68
5	研究会第3回	令和8年2月10日	地域共生社会をデザインする ～県大が取り組む共生社会へのアプローチ～	県民他	27

(2)リ・デザイン プロジェクト

地域共生社会を実現し、地域の未来を描くために、大学・地域住民・行政機関・民間団体等さまざまな立場の人々がつながり、共に課題を乗り越え、地域を再構築(リ・デザイン)する取り組み。リ・デザイン プロジェクトを進めることで、地域や仕事、祭りなど地域社会のあらゆる面が発展し再構築されることを目指す。

No.	種別	開催日	活動目的	参加者数(延べ)(人)
1	土曜の永国寺カフェ	毎月第1土曜日 (10回開催)	認知症が持つイメージを変える「認知症カフェ」の在り方を追求	630
2	こうちティーンズベース	毎週金曜日	大学ならではの、中高生等のための第3の居場所づくり	
3	永国寺はらっぱフェス	毎月第3土曜日 (8回開催)	いろいろな人が集う広場で、メンタルヘルスへの関心や理解をはぐくむ	281
4	みんなでサロン	令和7年7月5日 令和7年10月25日	食でつながる集いの場を創出して、地域の食を支える	139
5	ウェルビーイング	－	コミュニテイの力がいかに幸せと健康をもたらすのかを調べる (社会的処方研究会及び津野町役場で分析報告)	―
6	歴史文化を通じたまちづくり	－	先端技術を駆使して、地域の歴史文化を守り、伝え、生かす	―
7	BEPカードで始める性教育 サロン	令和8年1月10日 令和8年2月17日	親子で学ぶ「いのち」と「性」。生涯にわたるセクシャルウェルネスの土台作り	70
8	フレイル予防からはじまる健康のリ・デザインPJ	令和8年1月31日～2月1日 令和8年2月7日～2月8日 令和8年2月20日～2月22日	生活習慣とフレイルの多面性との間の関連を明らかにし、結果を基に新たなフレイル予防の立案	86

VIII　総合情報研究センター

1　目的

センターは、情報・データ科学分野の教育及び応用に関する研究を行うとともに、地域社会の情報システム等との連携に取り組み、地域の発展に寄与することを目的とする。（高知県立大学総合情報研究センター規程第2条）

2　所掌事項

センターは、次の各号に掲げる事項を実施する。

（1）本学の情報・データ科学領域の教育・研究に関すること。

（2）本学の情報処理施設・設備の利用者教育に関すること。

（3）本学の情報基盤の整備及び情報セキュリティ等の推進に関すること。

（4）地域共生学研究機構で得られた調査研究データの情報発信及び管理に関すること。

（5）他の情報システムとの連携に関すること。

（6）その他センターの運営に関し必要な事項

3　運営委員会

運営委員会は、次の各号に掲げる構成員をもって構成する。

（1）センター長

（2）センター専任の教員

（3）情報部長

（4）情報部情報課長

4　学内 LAN 状況

（1）サーバ、ネットワークシステムの概要

ア　サーバ

・教務システムや財務システム等の業務用サーバは外部データセンター（高知工科大学と共同利用）に構築した仮想基盤上に配置

・情報演習室用のサーバは永国寺キャンパスに配置

イ　ネットワークシステム

・池・永国寺両キャンパスともに有線・無線ネットワーク環境を整備

・令和3年8月に池・永国寺無線ネットワークを更改

・池キャンパスの接続環境を改善（アクセスポイントを倍増（50台→100台））

（2）登録ID（教職員、学生、大学院生ごとの内訳）及び接続端末の総数

ア　登録ID総数　　1,754 名　　教職員 218名（教員 120 名、事務職員 98名）

学生 1,536名（学部 1,449名、大学院　87名）

イ　事務端末総数　100台（登録端末）　　永国寺キャンパス　　33台

池キャンパス　　67台

（3）情報演習室

ア　池情報演習室　　2室（利用者用端末　各49台）

イ　池大学院生研究室　　3室（利用者用端末　各14台）

ウ　永国寺情報演習室　　2室（利用者用端末　130台、48台）

（4）運用

永国寺情報演習室は高知工科大学との共同利用

5　公開講座

No	開催日	テーマ	対象者	参加者数（人）
1	令和7年8月5日	中学生・高校生向け　プログラミング体験講座	中学生・高校生	10
2	令和7年5月14日	中学生・高校生向け　プログラミング体験講座	中学生・高校生	7

IX　地域教育研究センター

地域教育研究センターは、本学が、社会に貢献する大学として、地域コミュニティに根ざし、また、未来を拓く「知の拠点」としての役割の強化並びに本学の教育理念である「地域社会志向教育」を実現するために、平成24年4月に活動を開始した。平成26年からは地「域」と大「学」が「共」に「生」きていくことを表す「域学共生」の理念のもと、学生と地域、研究者と地域を結ぶ取り組みを行ってきている。

1. 地域教育研究センターは、中山間対策など高知県や地域が抱える現状や課題、ニーズを把握し、県・市町村や地域の諸組織 、本学卒業生などとともに本学との協働体制を構築し、機能させる仕組みづくりを行い、全学体制で課題解決に取り組む。

2. 地域課題に関する情報を入手できる環境を整備し、学生が主体的に行動できるよう、プログラムや支援体制を充実させる。

3. 公開講座、県民開放授業、履修証明プログラム、科目等履修生制度等を活用し、県民が学び続けることのできる生涯学習プログラムを構築し、実施する。

4. 専門職者を対象とする研修会やリカレント教育を実施し、最新の知識や高度な技術を伝え、専門職者の力量アップを支援する。

5. 地域の教育機関や行政等との連携を図り、共同事業等を通じて、児童や生徒の学問に対する興味や関心を高めるための公開講座や出前講座等の学習支援活動を実施する。

＜事業実施状況＞

【「知の拠点」としての多様な生涯学習の機会の提供】

地域の人々の知の探究を支援する事業の展開及び地域の教育力向上のための活動を行っている。

1．公開講座

（1）県民大学公開講座

「知の拠点」として、県民を対象とした公開講座を随時開催している。YouTubeを利用したオンラインで開催した。延べ受講者数871人。

	テーマ	実施日	対象者	受講者数（人）
豊かな暮らしにつながる学び	高知県特産品の高付加価値化 ～知らなかったイタドリのいいところ～	令和8年1月12日～ 1月25日	一般	202
	日本語と英語、スウェーデン語の比較からみえる世界	令和8年1月26日～ 2月8日	一般	216
	災害時の医療:トリアージと応急処置	令和8年2月9日～ 2月22日	一般	224
	Military Social Work入門―その全体像とこれからの社会で必要な理由-	令和8年2月23日～ 3月8日	一般	229

（2）第42回本山町・高知県立大学公開講座「夜學」

本山町と本山町老人クラブ連合会、本学の3者で公開講座協定書を締結し、10回の公開講座を行った。受講者延べ165人、7講座以上受講した方に、修了証書を発行した。

No.	公開講座「夜學」講座内容	実施日	対象者	受講者数（人）
1	健康的で幸せに老いるためには	令和7年5月22日	本山町民他	19
2	発達障害って何？	令和7年6月19日	本山町民他	24
3	助けあいの関係づくり ～介護の不安や負担をみんなで軽減しよう～	令和7年7月17日	本山町民他	18
4	がん患者の在宅療養について	令和7年7月24日	本山町民他	10
5	新しい認知症観	令和7年8月20日	本山町民他	35
6	日常の身体活動を見直そう	令和7年9月10日	本山町民他	13
7	健康情報や健康食品について考えてみよう	令和7年10月8日	本山町民他	13
8	『源氏物語』と日本近代文学	令和7年11月15日	本山町民他	7
9	触法精神障害者の処遇	令和7年11月17日	本山町民他	9
10	地域経済からみる観光まちづくり	令和7年12月4日	本山町民他	17

（3）文化学部主催・地域教育研究センター共催公開講座

	実施日	テーマ	対象者	受講者数（人）
高知県立大学公開講座	令和7年9月6日～9月12日	消費生活講座	一般	53
	令和7年11月15日	『源氏物語』と日本近代文学	一般	125

【履修証明プログラム】

平成26年度から「履修証明プログラム」を開始したが、令和2年度から長期休止している。

【高知県立大学県民開放授業】

県民開放授業は、平成14年度後期から、文化学部の公開講座の一つとして始まった。平成25年度には、地域教育研究センターが「AERU県民公開授業」を開始した。平成26年度からは、上記2つの事業を統合し、「高知県立大学県民開放授業」を実施したが、令和2年度から長期休止している。

【高大連携事業】

（1）小・中・高等学校への出前講座

学問に対する興味・関心を高め、大学で学ぶことの魅力や楽しさについて知っていただくことを目的に、高知県内の小・中・高等学校の児童、生徒を対象に、出前講座を実施している。12校から要請を受け、派遣した教員数は延べ17人、受講者数584人であった。

No.	学校名	実施日	対象者	テーマ	受講者数（人）
1	高知県立高知追手前高等学校	令和7年6月21日	高校1～3年	①貧困と病気の関係 ②Social Workerのコミュニケーション術を体験してみよう	64
2	高知高等学校	令和7年6月28日	高校1～3年	①助産師の仕事と母性看護 ②高知県の地域の変化ー地域福祉の視点からー	36
3	高知県立高知農業高等学校	令和7年7月10日	高校3年	土佐の伝統食について	32
4	高知県立高知農業高等学校	令和7年7月11日	高校2年	生産量日本一の県民として知りたい生姜のこと	36
5	高知県立安芸高等学校	令和7年7月15日	高校1～2年	①身体の観察からわかることーバイタルサインの意味ー ②ストレスとつきあうコツ ③災害と向き合うには	161
6	高知市立朝倉小学校児童クラブ	令和7年8月1日	小学校1～6年	手洗いで本当に手はきれいになるのか？	110
7	高知県立四万十高等学校	令和7年10月15日	高校1年	飲み水の作り方	5
8	高知学芸高等学校	令和7年10月24日	中学3年、高校1年	看護を学ぶということ/看護の専門性	39
9	高知商業高等学校定時制	令和7年11月14日	高校1～4年	出産・子育てと健康	25
10	高知県立高知若草特別支援学校	令和7年12月12日	高等部3年	ストレスとつきあうコツ	1
11	須崎市立朝ヶ丘中学校	令和7年12月19日	中学2年	都市形成史・地域経済学	55
12	高知県立宿毛高等学校	令和7年12月22日	高校2年	部活の試合で負けない体作りについてー補食編ー	20

（2）高校生のための公開講座

高校生が、大学の教育・研究に触れ、学問に対する興味・関心を深め、学びの楽しさについて知っていただくことを目的に実施している。全4回開催し、延べ受講者数94人であった。

	実施日	テーマ	対象者	受講者数（人）
県大立志塾2025	令和7年7月12日	ことばの規則性と創造性 ー英語と日本語のさまざまな表現を観察してみようー	高校生	38
	令和7年9月27日	住み慣れた街で精神疾患をもつ人と共に暮らす	高校生	28
	令和7年12月20日	10代の食生活によって実現する将来の骨太生活	高校生	17
	令和8年2月14日	ジェンダーの思い込み、性のもやもやを考えよう −私たちのSRHR（性と生殖の権利）が尊重されるために−	高校生	11

（3）高知県立高知小津高等学校「総合的な探求の時間」地域フィールドワーク

地域の大学と高校が連携し、大学教授の出張講義を受けたり、大学の研究室での実験やフィールドワーク活動を行っている高校がある。今年度は、高知小津高等学校主催事業で受講者数36人であった。

	実施日	テーマ	対象者	受講者数（人）
総合的な探究の時間	令和7年11月18日	医療・衛生・福祉系	高校生	36

【「県民大学」学生プロジェクト　立志社中】

平成25年度から、地域の課題解決に主体的に取り組む学生を大学として支援する「立志社中」をスタートさせた。
12年目となる令和7年度は、8プロジェクト、199人の学生が地域活動に参画した（年度末人数）。

（1）令和7年度採択プロジェクト「立志社中」

※学生数は採択時の人数

No.	プロジェクト名	チーム名	活動エリア	参加学生数（人）	交付額(利息含)［執行額］
1	「協働」地域とつながる、未来へつなげる	Pシスターズ	高知市、安芸市、仁淀川町、津野町、三原村	16	287,628円［150,901円］
2	多文化共生プロジェクト	Pilina	高知市	8	32,443円［19,243円］
3	健援隊Happinessプロジェクト	健援隊	高知市、香美市	46	232,712円［154,036円］
4	NEW　おがわーるど	活輝創生実行委員会	佐川町	15	295,374円［80,158円］
5	備えてナンボ！イケちゅう防災ライフ！！	いけいけサロン活動	高知市	13	123,147円［101,200円］
6	アグリケーションで育む”まちの芽”	かんきもん援農部門	高知市、安芸市、四万十市	23	299,073円［152,686円］
7	昔を学ぶ～立川のこれまでをつなげ隊～	おおとよ探検隊	大豊町	31	300,155円［248,392円］

（2）令和7年度採択プロジェクト「立志のたまご」

※学生数は採択時の人数

No.	プロジェクト名	チーム名	活動エリア	参加学生数（人）	交付額(利息含)［執行額］
1	ファーストエイドプロジェクト	応急救護学生チームLIFE	高知市、黒潮町	10	49,504円［49,504円］

(3)その他の活動

No.	事業名等	テーマ等	概要
1	プレゼンテーション及び審査会	【立志社中】プレゼンテーション及び審査会 日時：令和7年5月10日	応募のあった7件のプロジェクトについて、プレゼンテーション及び審査会を実施し、採択プロジェクトを決定した。
2	交通安全講習	【立志社中】交通安全講習 日時：令和7年5月14日以降	「立志社中」において運転を行う学生に対し、活動日までに交通安全講習の動画視聴を義務化し、安全運転指導を行った。
3	衛生講習	【立志社中】衛生講習会 日時：令和7年5月20日 講師：高知市保健所 生活食品課 吉永　順一　氏	「立志社中」において、食事提供行為に関わることを希望する学生等を対象に、衛生講習会を開催した。
4	第1回スキルアップセミナー	テーマ：「地域と関わり方と魅力の伝え方」 日　時：令和7年9月25日 講　師：株式会社センテンス 代表取締役　西條　武志 氏	「地域との関わり方」や広報のプロの立場から「地域の魅力の伝え方」など、立志社中チームが活用できる内容を、多方面から講義いただいた。
5	中間報告会	【立志社中】中間報告会 日　時：令和7年11月1日	各プロジェクトの半年間の活動を振り返り、プロジェクトの進捗状況及び後半の活動予定の報告を行った。
6	第2回スキルアップセミナー	テーマ：「インスタグラムを活用した広報について」 日　時：令和8年1月16日 講　師：ルエリア代表　正木　芙由子 氏	地域活動を行っている立志社中チームのメンバーが、自チームの活動紹介や地域の魅力の伝え方など、SNSの中でも特にインスタグラムを利用した広報活動について学んだ。
7	活動成果報告会	【立志社中】活動成果報告会 日　時:令和8年3月7日	今年度採択された8プロジェクト(立志のたまご1プロジェクト含む)の活動を報告・評価し、成果や課題を共有することを目的として開催した。

【令和7年度全国公立大学学生大会 LINKtopos2025 in Naganoへの参加】

13回目を迎える本大会は長野県立大学及び長野県内で、全国の公立大学から約90人の学生が参加した。本学からは立志社中グループのメンバーを含む学生4人、職員1人が参加し、全国の公立大学の学生・教職員と交流した。

テーマ　：　「結び」
日　時　：　令和7年9月9日(火)～9月11日(木)
場　所　：　長野県立大学及び長野県内

【コミュニティサービスラーニング(CSL)サポートデスク】

地域の抱える課題を認識し、課題解決への関心を高めた学生が、専門的な知識や技術など大学での学びの成果を活かして、域学共生の理念に基づき、ボランティア活動を行うコミュニティサービスラーニングを支援するための窓口として、平成28年5月から地域教育研究センターに設置している。

(1)ボランティア情報受付実績

参加者数:58人　参加回数:417回

No.	概要	団体名	件数	参加回数(延べ)
1	小1サポーター	高知市教育委員会 学校教育課	1	211
2	生徒の学びサポート事業学習支援員	高知県教育委員会(高知県立伊野商業高等学校)	1	
3	「総合的な探求の時間」での生徒への助言	高知県立岡豊高等学校	1	19
4	学習チューター	高知市教育委員会 学校教育課	1	62
5	放課後学習支援ボランティア	日高村教育委員会	1	
6	三原小学校・三原中学校「学習支援」	三原村教育委員会教育委員会	1	10
7	民具紹介動画出演ボランティア	高知市 民権・文化財課	1	
8	瑞応の盆踊りの参加、運営支援(佐川町黒岩)	高知県文化遺産総合活用推進委員会(高知県歴史文化財課)	1	
9	「津野山古式神楽」の夜神楽に参加してみませんか？	高知県文化遺産総合活用推進委員会(高知県歴史文化財課)	1	3
10	修学旅行の介助	高知市立高知特別支援学校	1	
11	学習支援員(安芸第一小学校、安芸中学校)	安芸市・安芸市教育委員会	1	76
12	土佐の伝統芸能を一緒に体験してみん？「都太鼓踊り」(仁淀川町)	高知県文化遺産総合活用推進委員会(高知県歴史文化財課)	1	
13	「四ツ白の太刀踊り」の踊り手として参加してみませんか？(佐川町)	高知県文化遺産総合活用推進委員会(高知県歴史文化財課)	1	5
14	いの町「椙本神社のおなばれ」に参加してみよう！	高知県文化遺産総合活用推進委員会(高知県歴史文化財課)	1	4
15	津野町貝ノ川「キャンドルまつり」	津野町 まちづくり推進課	1	
16	「町制施行20周年 TSUNOウォーキング」の運営スタッフ	津野町 まちづくり推進課	1	27
17	「ボランティアガイダンス2025」における当日スタッフ	NPO高知市民会議	1	
18	仁淀川町の「秋葉まつり」におけるボランティア	高知県文化遺産総合活用推進委員会(高知県歴史文化財課)	1	

【高知県立大学学生による集落活動センター活性化支援事業】

令和6年1月から、集落活動センターのイベント等の参加を主とした課外活動について、「高知県立大学学生による集落活動センター活性化事業」として、高知県と高知県立大学の協働で募集・実施をしています。

（1）ボランティア情報受付実績

延べ参加者数：59人

No.	概要	団体名	件数	参加者数
1	仁井田のりん家地区 「夏まつり」	高知県集落活動センター連絡協議会（事務局：高知県中山間地域対策課）	1	2
2	集落活動センター汗見川地区 「汗見川清流マラソン大会」		1	3
3	集落活動センター汗見川 「ちっとええぜよ汗見川」		1	2
4	甲浦集落活動センターなぎ 「きもきもきもだめしイベント(1泊)」		1	6
5	甲浦集落活動センターなぎ 「きもきもきもだめしイベント(2泊)」		1	
6	集落活動センター氷室の里 「特産原木まいたけの植土」		1	5
7	中津川集落活動センターこだま 「どろんこ運動会」		1	3
8	集落活動センターたのしいな 「オーシャンサマーマーケットin椎名」		1	
9	集落活動センターだんだんの里 「七夕まつり」		1	2
10	集落活動センター鵜来島地区 「うぐるファミリーフェスティバル」		1	
11	集落活動センター香美市美良布 「まなぼう×つながろう！香北の夏やすみ」		1	1
12	集落活動センターミライエ 「子ども食堂・預かり事業ボランティア」		1	2
13	集落活動センターなめかわ 「なめかわサロン（高齢者サロン）」		1	
14	集落活動センターしもなの郷 「Feel the love in NIYODOGAWA」		1	1
15	集落活動センターが集うイベント「ふるさと・えいもん集マルシェ」販売支援		1	2
16	甲浦集落活動センターなぎ「ハロハロハロウィンイベント」運営支援（2泊3日）		1	
17	【天候により中止】集落活動センターしらいし・ふなと・奥四万十の郷「つのフェス2025」		1	
18	集落活動センターしらいし・ふなと・奥四万十の郷「ツノチャマルシェ」		1	2
19	集落活動センター鵜来巣地区の秋まつり「春日神社大祭」（1泊2日）		1	2
20	集落活動センター鵜来巣地区の秋まつり「春日神社大祭」（2泊3日）		1	
21	集落活動センターだんだんの里「長者deキャンドルナイト」（1泊2日）		1	9

No.	概要	団体名	件数	参加者数
22	集落活動センター沖の島「トレッキングガイドマップ」（2泊3日）	高知県集落活動センター連絡協議会 （事務局：高知県中山間地域対策課）	1	2
23	集落活動センターたのしいな「第7回たのしいな文化祭」（2泊3日）		1	
24	集落活動センター下川口家「コスモス祭り」（1泊2日）		1	5
25	集落活動センター結の里「こんにゃく芋の収穫・こんにゃく作り」		1	2
26	集落活動センターやすだ「にんにくの植え付けに伴う草刈り体験」ジビエ・山芋料理		1	1
27	集落活動センターが集うイベント「ふるさと・えいもん集マルシェ」販売支援		1	
28	山笑ふ横畠集落活動センター「愛校作業（清掃・環境整備）」支援		1	3
29	集落活動センターしもなの郷「夢の森公園キャンプ場」景観整備のお手伝い		1	1
30	集落活動センター秋葉の里別枝 「桜ふる里別枝」の開催支援		1	2

【包括連携協定】

本協定は、各市町村や企業・NPO法人等の団体と本学が多様な分野で緊密な協力関係を築き、持続・発展的に連携を深めることにより、未来を担う人材の育成や活力ある地域社会の形成・発展に寄与することを目的とする。

協定締結団体一覧

No.	団体名	協定締結日
1	日高村	令和5年4月1日
2	名桜大学	令和2年2月14日
3	名古屋市立大学	平成30年7月21日
4	株式会社四万十ドラマ	平成29年3月1日
5	三原村	平成28年7月12日
6	特定非営利活動法人NPO高知市民会議	平成28年8月4日
7	(株)高知放送	平成28年2月17日
8	高知市	平成27年3月26日
9	(株)高知銀行	平成27年1月21日
10	安芸市	平成26年8月25日 平成29年8月25日　再締結
11	津野町	平成26年3月17日 平成29年3月17日　再締結
12	佐川町	平成26年3月17日 平成29年3月17日　再締結
13	香美市	平成26年3月17日 平成29年3月17日　再締結
14	高知医療センター	平成22年11月17日(高知女子大学) 平成23年6月28日(高知県立大学)再締結
15	土佐市	平成20年10月28日(高知女子大学) 平成23年7月26日(高知県立大学)再締結
16	社会福祉法人高知県社会福祉協議会	平成18年10月4日(高知女子大学～)
17	公益財団法人こうち男女共同参画社会づくり財団	平成18年10月28日(高知女子大学) 平成29年2月1日(高知県立大学)再締結

協定締結団体との連携

No.	団体名	事業名	期間等	概要	参加者等
1	高知市	小1サポーター	入学当初から11月までの月曜日から金曜日	高知市立小学校第1学年の学習や生活支援への学生ボランティアの募集、取りまとめと高知市との調整を行った。	本学学生9人
2	高知市	学習支援チューター	月曜から金曜、夏期・冬期の休業中	高知市の小・中学校へ学習支援への学生ボランティアの募集、取りまとめと高知市との調整を行った。	本学学生6人
3	三原村	学習支援ボランティア	令和7年9月7日(日)～9月12日(金)	三原村の小・中学校へ学習支援への学生ボランティアの募集、取りまとめと三原村との調整を行った。	本学学生2人

【協力団体との連携強化に向けた取り組み】

さらなる連携の強化に向けて、高知県や市町村、学生受入団体等との情報交換を定期的に行っている。

(1)開催実績

No.	会議名	実施日	概要	対象	出席者数(人)
1	連携推進会議	令和7年7月31日	地域教育研究センター、健康長寿研究センターの紹介及び、市町村との連携の事例紹介を行い、参加者に大学と市町村の相互の関係性や連携のあり方について、より具体的に知っていただく機会とする。令和7年度は、連携をさらに推進することを目指し、対面形式で実施した。	包括連携協定を締結している県内8市町村	27
2	域学共生連連携拡大会議	令和7年12月23日	令和7年度は対面形式で実施し、県内自治体関係課や企業の方々に加え、高校教員、保護者、高校生、他大学及び四国外からの教職員などが参加した。 各教員の事例発表後の質疑応答では、活発な意見交換が行われた。	県、市町村、高校、大学、企業、団体等	59
3	ご意見番会議	令和8年1月15日 佐川町尾川地区で実施	教職員が、学生と協働した地域の地域団体(集落活動センターなど)を訪問し、地域のみなさまから実際の活動の中で良かった点や気になる点、成果や今後の取り組みへの期待などのご意見をいただく場として開催している。本学と地域が取り組みへの理解を深めるとともに、さらなる連携・協力を推進するための機会とする。	学生と協働した地域団体等	13

X　健康長寿研究センター

健康長寿研究センターは、本学の学部が連携して、地域の人々の健康長寿の推進および健康長寿社会の構築に貢献する専門職者の最新の知識や技術の向上に努めることを目的として、平成22年4月に「健康長寿センター」として設置された。
令和6年4月に、学術面において健康・長寿を進めるためのエビデンスを蓄積しながら研究を推進することを明確化するため「健康長寿研究センター」と名称を変更するとともに活動ポリシーに基づき、事業及び研究を行った。

【活動状況】

	内　　容	回数	実施時期	参加者数（人）	対象者・参加者
健康長寿研究センター事業	1.つながる保健室事業	3	令和7年7月5日、10月4日、11月30日	77	高知県内の地域住民
	2.つながる保健室事業 出張版	1	令和7年9月26日	15	四万十町住民
	内　　容	回数	実施時期	参加者数（人）	対象者・参加者
健康長寿に係る研究活動	1.地域住民の健康・厚生の向上に向けた実証分析と社会実装・県内自治体の伴走型支援に関する研究	－			
	2.小児健診・健康行動調査に関するデータ分析研究	－			
	3.Beans Education Project	－			
	内　　容	回数	実施時期	参加者数（人）	対象者・参加者
高知県内の医療・健康・福祉専門職者育成に資する活動	1.寄附講座「高知県中山間地域等訪問看護師育成講座」				
	1 訪問看護師スタートアップ研修	2	前期（令和7年4月22日～9月24日） 後期（令和7年10月7日～令和8年3月17日）	12	訪問看護ステーションに勤務する新任・新卒の訪問看護師、及び病院などに勤務する看護師
	2 新任訪問看護師短期研修プログラム	－	前期（5月7日～7月17日） 後期（10月8日～12月18日）	延べ159	訪問看護ステーションに勤務する新任・新卒の訪問看護師
	2.高知県介護職員喀痰吸引等研修事業	4	令和7年7月5日、6日 令和7年10月4日、5日 令和7年12月20日、21日 令和8年2月20日、21日	7	介護福祉士、介護職員、特別支援学校教員、保育士等 特定の者に対してたんの吸引等の行為を行う必要がある者
	3. 入退院支援事業	60	通年	782	県内の病院、施設、福祉保健所、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等
	4.社会福祉学部リカレント教育講座	1	令和7年12月13日	8	専門職、高校生、どなたでも
	5.新任期行政栄養士研修会	2	令和7年6月25日 令和7年12月2日	16	採用1～2年目の行政栄養士
	6.新任期保健師研修会				
	1 プリセプター・管理者研修	2	令和7年5月23日 令和8年3月25日	57	高知県、高知県内の市町村に所属する1 年目～ 4 年目の保健師、プリセプター
	2 1年目研修・個別支援	2	令和7年8月5日 令和7年11月7日	55	
	3 2年目研修・地区診断	2	令和7年6月6日 令和7年12月15日	51	
	4 3年目研修・PDCA サイクル①	2	令和7年8月1日 令和7年12月22日	81	
	5 4年目研修・PDCA サイクル②	2	令和7年6月13日 令和8年2月19日	58	

高知県内の医療・健康・福祉専門職者育成に資する活動	1.生活習慣病予防料理教室		1	令和7年11月29日	14	高知県民
	2.高知県キャリア教育推進事業					
	1	集合研修　福祉で未来を探求！高校生のためのEvent	1	令和7年7月26日	237	高校生及び保護者・教員
			1	令和7年9月6日	19	
			1	令和7年10月18日	19	
			1	令和8年3月21日	24	
	2	訪問講座（計12校）	12	通年	155	
	3.高知市三里地区サロン活動の継続支援プロジェクト ～地域と大学で育てる災害に強いコミュニティ～		1	令和7年9月10日	31	地域のサロン活動における次世代を担うリーダー・リンクワーカー、支援者および地域住民
			1	令和7年10月24日	22	
	4.みさとフェア		1	令和7年11月30日	約176 ブース来訪者	三里地区住民
	5.高知医療センター包括的連携　赤ちゃん同窓会		1	令和7年10月5日	103	高知医療センターNICUに入院経験のある子どもと家族
	6.地域ケア会議推進プロジェクト		－	通年	述べ155	土佐市地域包括支援センター
	7.土佐市両親学級		－	令和7年5月18日、8月3日	32	土佐市在住の初産婦と家族
	8. 健康長寿文庫　51 冊収蔵		－	通年	－	池キャンパス図書館利用者

XI　国際交流センター

1　正規学生（留学生）数の推移

区分	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)
大学院	7	5	3	5	6
学部	12	11	13	14	13
計	19	16	16	19	19

2　協定校数の推移

年	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)
協定校数	16	15	16	16	16

3　協定校一覧

大学名	国名	締結年月
イーストアングリア大学	イギリス	2023年7月
ゲント大学	ベルギー	2021年10月
慶尙國立大學校	韓国	2021年 6月
開南大學	台湾	2019年11月
弘光科技大學	台湾	2019年 4月
ワシントン大学継続教育部	アメリカ	2018年10月
インドネシア大学	インドネシア	2018年 9月
アンダラス大学	インドネシア	2017年 2月
ウボンラーチャタニ大学	タイ	2016年12月
国立木浦大學校	韓国	2016年10月
ガジャマダ大学	インドネシア	2013年11月
サバ大学	マレーシア	2012年11月
ヴェネチア　カ・フォスカリ大学	イタリア	2011年12月
文藻外語大學	台湾	2007年 1月
北京聯合大学旅游学院	中国	2006年11月
エルムズカレッジ	アメリカ	1998年10月

4　協定大学への派遣実績

協定大学	2022（令和4）年度			2023（令和5）年度			2024（令和6）年度			2025（令和7）年度		
	短期	長期	教職員	短期	長期	教職員	短期	長期	教職員	短期	長期	教職員
エルムズカレッジ	0	0	0	10	1	1	9	1	3	10	1	1
北京聯合大学旅游学院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
文藻外語大學	0	3	0	2	1	1	0	0	0	6	1	1
ヴェネチア　カ・フォスカリ大学	0	0	0	6	0	1	4	0	1	0	0	0
ガジャマダ大学	0	0	0	0	0	0	8	0	2	0	0	0
サバ大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1
慶尙國立大學校	0	1	0	8	1	2	0	0	0	0	0	0
国立木浦大學校	0	0	0	1	0	0	0	2	0	2	1	0
弘光科技大學	0	0	0	2	0	0	2	0	0	8	0	2
開南大學	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
計	0	4	0	29	3	5	23	3	6	30	4	5

5 協定大学からの受入実績

協定大学	2022(令和4)年度			2023(令和5)年度			2024(令和6)年度			2025(令和7)年度		
	短期	長期	教職員	短期	長期	教職員	短期	長期	教職員	短期	長期	教職員
エルムズカレッジ	0	0	0	4	0	2	0	0	0	6	0	2
北京聯合大学旅游学院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
文藻外語大學	0	2	0	2	2	0	5	2	0	4	4	0
ヴェネチア カ・フォスカリ大学	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ガジャマダ大学	0	0	0	0	0	0	5	0	1	0	0	0
サバ大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0
慶尚國立大學校	28	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0
国立木浦大學校	0	0	0	5	0	0	16	0	1	15	1	1
弘光科技大學	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
開南大學	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
計	36	2	2	11	2	2	28	4	2	31	7	3

6 外国人学生に対するプログラム

(1)協定校からの受入

プログラム名	対象大学	受入数(人)
アメリカ、エルムズカレッジ短期受入れプログラム	エルムズカレッジ	6
2025年高知の産業・伝統文化を学ぶ高知県立大学プログラム	文藻外語大學、開南大學	4
韓国、国立木浦大學校受入プログラム	国立木浦大學校	15
マレーシア、サバ大学受入れプログラム(健康栄養学部)	サバ大学	4
インターシッププログラム(中国語教育実習)	文藻外語大學	2

7 海外機関との共同研究・教育事業支援

講義名	主催者	実施日	対象者	参加数(人)
中国、淮北師範大学とのオンライン交流会	淮北師範大学	令和7年11月4日	淮北師範大学の学生	11
			高知県立大学の学生	8

8 外国人留学生を対象とした交流活動

活動名	実施日	参加者
高知県立国際高等学校との交流	令和7年5月30日	エルムズカレッジ学生6名、引率2名、国際高校生徒60名
高知の伝統産業を学ぶフィールドトリップ(いの町)	令和7年5月31日	エルムズカレッジ学生6名、引率2名、本学学生18名
国際交流クラブ 春のフィールドトリップ(土佐神社、桂浜など)	令和7年6月21日	留学生12名(台湾4，イタリア1、韓国1，中国6)、本学学生22名
国際交流クラブ 秋のフィールドトリップ(早明浦ダム、牧野植物園)	令和7年11月24日	留学生15名(台湾6，イタリア1、韓国1，中国6、ベトナム1)、本学学生19名
チューターとの撮影交流会	令和8年1月24日	文藻外語大學学生2名、開南大學学生2名、国立木浦大學校学生15名、本学学生(チューター)17名
高知の伝統産業・防災を学ぶフィールドトリップ(日高村)	令和8年1月26日	文藻外語大學学生2名、開南大學学生2名、国立木浦大學校学生15名、本学学生(チューター)12名

IX　健康管理センター

【健康管理センター利用状況】

（単位：件、人）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
池キャンパス	内　科	26	25	25	20	5	3	23	10	8	14	7		166
	外　科	6	5	12	9	2	3	5	7	2	6	5	2	64
	婦人科	4	18	10	6	4		8	16	2	7	1		76
	メンタルヘルス	21	33	47	29	10	28	67	49	34	30	20	7	375
	健診フォロー	89	34	15	15	3	3	1	1	7	3	3	58	232
	その他	22	27	25	26	10	11	27	18	26	34	30	37	293
	合計件数	168	142	134	105	34	48	131	101	79	94	66	104	1,206
	合計人数	161	118	125	94	29	37	98	83	66	87	62	87	1,047
永国寺キャンパス	内　科	4	14	11	6	1	3	12	16	11	7	6		91
	外　科	2	10	2	12	4	2	3		4	1	0		40
	婦人科	1	2	3	1	1		12	19		4	1		44
	メンタルヘルス	64	72	93	97	28	17	92	62	71	69	49	28	742
	健診フォロー	87	105	39	23	6	3						24	287
	その他	18	11	10	7	12	4	5	12	26	49	27	10	191
	合計件数	176	214	158	146	52	29	124	109	112	130	83	62	1,395
	合計人数	146	160	124	106	38	23	95	76	79	110	60	54	1,071
総計	合計件数	344	356	292	251	86	77	255	210	191	224	149	166	2,601
	合計人数	307	278	249	200	67	60	193	159	145	197	122	141	2,118

【精神科医師によるメンタルヘルス相談】

（単位：件）

開催月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
池	4	3	4	5		2	4	3	4	1	2	1	17
永国寺	2	2	2	1		1	2	0		2	2		14
合計	6	5	6	6	0	3	6	3	4	3	4	1	47

【カウンセラーによるメンタルヘルス相談】

（単位：件）

開催月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
池	開設日数	3	3	4	3	2	3	3	2	2	0	1	0	26
	相談件数	5	6	9	4	2	4	5	3	3	0	1	0	42
永国寺	開設日数	3	3	4	5	2	3	5	5	3	4	4	2	43
	相談件数	6	7	11	9	5	6	9	8	6	9	9	3	88
相談件数合計		11	13	20	13	7	10	14	11	9	9	10	3	130

【産婦人科医師による婦人科相談】

（単位：件）

開催月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
池			2	1				4					7
永国寺			2					4					6
合計			4	1				8					13

【定期健康診断】

①実施内容一覧

月日	4月20日（日）
場所 （時間）	永国寺キャンパス 9時00分～15時00分
対象者	文化学部1～4回生（夜間主を含む） 研究科（希望者）
健診項目	胸部レントゲン撮影 検尿 身体測定 貧血検査 医師の診察 ＜感染症血液検査（一部学生）＞ ※4種感染症抗体検査 ・文化学部3回生の一部学生

月日	4月12日（土）	月日	4月13日（日）
場所 （時間）	池キャンパス 9時00分～15時00分	場所 （時間）	池キャンパス 9時00分～15時00分
対象者	看護学部1回生・2回生 健康栄養学部1回生・2回生 社会福祉学部1回生・2回生 研究科（希望者）	対象者	看護学部3回生・4回生 健康栄養学部3回生・4回生 社会福祉学部3回生・4回生 研究科（希望者）
健診項目	胸部レントゲン撮影 検尿 身体測定 貧血検査 医師の診察 **＜感染症血液検査（一部学生）＞** ※B型肝炎抗原抗体検査 ・4種感染症抗体検査 ・看護学部1回生 ・健康栄養学部1回生 ・社会福祉学部1回生 ・看護学研究科（希望者）1回生 ※B型肝炎抗体検査 ・看護学部2回生の一部学生	健診項目	胸部レントゲン撮影 検尿 身体測定 貧血検査 医師の診察 ＜感染症血液検査（一部学生）＞ ※B型肝炎抗体検査 ・看護学部3回生の一部学生 ・健康栄養学部3回生・4回生の一部学生

※印の内容は、施設実習のために必要な項目であり、定期健康診断時に併せて実施した。

4種感染症：麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎

特記：上記実施日に健康診断できなかった学生に対しては、委託施設にて個別に実施した。

②学年・学科別学部生　健康診断受診状況

学年	学科	対象者数	胸部デジタル撮影		内科診察		尿検査		貧血検査	
			受検者数	受検率(%)	受検者数	受検率(%)	受検者数	受検率(%)	受検者数	受検率(%)
1	文化(昼)＊	141	140	99.3%	140	99.3%	140	99.3%	140	99.3%
	文化(夜)	17	17	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	17	100.0%
	看　護	81	81	100.0%	81	100.0%	81	100.0%	81	100.0%
	社会福祉	78	78	100.0%	78	100.0%	78	100.0%	78	100.0%
	健康栄養	45	45	100.0%	45	100.0%	45	100.0%	45	100.0%
2	文化(昼)	129	118	91.5%	118	91.5%	118	91.5%	117	90.7%
	文化(夜)	18	17	94.4%	17	94.4%	17	94.4%	17	94.4%
	看　護	82	82	100.0%	82	100.0%	82	100.0%	82	100.0%
	社会福祉	75	75	100.0%	75	100.0%	75	100.0%	74	98.7%
	健康栄養	41	40	97.6%	40	97.6%	40	97.6%	40	97.6%
3	文化(昼)	131	115	87.8%	115	87.8%	115	87.8%	115	87.8%
	文化(夜)	18	16	88.9%	16	88.9%	16	88.9%	16	88.9%
	看　護	80	79	98.8%	79	98.8%	79	98.8%	79	98.8%
	社会福祉	70	70	100.0%	70	100.0%	70	100.0%	70	100.0%
	健康栄養	41	40	97.6%	41	100.0%	41	100.0%	41	100.0%
4	文化(昼)	157	131	83.4%	131	83.4%	131	83.4%	130	82.8%
	文化(夜)	39	31	79.5%	31	79.5%	31	79.5%	31	79.5%
	看　護	84	81	96.4%	82	97.6%	82	97.6%	82	97.6%
	社会福祉	77	73	94.8%	73	94.8%	73	94.8%	73	94.8%
	健康栄養	42	42	100.0%	42	100.0%	42	100.0%	42	100.0%
合　計		1446	1371	94.8%	1373	95.0%	1373	95.0%	1370	94.7%
前年度		1438	1368	95.1%	1369	95.2%	1368	95.1%	1365	94.9%

＊特別聴講生5名を含む

※対象者数は健診免除者を除いたものである。(休学者・留学者・健診受診後に中途退学した者は含む)

※受検率は対象者を分母としたものである。

※3か月以内に医療機関等で胸部レントゲン撮影をしている学生は、撮影済みとみなした。

③大学院生　健康診断受診状況

年次	研究科		学生数	対象者数	胸部デジタル撮影		内科診察		尿検査	
					受検者数	受検率（%）	受検者数	受検率（%）	受検者数	受検率（%）
1	看護学		21	8	8	100.0%	7	87.5%	7	87.5%
		博士前期課程	14	7	7	100.0%	6	85.7%	6	85.7%
		博士後期課程	7	1	1	100.0%	1	100.0%	1	100.0%
	人間生活学		12	8	6	75.0%	6	75.0%	6	75.0%
		博士前期課程	9	6	6	100.0%	6	100.0%	6	100.0%
		博士後期課程	3	2	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2	看護学		18	14	6	42.9%	6	42.9%	6	42.9%
		博士前期課程	15	12	6	50.0%	6	50.0%	6	50.0%
		博士後期課程	3	2	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	人間生活学		13	11	10	90.9%	10	90.9%	10	90.9%
		博士前期課程	13	11	10	90.9%	10	90.9%	10	90.9%
		博士後期課程	0	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
3	看護学 博士後期課程		18	15	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	人間生活学 博士後期課程		3	2	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
4・5	看護学 博士後期課程		2	2	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合　計			87	60	30	50.0%	29	48.3%	29	48.3%
前年度			92	85	28	32.9%	29	34.1%	29	34.1%

※対象者数は健診免除者を除いたものである。（休学者・留学者・健診受診後に中途退学した者は含む）

※受検率は対象者を分母としたものである。

※3か月以内に医療機関等で胸部レントゲン撮影をしている学生は、撮影済みとみなした。

【学生精神的健康調査(UPI調査)】

・対　象　者：全学部生

年次	学部	対象者数	実施者数	実施率
1	文化(昼)	141	140	99%
	文化(夜)	17	17	100.0%
	看護	81	81	100.0%
	社会福祉	78	78	100.0%
	健康栄養	45	45	100.0%
2	文化(昼)	129	118	91.5%
	文化(夜)	18	17	94.4%
	看護	82	82	100.0%
	社会福祉	75	75	100.0%
	健康栄養	41	40	97.6%
3	文化(昼)	131	115	87.8%
	文化(夜)	18	16	88.9%
	看護	80	79	98.8%
	社会福祉	70	70	100.0%
	健康栄養	41	41	100.0%
4	文化(昼)	157	131	83.4%
	文化(夜)	39	31	79.5%
	看護	84	82	97.6%
	社会福祉	77	73	94.8%
	健康栄養	42	42	100.0%
合　計		1,446	1,373	95.0%
前年度		1,438	1,369	95.2%

XIII　開かれた大学

1　公開講座等実施状況

○公開講座等

区分	内　　容	回数	実施時期	参加数（人）	対象者
文化学部	＜国際日本学レクチャーシリーズ第73号＞ 子どもと歩くウィーンの森	1	令和7年5月16日	34	学生・教職員・一般
	＜国際日本学レクチャーシリーズ第74号＞ 〈大西洋のかけ橋〉――英国と米国の文化を比較する	1	令和7年6月20日	71	学生・教職員・一般
	＜国際日本学レクチャーシリーズ第75号＞ 広島の九つの面	1	令和7年7月18日	29	学生・教職員・一般
	＜国際日本学レクチャーシリーズ第76号＞ 島国インドネシアと日本の文化交流	1	令和7年10月17日	32	学生・教職員・一般
	＜国際日本学レクチャーシリーズ第77号＞ イギリスコモンウェルス駐留軍と四国の占領	1	令和7年11月21日	34	学生・教職員・一般
	＜国際日本学レクチャーシリーズ第78号＞ ずっと何者かになりたかった―私が超難関資格を掴み取るまで	1	令和7年12月19日	37	学生・教職員・一般
	高校生のための文化学講座 「言葉の力を解き放つ：俳句からはじまる新しい国語教育」 「オープンデータから見る高知の地方自治：比較を通じて高知の特徴を探る」	1	令和7年6月14日	80	高校生
	高知県本山町公開講座「夜學2025」第1回 健康的で幸せに老いるためには	1	令和7年5月22日	19	高知県本山町町民
	永国寺はらっぱフェス「ケアと読書と当事者と」	1	令和7年9月20日	43	学生・教職員・一般
	永国寺はらっぱフェス「非言語のコミュニケーション」	1	令和7年10月18日	44	学生・教職員・一般
	『源氏物語』と日本近代文学	1	令和7年11月15日	125	学生・教職員・一般
	高知県立文化学部・フォアアールベルク教育大学教育研究協定締結記念講演会	1	令和8年3月31日	9	学生・教職員・一般
看護学部	高校生のための看護学を学ぶ公開講座 「在宅看護～その人らしい生活を支える」	2	令和7年7月26日 午前・午後	160	高校生
	看護実践能力を高めるための学習会「学習支援の極意を学ぶ！Part2」	1	令和7年11月16日	19	看護師・教員
社会福祉学部	リカバリーカレッジ高知　秋講座	1	令和7年11月29日	17	学生・教職員・一般
	リカバリーカレッジ高知 ＆ 永国寺はらっぱフェスpresents! メンタルヘルス特別講座「元気のたねを見つけよう」	1	令和7年12月20日	13	学生・教職員・一般
地域教育研究センター	高校生のための公開講座　第1回「県大立志塾」 ことばの規則性と創造性ー英語と日本語のさまざまな表現を観察してみようー	1	令和7年7月12日	38	高校生
	高校生のための公開講座　第2回「県大立志塾」 住み慣れた街で精神疾患をもつ人と共に暮らす	1	令和7年9月27日	28	高校生
	高校生のための公開講座　第3回「県大立志塾」 10代の食生活によって実現する将来の骨太生活	1	令和7年12月20日	17	高校生
	高校生のための公開講座　第4回「県大立志塾」 ジェンダーの思い込み、性のもやもやを考えよう-私たちのSRHR（性と生殖の権利）が尊重されるために-	1	令和8年2月14日	11	高校生

○リカレント講座

区分	内　　容	回数	実施時期	参加数（人）	対象者
看護学部	**＜がん看護学領域＞リカレント教育** 第1回「がん看護専門看護師の実践と役割開発」 第2回「院内・外での役割開発について」	2	令和7年9月20日 令和8年1月31日	19	専門職者
	＜がん看護学領域＞ケア検討会 第1回「病状進行により療養生活に苦悩を感じている壮年期がん患者への支援」 第2回「終末期にある壮年期がん患者とその家族の希望を支える全人的ケア」	2	令和7年6月21日 令和7年12月20日	57	
	＜急性期看護学領域＞ケア検討会(看護相談室) 第1回「救急・集中治療領域における早期回復支援」 第2回「救急・集中治療領域における早期回復支援」	2	令和7年6月17日 令和8年2月17日	28	専門職者
	＜小児看護学領域＞ケア検討会 第1回「学童期の子ども家族の事例」 第2回「重度の障害を持つ子どもの事例」	2	令和7年11月4日 令和8年2月28日	24	専門職者
	＜小児看護学領域＞リカレント教育 修了生の会 特別講義「訪問看護での活動を通じて思うこと」	2	令和7年7月21日 令和8年2月28日	28	
	＜母性・助産看護学領域＞ リカレント教育 「母性・助産看護学領域交流会」 第1回Maternal Study Meeting「性教育への未来地図」 第2回Maternal Study Meeting「性教育の実践」 第3回Maternal Study Meeting「国難！少子化！助産師は今！」 第4回Maternal Study Meeting「遠隔看護への挑戦 ～乳児家族への支援の試み～」 第5回Maternal Study Meeting「助産師の働き方～幼児・小学生子育て中～」 第6回Maternal Study Meeting「妊婦の災害対策」 第7回Maternal Study Meeting「北欧とオランダにおけるユースクリニックでの 若者支援」 第8回「助産師が行う超音波！分娩時に活用しています」 第9回Maternal Study Meeting「今いる場所で助産師としてできること～一歩ずつ、てくてくと」 第10回Maternal Study Meeting「高知医療センター　両親学級の新たな取り組み」 第11回Maternal Study Meeting「発災時の避難所における助産師の活動～避難所を想定した防災訓練～」	12	令和7年5月30日 令和7年5月7日 令和7年6月4日 令和7年7月2日 令和7年8月6日 令和7年9月10日 令和7年10月8日 令和7年11月5日 令和7年12月18日 令和8年1月7日 令和8年2月4日 令和8年2月20日	135	専門職者
	＜母性・助産看護学領域＞ ケア検討会 「家族を含めたグリーフケアの検討」	1	令和7年11月7日	13	修了生・在学生
	＜精神看護学領域＞ケア検討会 第1回「周産期にメンタルヘルスの課題を抱える家族とその支援」 第2回「CNSの役割開拓をどのように行うか」 第3回「CNS認定後の取り組みと役割獲得について」 第4回「CNSのアイデンティティと組織における役割」	4	令和7年6月19日 令和7年9月4日 令和7年12月18日 令和8年3月19日	54	本学大学院生・本学修了生・他大学修了生・教員
	＜家族看護学領域＞ リカレント教育 第1回「文献クリティーク―実践に活かせる文献を読もう！」 第2回「終末期医療に向かう患者と家族への支援」 第3回ケア検討会として開催 第4回「確信に迫る家族とのコミュニケーション」 第5回「多領域合同リカレント 第6回ケア検討会として開催 第7回 第8回「コンサルテーションをよりよいものとするために」 第9回「チームで取り組む家族への退院支援」	8	令和7年4月22日 令和7年5月20日 令和7年6月17日 令和7年7月22日 令和7年10月21日 令和7年11月18日 開催見送り 令和8年2月3日 令和8年3月3日	82	卒業生・修了生・大学院在学生・看護職・教員
	＜家族看護学領域＞ ケア検討会 「若年妊娠・出産した母親と家族へのケア」 「筋強直性ジストロフィー末期状態の患者の今後の療養に関する意思決定支援」	2	令和7年6月17日 令和7年11月18日	31	
	＜在宅看護学領域＞ケア検討会 第1回「社会的に孤立した壮年期男性介護者への支援」 第2回「対応が難しい家族への支援を考えるー距離感とコミュニケーションー」	2	令和7年6月26日 令和8年2月19日	49	専門職者

区分	内　　容	回数	実施時期	参加数（人）	対象者
看護学部	**＜看護管理学領域＞ ケア検討会** 第1回「チームの見立てがすれ違うとき―共感と想像力から考える看護管理―」 第2回「勤務評定を一人ひとりの目標につなぐ支援とは？」	2	令和7年6月20日 令和7年11月7日	44	看護職・大学院生・教員
	＜看護管理学領域＞ リカレント教育 「セルフリーダーシップを育むには？」	1	令和8年2月11日	12	修了生・大学院生・教員
	＜地域看護学領域＞ ケア検討会 第1回ケア検討会「地区診断1回目」 第2回ケア検討会「個別支援1回目」 第3回ケア検討会「地区診断2回目」 第4回ケア検討会「個別支援2回目」	4	令和7年6月6日 令和7年8月5日 令和7年11月7日 令和7年12月15日	78	専門職者
	＜地域看護学領域＞ リカレント教育 第1回リカレント教育「PDCAサイクル①」 第2回リカレント教育「PDCAサイクル②」 第3回リカレント教育「PDCAサイクル①」 第4回リカレント教育「PDCAサイクル②」	4	令和7年6月13日 令和7年8月1日 令和7年12月22日 令和8年2月19日	112	
健康栄養学部	オープンキャンパス　健康栄養学部体験授業 「健康な食事－1日に必要なエネルギーや栄養素について知ろうー」	1	令和7年7月26日	51	高校生
	オープンキャンパス　健康栄養学部体験授業 「栄養士・管理栄養士による災害支援活動－日々の仕事を災害支援につなぐー」	1	令和7年7月26日	50	高校生
地域共生学研究機構	令和7年度高知県立大学地域共生学研究機構シンポジウム 共生社会の未来を描く認知症カフェ	1	令和7年6月14日	173	一般
	令和7年度高知県立大学地域共生学研究機構シンポジウム ～地域活動の持続的発展と関係構築の秘訣を探る～	1	令和7年11月7日	68	一般
	令和7年度第2回社会的処方研究会 退院支援・訪問看護師育成の10年　～「病院から地域へ」を支える多職種連携による仕組みづくりと人材育成～	1	令和7年9月27日	51	住民・専門職者
	令和7年度第3回社会的処方研究会 地域共生社会をデザインする　～県大が取り組む共生社会へのアプローチ～	1	令和8年2月10日	27	住民・専門職者

2 学会役員等の状況

（1） 学会の理事・幹事

〇文化学部 文化学科

職 名	氏 名	学 会 名	理事・幹事の別
教 授	五百藏 高浩	英語コーパス学会	幹事
		四国英語教育学会	理事、査読委員
		日本英文学会中四国支部	理事
教 授	飯髙 伸五	日本オセアニア学会	評議員
教 授	宇都宮 千穂	社会経済史学会中国四国部会	理事
		日本地域経済学会	理事
教 授	大井 方子	日本経済学会	学会誌"Japanese Economic Review" Managing Editor
教 授	金澤 俊吾	英語コーパス学会	理事
		日本英語学会	編集委員
		英語語法文法学会	運営委員、編集委員
		近代英語協会	編集委員長
		日本英語英文学会	評議員
教授	菊池 直人	総合法政策研究会	会計監査
		日本保険学会	関西部会幹事
教授	白岩 英樹	日本キリスト教文学会	学会誌編集委員、全国大会運営委員、関東支部運営委員
教授	高西成介	中国中世文学会	運営委員、編集委員
教 授	鳥飼 真人	英語英文学会片平会	主幹事
		日本言語表象学会	事務局長
		日本ロレンス協会	評議員
		テクスト研究学会	編集委員長（～令和7年8月）
		テクスト研究学会	副会長（令和7年8月～）
教 授	橋尾 直和	流域圏学会	理事、編集・出版委員
		土佐民俗学会	常任理事
		物部庄谷相・拓の歴史と文化を考える会	副会長
		土佐歴史資料研究会	理事
		いざなぎ流と物部川流域の文化を考える会	理事
		土佐民俗文化研究会	世話人
教 授	三浦 要一	日本建築学会民家小委員会	委員
		建築史学会編集委員会	委員
准教授	梶原 太一	日本会計教育学会	理事
		日本簿記学会	簿記理論研究部会員
		中小企業会計学会	課題研究委員会委員
准教授	田中 裕也	日本近代文学会	関西支部運営委員
		昭和文学会	編集委員

○看護学部 看護学科

職　名	氏　名	学　会　名	理事・幹事の別
教　授	青木　早苗	日本看護科学学会誌	和文誌選任査読委員
教　授	畦地　博子	日本精神保健看護学会	査読委員
		日本看護科学学会	代議員、和文誌専任査読委員
		日本精神科看護学術集会	査読委員
		徳島大学医学雑誌	学外編集委員
教　授	池添　志乃	日本養護教諭養成大学協議会	副会長
		日本学校保健学会	理事、編集委員会委員
		日本家族看護学会	評議員、学会誌専任査読委員
		日本養護教諭教育学会	評議員
		中国・四国学校保健学会	理事
教　授	内田　雅子	日本慢性看護学会	「慢性看護学の知の発展推進事業」推進メンバー
教　授	瓜生　浩子	日本家族看護学会	評議員、教育促進委員会委員、 学会誌専任査読者
		日本看護シミュレーションラーニング学会	評議員、学会誌査読委員
教　授	大川　宣容	日本がん看護学会	代議員
		日本看護科学学会	代議員、和文誌専任査読委員
		日本看護シミュレーションラーニング学会	理事、総務担当、編集委員
		日本医療教授システム学会	編集委員
教　授	木下　真里	日本国際保健医療学会	西日本地方会世話人
		日本災害医学会	国際委員（WSDN連携ワーキンググループ・リーダー）
		日本公衆衛生学会 WADEM 2025 Tokyo　プログラム委員 WSDN board member	認定専門家、モニタリング・レポート委員会（健康危機管理）メンバー
		Health Emergency and Disaster Nursing, Editor and Editorial board	Editor-in-Chief, HEDN
		Reviewer, ASEAN Journal of Disaster Health Management	Editor-in-Chief, ASEAN Journal of Disaster Health Management
		Reviewer, Journal of Primary Care and Community Hleath	Editor-in-Chief, Journal of Primary Care and Community Hleath
教　授	久保田　聰美	日本看護管理学会	専任査読委員
		日本禁煙学会	特任理事、査読委員、資格制度委員会委員
		日本クリニカルパス学会	第26回学術集会プログラム委員、評議員、査読委員、学術・出版委員、医療の質検証準備委員会委員
		日本看護科学学会	代議員

職 名	氏 名	学 会 名	理事・幹事の別
教 授	嶋岡 暢希	日本災害看護学会	編集委員、査読委員
		日本助産学会	査読委員
		日本看護シミュレーションラーニング学会	査読委員
		高知県母性衛生学会	理事
教授	島本 亮	日本胸部外科学会	評議員
		日本呼吸器外科学会	評議員
		日本肺癌学会	評議員
		日本呼吸器内視鏡学会	評議員
		第78回日本胸部外科学会定期学術集会	プログラム委員
		International Society for Heart & Lung Transplantation	プログラム計画委員会委員
		General Thoracic and Cardiovascular Surgery	査読員
		Journal of Thoracic Disease	査読員
		European Society of Surgical Oncology	査読員
教 授	田井 雅子	日本精神保健看護学会	代議員、編集委員会委員（～6月）、査読委員（11月～）、学術連携委員会副委員長
		日本精神科看護学術集会誌	査読委員
教 授	高谷 恭子	日本小児看護学会	学会誌専任査読員
		日本看護学会	学会誌査読委員
教 授	竹﨑 久美子	日本災害看護学会	第27回年次大会 企画委員
		日本老年看護学会	災害支援検討委員会委員、第29回学術集会企画委員
教 授	立木 隆広	日本衛生学会	代議員
教 授	長戸 和子	日本家族看護学会	理事
特任教授	森下 安子	日本看護科学学会	代議員
		日本在宅看護学会	代議員、査読委員
		日本在宅ケア学会	広報委員会委員、査読委員
准教授	有田 直子	日本小児がん看護学会	理事、ケア検討委員会委員長
		日本小児看護学会	評議員、編集委員会委員
准教授	川上 理子	日本在宅ケア学会	監事
准教授	田代 真理	日本緩和医療学会	支援メンバーWG WG員、査読委員
准教授	畠山 卓也	日本精神保健看護学会	理事、代議員、学術連携委員会委員長、査読委員
		日本家族看護学会	災害対策委員会委員、査読委員
		日本精神科看護協会	作問部会委員長、認定制度部会委員 査読委員
		日本精神神経学会	多職種協働委員会委員
		日本看護協会	日本看護学会誌査読委員
		東京女子医科大学看護学会	査読委員
助 教	岩井 由里	日本学校健康相談学会	理事、編集委員、査読委員
助 教	田之頭 恵里	日本小児看護学会	査読委員
		日本移植・再生医療看護学会	評議員
助 教	中井 あい	日本看護研究学会	中国・四国地方会学術委員

○社会福祉学部 社会福祉学科

職　名	氏　名	学　会　名	理事・幹事の別
教　授	杉原　俊二	KJ法学会	運営委員
		日本社会福祉学会	中国四国地域ブロック運営委員副委員長 編集委員
		日本人間科学研究会	常務理事・機関誌編集委員長
教　授	長澤　紀美子	日本社会福祉学会	学会誌査読委員
		日本地域福祉学会	学会誌査読委員
		日本介護経営学会	学会誌査読者
教　授	西内　　章	日本地域福祉学会	地方委員
		日本高齢者虐待防止学会	査読委員
		日本学校ソーシャルワーク学会	査読委員
教　授	西梅　幸治	日本学校ソーシャルワーク学会	学会誌査読委員、中国四国ブロック運営委員
教　授	矢吹　知之	日本認知症ケア学会	理事（総務担当）、学会誌査読委員、将来構想委員
		日本高齢者虐待防止学会	理事、組織拡大委員
		日本老年社会科学会	評議員、査読委員
准教授	加藤　由衣	日本学校ソーシャルワーク学会	中国四国ブロック運営委員、査読委員
		日本社会福祉教育学会学会	査読委員
講　師	辻　　真美	日本認知症ケア学会	査読委員
		日本介護福祉学会	評議員・査読委員
講　師	清家　庸佑	日本作業療法学会	査読委員
		日本臨床作業療法学会	理事、学術編集委員、査読委員、学術大会演題査読委員
		日本精神障害者リハビリテーション学会	編集委員

○健康栄養学部 健康栄養学科

職　名	氏　名	学　会　名	理事・幹事の別
教　授	近藤　美樹	日本栄養・食糧学会	代議員
		日本栄養改善学会	評議員
		日本フードファクター学会	評議員
		日本調理科学会	中国・四国支部役員
教　授	渡邊　浩幸	日本食品保蔵科学会	HACCP専任講師
		日本食品保蔵科学会	HACCP委員会委員
		日本栄養・食糧学会	代議員
准教授	島田　郁子	日本家政学会中国・四国支部	常任幹事・機関幹事
		日本栄養改善学会	評議員
		日本栄養改善学会	学会誌査読委員
		日本災害食学会	学術委員
准教授	鈴木　麻希子	日本栄養・食糧学会	参与
		日本栄養改善学会	評議員
准教授	竹井　悠一郎	日本栄養改善学会	評議員
		日本栄養・食糧学会	参与
		日本食育学術会議	理事
講師	隅田　有公子	日本食育学術会議	理事
講師	竹本　和仁	日本食品保蔵科学会	HACCP専任講師
		日本栄養・食糧学会	参与

○地域教育研究センター

職　名	氏　名	学　　会　　名	理事・幹事の別
教　授	石山　貴章	日本職業リハビリテーション学会	理事

○健康長寿研究センター

職　名	氏　名	学　　会　　名	理事・幹事の別
准教授	小林　秀行	公共選択学会	理事
		日本経済政策学会	関東部会幹事

（2） 教員が受託した審議会・委員会の委員等

○文化学部 文化学科

職　名	氏　名	審議会・委員会名等	発 令 者
教 授	五百藏　高浩	高知県立安芸中・高等学校学校運営協議会委員	高知県教育長
		高知工科大学利益相反マネジメント委員会委員	高知工科大学学長
		令和7年度帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業 運営協議会委員	高知県教育長
		「（仮称）ぢばさんセンター大ホール等あり方検討会」委員	公益財団法人高知県産業振興センター理事長
		令和7年度高知県立高知国際中学校・高等学校国際シンポジウム審査員	高知県立高知国際中学校・高等学校校長
		公益財団法人高知県産業振興センター評議員	公益財団法人高知県産業振興センター理事長
教 授	岩倉　秀樹	情報公開・個人情報保護審査会委員	こうち人づくり広域連合　広域連合長
		高知県公文書開示審査会委員	高知県知事
		こうち人づくり広域連合情報公開・個人情報保護審査会委員	こうち人づくり広域連合長
		高知弁護士会懲戒委員会委員	高知弁護士会会長
教 授	宇都宮　千穂	高知県史編さん現代部会委員	高知県文化生活スポーツ部長
		高知市公文書管理委員会委員	高知市長
		高知県公衆浴場入浴料金審議会委員	高知県健康政策部長
		高知市立自由民権記念館協議会委員	高知市総務部民権・文化財課課長
		高知市住宅審議会委員	高知市長
		高知市建築審査会委員	高知市長
		高知県地域活性化雇用創造プロジェクト推進協議会委員	高知県雇用労働政策課課長
		第12期高知地方労働審議会臨時委員	高知労働局長
		安芸市内保育所移転統合検討委員会委員	安芸市長
		高知市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員	高知市長
		令和7年度高知県アニメプロジェクト推進会議委員	高知県産業振興部　産業イノベーション課長
		令和7年度における高知県アニメプロジェクト推進会議委員	高知県産業振興部　産業イノベーション課長
		高知県中山間地域事前復興まちづくり計画策定指針検討会委員	高知県知事
		高知市建築紛争調整委員	高知市都市建設部建築指導課長
		高知地方労働審議会　家内労働部会（公益代表委員）　委員	高知労働局長
		新複合交流施設PFI整備事業審査委員	安芸市長
		高知市総合計画審議会委員	高知市長

職　名	氏　名	審議会・委員会名等	発 令 者
教 授	大井　方子	労働政策審議会障害者雇用分科会委員	厚生労働省職業安定局 職業安定局長
		高知地方最低賃金審議会委員	高知労働局長
		日本経済学会機関紙「Japanese Economic Review」における Managing Editor	一般社団法人日本経済学会 会長
		高知県の安全安心に係る警察施策研究会アドバイザー	高知県警察本部本部長
		高知県独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会委員	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構高知支部 高知職業能力開発促進センター所長
		高知県職業能力開発審議会委員	高知県商工労働部 雇用政策課 課長
		高知県地域職業能力開発促進協議会委員	高知労働局長
		高知県警察SNS型投資・ロマンス詐欺被害防止啓発事業委託業務プロポーサル審査委員会 審査委員長	高知県警察本部生活安全部生活安全企画課課長
教 授	菊池　直人	高知県LPガスお客様相談所相談委員会議委員	一般社団法人高知県LPガス協会
		高知県消費生活審議会委員	高知県知事
		高知市消費生活審議会委員	高知市長
		高知県公文書管理委員会委員	高知県知事
		簡易裁判所判事推薦委員会委員	高知地方裁判所 所長
		高知県公文書開示審査会委員	高知県知事
		香美市情報公開審査会委員	香美市長
		香美市個人情報保護審査会委員	香美市長
		高知県公立大学生活協同組合理事	高知県公立大学生活協同組合 専務理事（代表理事
		土佐市情報公開・個人情報保護審査会委員	土佐市長
教 授	鳥飼　真人	日本ロレンス協会評議員	日本ロレンス協会
		英語英文学会片平会事務局長	英語英文学会片平会
		日本言語表象学会事務局長	日本言語表象学会
		テクスト研究学会紀要編集委員長	テクスト研究学会
		テクスト研究学会副会長	テクスト研究学会
教 授	高西　成介	大原富枝文学賞審査員	本山町立大原富枝文学館館長
		高知県出版文化賞選考委員	公益財団法人 高知県文教教会 代表理事
		高知放送番組審議会委員	株式会社高知放送 代表取締役社長

職　名	氏　名	審議会・委員会名等	発 令 者
教 授	三浦　要一	高知県史編さん編集委員会委員	高知県知事
		高知県史編さん文化財専門部会 副部会長	高知県知事
		史跡高知城跡整備計画推進委員会委員	高知県文化生活部長
		重要文化財木村家住宅修理委員会委員長	三好市長
		史跡高松城跡整備会議委員	高松市教育委員会
		独立行政法人日本学術振興会審査委員候補者	独立行政法人日本学術振興会研究事業部研究助成第二課
		重要文化財土佐神社楼門保存修理検討委員会 副委員長	宗教法人土佐神社
		高知県文化財保護審議会第1部会長	高知県文化生活部長
		札所詳細調査検討委員会委員長	高知県文化生活部長
		高知県文化賞選定委員会委員	高知県知事
		高知県文化財専門委員	高知県知事
		高知県中央地区文化財保護連絡協議会監事	高知市長
		須崎市国史跡土佐藩砲台跡保存活用計画策定委員会委員	須崎市教育委員会　須崎市教育長
		高知城耐震対策事業基本計画策定委員会委員長	高知県文化生活部歴史文化財課課長
		高知市文化財保護審議会会長	高知市長
		登録有形文化財（建造物）旧陸軍歩兵第四四連隊弾薬庫及び講堂保存活用計画策定委員会委員長	高知県文化生活部歴史文化財課課長
教 授	ヨース・ジョエル	こうち未来創造グローバル人材育成協議会運営幹事会委員	高知県教育委員会事務局高等学校課　課長
		公益財団法人高知県国際交流協会評議員会評議員	公益財団法人高知県国際交流協会代表理事
		出版学術賞　審査委員会　委員長	高知市文化振興事業団理事長
准教授	梶原　太一	高知県社会貢献活動支援推進会議委員、会長	高知県知事
		高知市中小企業・小規模企業振興審議会委員	高知市長
		高知県ボランティア・NPOセンター運営委員会運営委員	高知県社会福祉協議会会長
		香美市行政改革検討委員会委員	香美市長
		高知市民の大学運営委員会運営委員	高知市民の大学運営委員会委員長
准教授	向井　真樹子	こうち未来創造グローバル人材育成協議会に係る留学生選考委員会委員	高知県教育委員会事務局高等学校課　課長
講 師	田中　康代	懲戒委員会予備委員	高知弁護士会　会長
講 師	吐合　大祐	南海トラフ地震発生時における行政の在り方に関する研究会委員	公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長
講 師	濵田　愛	香美市都市計画審議会委員	香美市長
		高知市都市計画審議会委員	高知市長
		JR土佐山田駅周辺まちづくり基本構想策定委員会委員	香美市長

○看護学部 看護学科

職　名	氏　名	審議会・委員会名等	発 令 者
教 授	青木　早苗	高知がん診療連携協議会委員	高知がん診療連携協議会
		高知県がん教育推進協議会委員	高知県教育委員会事務局　保健体育課
教 授	畦地　博子	日本精神科看護協会　教育認定委員	一般社団法人日本精神科看護協会 会長
		日本精神科看護協会　研究倫理審査委員	一般社団法人日本精神科看護協会 会長
		高知医療センター地域医療支援病院運営委員会委員	高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター
教 授	池添　志乃	保健師助産師看護師実習指導者講習会検討委員	公益社団法人高知県看護協会
		心理・福祉分野に強みを持つ養護教諭の養成・育成プログラム開発事業における有識者委員会委員	株式会社NTTデータ経営研究所 LVCユニット
		高知県衛生環境研究所倫理審査委員会委員	高知県衛生環境研究所　所長
教 授	内田　雅子	高知県糖尿病医療体制検討会議委員	高知県健康政策部保健政策課
		安芸市総合計画審議会委員	安芸市　市長
教 授	大川　宣容	高知県ヘルスケアイノベーション推進協議会委員	高知県産業振興推進部イノベーション課　課長
		高知県ヘルスケアイノベーションプロジェクト支援案件選定審査委員	高知県産業振興推進部産業イノベーション課
		一般財団法人日本看護学教育評価機構理事、異議申し立て委員会委員長、総合評価部会委員、評価員研修委員会委員	一般財団法人日本看護学教育評価機構
教 授	木下　真里	南海トラフ地震対策啓発推進事業委託業務プロポーザル審査委員会委員長	高知県危機管理部 南海トラフ地震対策課　課長
		南海トラフ地震対策啓発アニメ制作委託業務プロポーザル審査委員会委員長	高知県危機管理部 南海トラフ地震対策課　課長
		高知県防災啓発動画制作委託業務プロポーザル審査委員会審査委員	高知県総務部　広報広聴課長
		高知県南海トラフ地震被害想定見直し検討委員会委員	高知県知事
		高知県消防広域化基本計画あり方検討会委員	高知県知事
		高知県防災会議委員	高知県知事
		高知県南海トラフ地震高知市長期浸水対策連絡会議アドバイザー	高知県危機管理部　南海トラフ地震対策課
		高知市防災会議委員、高知市防災会議幹事会幹事	高知市長
		高知県水防協議会委員	高知県知事
		高知県消防広域化基本計画あり方検討会委員	高知県危機管理部消防政策課　課長
		高知市水防協議会委員	高知市長
教 授	久保田　聰美	高知県健康づくり推進協議会たばこ対策専門部会委員	高知県健康政策部保健政策課　課長
		日本医療機能評価機構　評価調査者（看護サーベイヤー）	日本医療機能評価機構 理事長
		全日本病院協会 機能評価受診支援相談事業アドバイザー	全日本病院協会 病院機能評価委員会 委員長
		高知県立高知小津高等学校　学校運営協議会委員	高知小津高等学校　学校長
		社会福祉法人筆山保育園　理事（外部理事）	社会福祉法人筆山保育園　理事長
		れんけいこうち広域都市圏ビジョン推進懇談会における委員	高知市長

職　名	氏　名	審議会・委員会名等	発 令 者
教 授	嶋岡 暢希	助産師職能委員会委員長、3職能生きる力を育むいのちの教育検討委員会委員、助産師職能理事、助産師職能委員会委員長	公益社団法人高知県看護協会会長
		高知県周産期医療協議会委員	高知県健康政策部医療政策課　課長
		高知県周産期医療あり方検討会委員	高知県健康政策部医療政策課　課長
		高知県不妊治療への支援等の在り方に関する検討会委員長	高知県子ども・福祉政策部長
		3職能生きる力を育むいのちの教育検討委員会委員	公益社団法人高知県看護協会
		令和7年度不妊治療等広報委託業務プロポーザル審査委員	高知県子ども・福祉政策部子育て支援課 課長
		令和7年度男性育児休業取得促進事業実施委託業務プロポーザル審査委員	高知県子ども・福祉政策部子育て支援課 課長
		高知県産後ケア事業推進連絡会委員	高知県子育て支援課母子保健・子育て支援室
		地域で助産師の活動体制を構築するための情報収集委員長	公益社団法人日本看護協会
		助産師の活躍の場の拡大に向けたワーキング委員	高知県健康政策部医療政策課　課長
教 授	島本 亮	高知大学医学部倫理委員会及び高知大学医学部附属病院臨床研究審査委員会委員	高知大学医学部　医学部長
		高知大学医学部ヒトES細胞倫理委員会委員	高知大学医学部　医学部長
		高知県健康づくり推進協議会専門部会（たばこ対策専門部会）委員	高知県健康政策部保健政策課 よさこい健康プラン21推進室
		高知県地方薬事審議会委員	高知県健康政策部薬務衛生課
		医学生共用試験診療参加型臨床実習前OSCE外部評価者	医療系大学間共用試験実施評価機構 理事長
		医学生共用試験診療臨床実習後OSCE機構派遣監督者	医療系大学間共用試験実施評価機構 理事長
		医学生共用試験診療臨床実習後OSCE外部評価者	医療系大学間共用試験実施評価機構 理事長
教 授	田井 雅子	大学設置・学校法人審議会専門委員会委員	文部科学省文部科学省高等教育局長
		高知県ナースセンター運営協議会委員	公益社団法人高知県看護協会
		大学設置・学校法人審議会（大学設置分科会）保健衛生学専門委員会委員（～10月）	文部科学省文部科学省高等教育局長
		精神科看護領域の学術の振興を図り、その成果を活用して精神障がい者を支援していく事業委員	一般社団法人日本精神科看護協会
教 授	髙谷 恭子	高知県小児保健協会理事	高知県小児保健協会会長
		高知県小児救急電話相談事業委員会委員	公益社団法人高知県看護協会
教 授	竹﨑 久美子	災害支援対策委員会委員	日本看護系学会協議会　代表理事
		災害看護委員会委員	公益社団法人高知県看護協会会長
教 授	長戸 和子	高度実践看護師教育課程認定委員会（家族看護）委員	一般社団法人日本看護系大学協議会 代表理事
		高知県の看護を考える検討委員会委員	高知県健康政策部医療政策課長
		高知県看護協会第1副会長	公益社団法人高知県看護協会会長
		認定看護管理者教育課程運営委員会担当理事	公益社団法人高知県看護協会会長
		新人看護職員研修事業運営委員会委員長	公益社団法人高知県看護協会会長
		新人看護職員研修検討会委員	公益社団法人高知県看護協会会長

職　名	氏　名	審議会・委員会名等	発 令 者
特任教授	森下　安子	高知県教育委員	高知県知事
		高知県高齢者保健福祉推進委員会委員	高知県　子ども・福祉政策部 子ども・福祉政策部長
		高知市地域包括支援センター運営協議会委員	高知市長
		高知県介護支援専門員研修等向上委員会会長	高知県知事
		高知県訪問看護推進協議会委員	高知県知事
		高知市地域高齢者支援センター運営協議会委員	高知市長
		高知市地域密着型サービス運営委員会委員	高知市長
		いの町地域包括支援センター運営協議会委員	いの町長
		いの町地域密着型サービス運営委員会委員	いの町長
		日高村地域包括支援センター運営協議会委員長	日高村村長
		日高村地域密着型サービス運営委員会委員	日高村村長
		日高村障害程度区分認定審査委員	日高村村長
准教授	有田　直子	高知市医療的ケア児及び重度の障害のある子どもの支援検討会委員	高知市　子ども発達支援センター
准教授	小澤　若菜	国民健康保険団体連合会保健事業支援・評価委員会委員	高知県国民健康保険団体連合会　理事長
		高知市地域保健推進協議会委員	高知市長
		高知市地域密着型サービスの運営に関する委員会委員	高知市介護保険課
		高知市国民健康保険運営協議会委員	高知市保険医療課
		高知県保健師人材育成評価検討会委員	高知県健康政策部保健政策課 保健政策課長
准教授	田代　真理	日本ホスピス緩和ケア協会　教育支援委員会看護支援教育支援部会員	特定非営利活動法人日本ホスピス緩和ケア協会
准教授	畠山　卓也	精神科認定看護師制度部会委員	一般社団法人日本精神科看護協会 会長
		精神科認定看護師認定試験小委員会委員	一般社団法人日本精神科看護協会 会長
		精神科看護学術集会誌査読委員	一般社団法人日本精神科看護協会
准教授	森下　幸子	高知県人生の最終段階における医療・ケア検討会議委員	高知県知事
		高知県訪問看護推進協議会委員長	高知県健康政策部在宅療養推進課
		高知県重症心身障害者等支援体制整備協議会委員	高知県知事
		在宅医療支援体制構築のための検討会アドバイザー	高知県中央西福祉保健所　所長
		中芸広域連合介護保険事業計画策定委員会委員	中芸広域連合　連合長
		高知県訪問看護連絡協議会アドバイザー	高知県訪問看護連絡協議会会長
		高知県地域医療連携ネットワーク会　ACP研修　アドバイザー	高知県健康政策部在宅療養推進課長
		中芸広域連合 中芸de生きたいを応援する会 アドバイザー	中芸域連合 中芸de生きたいを応援する会会長
		高知県在宅医療推進フォーラム実行委員・シンポジウム座長「意思決定支援」	一般社団法人高知県医師会会長
		高知県訪問看護相談支援センター　監事	高知県訪問介護連絡協議会会長
		高知県中央西福祉保健所　退院支援体制強化研修アドバイザー	高知県中央西福祉保健所　所長
		訪問看護ステーション運営委員会委員	公益社団法人高知県看護協会会長
		社会福祉法人ファミーユ高知　評議員	社会福祉法人ファミーユ高知　理事長
		研究倫理審査会外部委員	特定医療法人　長生会　大井田病院院長
講　師	岩﨑　順子	看護研究倫理審査委員会委員	公益社団法人高知県看護協会会長
助　教	岩井　由里	学校運営協議会委員	高知県立幡多農業高等学校　校長
助　教	加藤　昭尚	高知看護教育研究会　企画委員	高知看護教育研究会　会長

職　名	氏　名	審議会・委員会名等	発　令　者
助　教	小味　慶子	香南市自転車活用推進計画に係る検討部会委員	香南市商工観光課観光振興係
		香南市自転車活用推進計画査定委員会委員	香南市商工観光課観光振興係
助　教	德岡　麻由	3職能生きる力を育むいのちの教育検討委員会委員	公益社団法人高知県看護協会会長
		高知県性教育推進協議会委員	高知県教育委員会事務局保健体育課
		第49回日本産婦人科医会性教育指導セミナー全国大会　in 高知　準備委員会委員	高知県産婦人科医会
助　教	廣瀬　未央	愛媛県在宅緩和ケア推進事業 評価研究委員	医療法人　聖愛会　理事長
特任助教	井上　加奈子	地域包括ケア推進委員会員	公益社団法人高知県看護協会会長
		在宅領域看護検討会委員	公益社団法人高知県看護協会会長

○社会福祉学部 社会福祉学科

職　名	氏　名	審議会・委員会名等	発　令　者
教　授	杉原　俊二	令和7年度スクールソーシャルワーカー活用事業におけるスーパーバイザー	高知県教育委員会 人権教育・児童生徒課
		高知県児童福祉審議会委員	高知県子ども・福祉政策部 子ども家庭課
		評議員選任・解任委員会委員	社会福祉法人高知県社会福祉協議会 会長
教　授	田中　きよむ	高知県運営適正化委員会委員	社会福祉法人高知県社会福祉協議会 会長
		高知県地域年金事業運営調整会議委員長	日本年金機構高知年金事務所長
		高知県弁護士会綱紀委員会委員、高知弁護士会資格審査会予備委員	高知弁護士会会長
		高知市社会福祉審議会委員長、同審議会民生委員審査専門分科会会長	高知市長
		高知市福祉有償運送運営協議会委員	高知市長
		高知市生活困窮者支援運営委員会委員長、セーフティネット連絡会委員	高知市社会福祉協議会会長
		公益財団法人ひかり協会高知県地域救済対策（森永ヒ素ミルク中毒事件被害者救済対策）委員会委員長	公益財団法人ひかり協会
		高知県高次脳機能障害支援委員会委員	高知県知事
		高知県居住支援協議会会長	高知県宅建協会
		佐川町地域福祉計画アドバイザー	佐川町長
		四万十町地域福祉活動計画アドバイザー	四万十町社会福祉協議会会長
		社会福祉法人「高知福祉会」「すずめ福祉会」「フアミーユ高知」各第三者委員	各社会福祉法人理事長
教　授	長澤　紀美子	高知市人権尊重のまちづくり審議会委員	高知市　市民協働部 人権同和・男女共同参画課
		高知県困難な問題を抱える女性及びDV被害者支援調整会議代表者会議構成員	高知県子ども・福祉政策部 人権・男女共同参画課
		社会福祉法人高知県社会福祉協議会理事	社会福祉法人　高知県社会福祉協議会 会長
		高知地方労働審議会委員	高知労働局　局長
		高知県人権尊重の社会づくり協議会委員	高知県子ども・福祉政策部 人権・男女共同参画課
		高知県人権尊重の社会づくり協議会　差別事象検討部会委員	高知県子ども・福祉政策部

職　名	氏　名	審議会・委員会名等	発 令 者
教 授	西内　章	高知県行政不服審査会委員	高知県知事
		令和7年度スクールソーシャルワーカー活用事業におけるスーパーバイザー	高知県人権教育委員会 人権教育・児童生徒課
		高知県教育振興基本計画推進会議委員	高知県教育委員会　教育長
		高知県地域福祉活動支援計画推進委員会委員	社会福祉法人高知県社会福祉協議会　会長
		高知県高齢者・障害者権利擁護センター運営協議会委員	社会福祉法人高知県社会福祉協議会　会長
		日常生活自立支援事業契約締結審査会委員	社会福祉法人高知県社会福祉協議会 会長
		高知市高齢者及び障害者虐待予防ネットワーク会議委員	高知市長
		高知市社会福祉協議会評議員	社会福祉法人高知市社会福祉協議会　会長
		高知市成年後見サポートセンター運営委員会委員	社会福祉法人高知市社会福祉協議会 会長
		これからあんしんサポート事業審査会委員	社会福祉法人高知市社会福祉協議会 会長
		津野町地域包括支援センター及び地域密着型サービス運営協議会委員	津野町長
		津野町認知症初期集中支援チーム検討委員会委員	津野町役場　介護福祉課
		津野町成年後見制度利用促進協議会委員	津野町役場　介護福祉課
		中土佐町権利擁護支援システム推進委員会委員	中土佐町長
教 授	西梅　幸治	令和7年度スクールソーシャルワーカー活用事業におけるスーパーバイザー	高知県人権教育委員会 人権教育・児童生徒課
		高知市不登校対策専門家支援チーム委員	高知市長
		高知県福祉教育・ボランティア学習推進委員会委員	社会福祉法人高知県社会福祉協議会 会長
		高知県福祉人材センター・高知県福祉研修センター運営委員会委員	社会福祉法人高知県社会福祉協議会 会長
		高知市教育研究所運営委員	高知市教育研究所
教 授	矢吹　知之	高知市介護保険施設等整備事業者審査委員会委員	高知市健康福祉部介護保険課
		令和7年度厚生労働省委託事業「認知症分野における官民連携・バリアフリー普及啓発事業に関する手引き書作成及び広報等に関する業務委託事業」における「認知症バリアフリー宣言等に関する検討委員会」委員	株式会社日本総合研究所 リサーチ・コンサルティング部門 執行委員本部長
		令和7年度厚生労働省　老健事業「認知症施策推進基本計画に基づく認知症施策の推進のあり方に関する調査研究事業」における「普及啓発・バリアフリー関連ワーキンググループ」委員	株式会社日本総合研究所 リサーチ・コンサルティング部門 執行役員本部長
		令和7年度厚生労働省　老健事業「認知症施策推進基本計画に基づく認知症施策の推進のあり方に関する調査研究事業」における「KPI関連ワーキンググループ」委員	日本総合研究所 リサーチ・コンサルティング部門
		令和7年度 厚生労働省 老人保健健康増進等事業 「認知症の人の診断直後のピアサポート 活動の実施体制構築に向けた調査研究事業」本検討委員会委員	株式会社日本総合研究所 リサーチ・コンサルティング部門 執行役員本部
		令和7年度老人保健健康増進等事業「認知症施策推進のための広域的支援に関する調査研究事業」委員	一般社団法人　人とまちづくり研究所
		高知県認知症施策推進会議委員	高知県子ども・福祉政策部 長寿社会課
准教授	加藤　由衣	高知県子どもの環境づくり推進委員会委員	高知県知事
		高知県社会福祉士会理事	高知県社会福祉士会会長
		いじめ重大事案に係る第三者調査委員会委員	独立行政法人国立高等専門学校機構 高知工業高等専門学校
		土佐市子ども・子育て支援会議委員	土佐市　子育て支援課

職　名	氏　名	審議会・委員会名等	発 令 者
准教授	河内　康文	高知県障害者施策推進協議会委員	高知県知事
		令和7年度高知県介護に関する入門的研修事業委託業務公募型プロポーザル審査委員会委員	高知県子ども・福祉政策部長寿社会課長
		特別免許状に係る教育職員検定審査会委員	高知県教育委員会　教職員・福利課
准教授	田中　顕悟	令和7年評議員選任委員会評議員	社会福祉法人土佐あけぼの会理事長
准教授	辻　　真美	高知県公立学校ハラスメント等第三者委員会委員	高知県教育長
		高知県介護福祉士会 倫理委員会委員	高知県介護福祉士会会長
		高知県手話言語条例普及推進協議会委員	高知県　子ども・福祉政策部障害福祉課
		手話普及啓発委託業務公募型プロポーザル審査委員	高知県　子ども・福祉政策部
		教職員によるハラスメント・児童生徒性暴力の防止等に係る外部有識者委員会委員	高知県教育委員会　教職員・福利課
		高知市斎場運営協議会委員	高知市斎場
		高知県若者応援産学官フォーラム　福祉人材分科会委員	高知県文化生活部　私学・大学支援課
准教授	遠山　真世	高知県障害者介護給付費等不服審査会委員	高知県子ども・福祉政策部長
		高知県自立支援協議会就労支援部会委員	高知県子ども・福祉政策部 障害保健支援課課長
		高知市障害者計画等推進協議会委員	高知市長
准教授	福間　隆康	特別研究員等審査会審査委員及び国際事業委員会書面審査員・書面評価員	独立行政法人日本学術振興会　理事長
		高知県若者所得向上検討チーム（福祉・介護分野）チーム員	高知県子ども・福祉政策部長寿社会課長

職　名	氏　名	審議会・委員会名等	発 令 者
講 師	井上 夏子	公益社団法人日本精神保健福祉士協会 政策提言部 地域精神保健福祉委員会委員	公益社団法人日本精神保健福祉士協会 会長
講 師	清家 庸佑	学術大会演題査読委員	日本作業療法士協会
		日本臨床作業療法学会理事、学術委員、学術誌編集委員、学術誌査読委員	日本臨床作業療法学会
		学術誌編集委員、論文査読委員	日本精神障害者リハビリテーション学会
講 師	田中 眞希	福祉職場における介護助手導入促進のための情報共有会議アドバイザー	高知県社会福祉協議会 会長
		障害者支援施設アドレス・高知 苦情解決第三者委員	社会福祉法人ミレニアム理事長
		森永ひ素ミルク中毒被害者を救済する事業委員	公益社団法人 ひかり協会四国地区センター事務所
講 師	湯川 順子	高知県社会福祉審議会委員	高知県知事
講 師	行貞 伸二	高知県共同募金会評議員	社会福祉法人高知県共同募金会会長
		高知県共同募金会配分委員会委員	社会福祉法人高知県共同募金会会長
		高知県営住宅入居者選考基準等審査委員会委員	高知県知事
		高知市民生委員推薦会委員	高知市長
		高知市行政改革推進委員会委員	高知市長
助 教	稲垣 佳代	高知県医療審査会委員	高知県知事
		2024・2025年度就労・雇用・産業保健委員会委員	公益社団法人日本精神保健福祉士協会 会長
助 教	大熊 絵理菜	高知県医療ソーシャルワーカー協会理事	高知県医療ソーシャルワーカー協会会長
助 教	玉利 麻紀	高知県精神保健福祉協会 研修委員	高知県精神保健福祉協会 会長
		公益財団法人 介護労働安定センター ヘルスカウンセラー	高知支部長
		社会福祉法人土佐あけぼの会 苦情解決第三者委員	社会福祉法人土佐あけぼの会 理事長
		高知県障害者支援施設等に準ずる者の認定等に関する要領学識委員	高知県知事
		高知県精神医療審査会 審査委員	高知県知事
		高知県重度心身障害児・者医療費助成事業に係る関係者会議委員	高知県知事

○健康栄養学部 健康栄養学科

職　名	氏　名	審議会・委員会名等	発 令 者
教 授	近藤　美樹	高知県食育連携推進協議会委員	高知県知事
		第78回全国植樹祭高知県実行委員会委員	高知県知事
		高知県食の安全・安心推進審議会会長	高知県知事
		令和7年度事業所健康づくり支援事業委託業務公募型プロポーザル審査委員	高知県健康政策部保健政策課
教 授	渡邊　浩幸	こうち産業振興基金等事業の審査員	公益財団法人高知県産業振興センター 理事長
		IoPプロジェクト人材育成部会委員	高知県Next次世代型施設園芸農業に関する産学官連携協議会　人材育成部会　会長
		越知町まち・ひと・しごと創生推進会議委員	越知町企画課
		高知県農林業基本対策審議会特別委員	高知県知事
		安芸市立学校給食センター運営委員会アドバイザー	安芸市長
		一般社団法人医工協創拠点MEDiTech　理事	一般社団法人医工協創拠点MEDiTech
准教授	島田　郁子	土佐市社会福祉事業団 理事	土佐市市長
		土佐市立学校給食センター運営審議会委員	土佐市立学校給食センター
		安芸市立学校給食センター運営委員会委員	安芸市教育委員会学校教育課 安芸市教育長
		一般社団法人日本災害食学会　学術委員会学術委員	一般社団法人日本災害食学会　会長
		高知市学校給食調理等業務プロポーザル選定委員会委員	高知市教育委員会　教育長
		特定非営利活動法人日本栄養改善学会査読委員	特定非営利活動法人日本栄養改善学会長
		日本栄養士会災害支援チーム（JDA-DAT）運営委員会委員	公益社団法人　日本栄養士会 代表理事会長
准教授	鈴木　麻希子	管理栄養士国家試験委員	厚生労働省健康・生活衛生局 厚生労働省健康・生活衛生局長
准教授	竹井　悠一郎	高知県アルコール健康障害・依存症対策推進協議会委員	高知県子ども・福祉政策部長
		公益社団法人高知県栄養士会　理事	公益社団法人高知県栄養士会　会長
		医療法人社団湧泉会ひまわり歯科　研究倫理委員会 外部委員	医療法人社団湧泉会ひまわり歯科理事長 岡本　佳明
講 師	竹本　和仁	高知県産学官民連携コーディネーター	高知県産業振興推進部産業イノベーション課 課長
講 師	村井　詩子	高知県アルコール健康障害・依存症対策推進協議会委員	高知県子ども・福祉政策部　障害保健支援課
助 教	井治　賢希	高知県産学官民連携コーディネーター	高知県産業振興推進部産業イノベーション課 課長
助 教	小山　智久	高知県公立大学生活協同組合理事	高知県公立大学生活協同組合 専務理事（代表理事）
助 手	彼末　富貴	高知市春野郷土資料館運営審議会委員	高知市長
		高知市文化振興審議会委員	高知市長
		高知市食育推進会議委員	高知市長
		高知市観光振興計画推進委員会	高知市長
		土佐の料理伝承人選定委員	高知県知事

○地域教育研究センター

職　名	氏　名	審議会・委員会名等	発　令　者
教　授	石山　貴章	高知県障害者教育支援委員会委員	高知県教育委員会　高知県教育長
		高知県特別支援学校技能検定実施委員会委員	高知県教育委員会事務局　特別支援教育課
准教授	秋谷　公博	佐川町総合計画審議会委員	佐川町長
		佐川町まち・ひと・しごと創生推進会議委員	佐川町長
		令和7年度中山間地域交流促進事業委託業務プロポーザル審査委員会　審査委員長	高知県総合企画部中山間市域対策課　課長
		土佐市指定管理者制度検討委員会　公園・住宅・集会所・その他部会委員	土佐市長
		高知県おもてなし県民会議委員	高知県知事
		高知県市町村図書館等振興協議会委員	高知県教育長
准教授	高徳　希	高知家健康会議生活習慣病対策部会　部会委員	高知県知事
		令和7年度事業所健康づくり支援事業委託業務公募型プロポーザル審査委員会　審査委員	高知県知事
		葉山の花取り踊調査委員会委員	津野町教育委員会　教育長

○健康長寿研究センター

職　名	氏　名	審議会・委員会名等	発　令　者
准教授	小林　秀行	経済社会の変化と労働者の生活、健康、ウェルビーイングに関する研究会委員	独立行政法人労働政策研究・研修機構 理事長

（3） 他大学等非常勤講師応諾

○文化学部 文化学科

職　名	氏　名	依頼大学等	科目名等	委嘱期間
教 授	岩倉　秀樹	高知工科大学	日本国憲法(A)	令和7年4月1日　～ 令和7年9月30日
		高知工科大学	日本国憲法(B)	令和7年4月1日　～ 令和7年9月30日
教 授	宇都宮　千穂	高知大学	日本経済史	令和7年9月1日　～ 令和7年9月30日
教 授	高西　成介	高知大学	中国文学概論Ⅱ	令和7年4月1日　～ 令和7年9月30日
			中国古典文学論	令和7年10月1日　～ 令和8年3月31日
		鳴門教育大学	語学・文学総合演習Ⅲ (漢文学)	令和7年4月1日　～ 令和8年3月31日
		熊本大学	中国語中国文学特殊講義Ⅲ (中国古典小説と民俗)	令和7年4月1日　～ 令和8年3月31日
		広島大学大学院	漢字文化論演習A	令和7年4月1日　～ 令和8年3月31日
		広島大学大学院	漢字文化論演習B	令和7年4月1日　～ 令和8年3月31日
教 授	菊池　直人	高知工科大学	法律学	令和7年10月1日　～ 令和8年3月31日
		高知工業高等専門学校	法学	令和7年4月1日　～ 令和7年9月30日
		高知県立消防学校	法学基礎	令和7年4月1日　～ 令和7年5月30日
准教授	田中　裕也	放送大学	教養を深めるセミナー（日本近代文学と映画）	令和7年4月1日　～ 令和8年3月31日
准教授	沼田　真里	法政大学	日本文芸研究特講・近代	令和7年7月24日　～ 令和7年7月30日
講 師	中瀬　将志	高知大学	日本古代文学演習Ⅰ	令和7年4月1日　～ 令和7年9月30日
		高知大学	日本古代文学演習Ⅱ	令和7年10月1日　～ 令和8年3月31日
		放送大学	歴史物語を読む	令和7年12月20日　～ 令和7年12月21日
講 師	吐合　大祐	三重大学	特殊講義　日本政治論	令和7年10月1日　～ 令和8年3月31日
		高知大学	政治学概論	令和7年10月1日　～ 令和8年3月31日

○看護学部 看護学科

職　名	氏　名	依頼大学等	科目名等	委嘱期間
教 授	青木　早苗	関西医科大学大学院看護学研究科	論文指導	令和7年5月1日　～ 令和8年3月31日
		高知大学	がん看護学とターミナルケア	令和7年4月14日　～ 令和7年5月31日
		高知大学	がん看護学とターミナルケア	令和7年6月1日　～ 令和7年9月30日
教 授	池添　志乃	甲南女子大学大学院	家族看護論	令和7年4月10日　～ 令和7年9月20日
		高知学園大学	家庭看護学	令和7年10月1日　～ 令和8年3月31日
教 授	瓜生　浩子	関西医科大学大学院	家族看護学	令和7年4月1日　～ 令和8年3月31日
		愛知県立大学大学院	家族看護援助論	令和7年10月31日
教 授	畦地 博子	愛媛県立医療技術大学	精神看護学特論Ⅱ	令和7年4月1日　～ 令和8年3月31日
教 授	大川　宣容	川崎医療福祉大学	クリティカルケア看護学特論	令和7年4月1日　～ 令和8年3月31日
教 授	久保田　聰美	四国大学	看護管理学特論	令和7年4月3日　～ 令和7年9月23日
		愛媛県立医療技術大学大学院	看護管理学特論	令和7年4月1日　～ 令和8年3月31日
教 授	長戸　和子	愛知県立大学	家族看護援助論	令和7年10月31日
		島根大学	家族看護援助論	令和7年10月2日　～ 令和8年3月31日
特任教授	森下　安子	高知学園大学	地域包括ケアシステム論	令和7年4月1日　～ 令和7年9月30日
		高知学園大学	地域医療概論	令和7年4月1日　～ 令和7年9月30日
准教授	有田　直子	徳島文理大学大学院	コンサルテーション論	令和7年12月20日　～ 令和8年2月7日
准教授	小澤　若菜	群馬大学	地域看護学方法論演習Ⅰ	令和7年4月1日　～ 令和7年9月30日
准教授	畠山　卓也	東京女子医科大学大学院	精神看護学特論	令和7年6月25日　～ 令和8年3月31日
		奈良県立医科大学大学院	家族看護学	令和7年9月19日　～ 令和8年3月31日
助 教	池内　香	徳島文理大学大学院	コンサルテーション論	令和7年12月14日　～ 令和8年2月7日
助 教	塩見　理香	龍馬看護ふくし専門学校	精神看護方法論Ⅱ	令和7年7月23日　～ 令和7年11月30日
助 教	森本　紗磨美	龍馬看護ふくし専門学校	診療補助技術Ⅰ、臨床判断	令和7年4月1日　～ 令和8年3月31日
特任助教	井上　加奈子	龍馬看護ふくし専門学校	在宅療養を考える看護Ⅰ	令和7年5月26日　～ 令和7年7月31日
		高知大学	在宅看護援助論、在宅看護概論	令和7年4月14日　～ 令和8年2月28日

○社会福祉学部 社会福祉学科

職　名	氏　名	依頼大学等	科目名等	委嘱期間
教 授	杉原 俊二	九州医療科学大学大学院	社会福祉学特殊講義Ⅷ（児童・家庭福祉論）	令和7年4月1日　～ 令和8年3月31日
教 授	田中 きよむ	高知大学	社会保障論	令和7年4月14日　～ 令和7年9月30日
		龍馬看護ふくし専門学校	社会保障論	令和7年4月11日　～ 令和8年1月30日
教 授	西内　章	高知リハビリテーション専門職大学	対人援助技術論	令和7年4月1日　～ 令和7年9月30日
教 授	西梅 幸治	高知リハビリテーション専門職大学	対人援助技術論	令和7年4月1日　～ 令和7年9月30日
		四国中央医療福祉総合学院	「地域福祉と包括的支援体制」レポート課題設定及びレポート添削	令和7年4月1日　～ 令和8年3月31日
准教授	加藤 由衣	高知福祉専門学校	社会福祉調査の基礎	令和7年4月1日　～ 令和7年9月30日
准教授	辻　真美	高知大学	介護等体験	令和7年4月15日　～ 令和7年4月30日
准教授	遠山 真世	高知リハビリテーション専門職大学	障害者の社会環境と制度	令和7年4月1日　～ 令和7年9月30日
准教授	福間 隆康	高知福祉専門学校	福祉サービスの組織と経営	令和7年10月1日　～ 令和8年3月31日
講 師	湯川 順子	龍馬看護ふくし専門学校	社会福祉の原理と政策	令和7年9月25日　～ 令和8年1月22日
講 師	行貞 伸二	高知学園短期大学	看護と福祉	令和7年4月1日　～ 令和7年9月30日
助 教	稲垣 佳代	高知医療学院	社会福祉学	令和7年9月1日　～ 令和7年9月30日
		高知健康科学大学	社会福祉学概論	令和7年10月1日　～ 令和8年3月31日
助 教	乾 由美	高知県立幡多看護専門学校	地域・在宅看護方法論Ⅰ	令和7年10月1日　～ 令和7年12月31日
助 教	大熊 絵理菜	高知福祉専門学校	ソーシャルワークの理論と方法	令和7年4月1日　～ 令和8年3月31日
助 教	山本 大輔	高知大学	保健医療福祉行政論	令和7年4月14日　～ 令和7年9月30日

○健康栄養学部 健康栄養学科

職　名	氏　名	依頼大学等	科目名等	委嘱期間
准教授	島田 郁子	愛媛大学	子どもの食と栄養	令和7年4月9日　～ 令和7年9月23日
		高知大学	食物学概論	令和7年10月1日　～ 令和8年2月28日
		高知学園大学	災害と生活	令和7年10月1日　～ 令和8年3月31日
准教授	鈴木 麻希子	高知大学	食生活論	令和7年9月1日　～ 令和7年9月30日
准教授	西岡 道子	龍馬看護ふくし専門学校	栄養学	令和7年5月29日　～ 令和7年7月31日
講 師	隅田 有公子	龍馬情報ビジネス＆フード専門学校	栄養学	令和7年4月11日　～ 令和8年3月31日
講 師	竹本 和仁	RKC調理製菓専門学校	食生活と健康	令和7年4月1日　～ 令和8年3月31日
助 教	小山 智久	RKC調理製菓専門学校	衛生法規	令和7年4月1日　～ 令和8年3月31日

○地域教育研究センター

職　名	氏　名	依頼大学等	科目名等	委嘱期間
教 授	石山 貴章	高知健康科学大学	教育と社会	令和7年10月1日　～ 令和8年3月31日
		就実大学大学院	障害児就労支援学特論	令和7年9月24日　～ 令和8年3月31日
		高知リハビリテーション専門職大学	特別支援教育論	令和7年4月1日　～ 令和7年9月30日
		名古屋商科大学	特別支援教育	令和7年8月5日　～ 令和7年9月30日
		尾道市立大学	生徒・進路指導論	令和7年9月24日　　令和8年3月31日
		高知工科大学	特別支援教育概論	令和7年10月1日　～ 令和8年3月31日
		環太平洋大学	教育相談（初等） 教育相談（中等）	令和7年4月1日　～ 令和8年3月31日
		新見公立大学	教育相談（幼）	令和7年10月1日　～ 令和8年3月31日
准教授	秋谷 公博	高知健康科学大学	社会学概論	令和7年4月1日　～ 令和7年9月30日
准教授	高徳 希	高知大学	スポーツ科学実技 （ソフトバレーボール） スポーツ科学実技 （バドミントン）	令和7年4月1日　～ 令和8年2月28日
		奈良女子大学	保育内容指導法（健康）	令7年10月1日　～ 令和8年3月31日

3 学外提供用刊行物作成状況

担当部署	名　　称
文化学部	高知県立大学　文化学部　活動記録
	Humanismus 第37号
	高知県立大学　文化論叢　第14号
	文化の力　Vol. 10
看護学部	高知県立大学看護学部・看護学研究科年報
	高知県立大学看護学部看護実習要項
	看護学部パンフレット（受験生向けPR誌）
	看護学研究科　博士前期課程3コース募集チラシ
	看護学部ニュースレター　学生生活通信『fure-fure』 第29号
	看護学部ニュースレター　学生生活通信『fure-fure』 第30号
社会福祉学部	福祉で未来を探求！高校生のためのEVENT・オープンキャンパス（リーフレット）
	福祉で未来を探求！高校生のためのEVENT・カフェで学ぶ福祉と認知症（リーフレット）
	福祉で未来を探求！高校生のためのEVENT・県大生と行く最新の福祉体験ツアー（リーフレット）
	福祉で未来を探求！高校生のためのEVENT・新2・3年生のための入門講座（リーフレット）
	高知県立大学 社会福祉学部(学部パンフレット)
	実習のてびき ―ソーシャルワーク実習―
	実習のてびき ―精神・社会福祉コース編―
	実習のてびき ―介護福祉実習―
	社会福祉実習報告書(ソーシャルワーク実習・精神保健福祉援助実習)
	介護福祉実習報告集
	高知県立大学 社会福祉学部報
健康栄養学部	健康栄養学部　学部報
人間生活学研究科	人間生活学研究科（博士前期課程）ウェルビーイング学領域新設チラシ
地域教育研究センター	立志社中 令和6年度活動成果報告書
	立志社中プロジェクト2025リーフレット
	高知県立大学地域教育研究センター報　2024　第13号
	域学共生事業パンフレット2026
健康長寿研究センター	高知県立大学地域共生学研究機構健康長寿研究関連事業紹介

担当部署	名　　称
健康管理センター	ヘルスパスポート（健康手帳）
附属図書館	附属図書館年報　令和6年度
	高知県立大学紀要　第75巻
総務課	令和6年度年報
入試課	大学案内2026
	大学院案内2026
教務・学生支援課	学生便覧【学部分】
	学生便覧（補遺）
	学生便覧【大学院分】
戦略広報課	トビラ。vol.1
	ひらくvol.1

XIV　財務

１　はじめに

本法人は、平成 23 年４月１日に地方独立行政法人法に基づく公立大学法人となり、今期が第３期中期計画の３年目にあたる第１５期目の決算となる。

公立大学法人の会計基準は、企業会計を基本としながらも、主たる業務内容が教育・研究であり、利益の獲得を目的としないなどの特殊性を考慮した「地方独立行政法人会計基準」に基づき作成されるもので、県民をはじめとする利害関係者に、法人の財政状態や運営状況を明らかにするために、作成が義務付けられている。

第３４条第１項では、毎事業年度終了後３ヶ月以内に、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、利益の処分又は損失の処理に関する書類等）を、設立団体の長に提出し、承認を得なければならないとされている。

２　貸借対照表

貸借対照表は、令和８年３月 31 日現在の、全ての財産（資産、負債・純資産）の状況を示している。

令和７年度の資産総額は、

固定資産が　１０２億４千７百万円（92.6%）

流動資産が　　８億２千３百万円（7.4%）

合計　　１１０億７千１百万円（100.0%）となっている。

固定資産が資産の 92.6%を占め、このうち県からの出資財産が８０億６千９百万円で資産全体の 72.9%を占めている。

負債総額は、

固定負債が　１億４千８百万円

流動負債が　　３億７千万円

合計　　５億１千８百万円となっている。

純資産の総額は、

資本金（県からの出資金）が　　１０６億１千万円、

資本剰余金が　　△９億５千２百万円、

利益剰余金が　　８億９千５百万円、

合計　　１０５億５千３百万円となっている。

利益剰余金の内訳は、目的積立金７千７百万円、積立金７億９千２百万、当期未処分利益２千６百万円である。

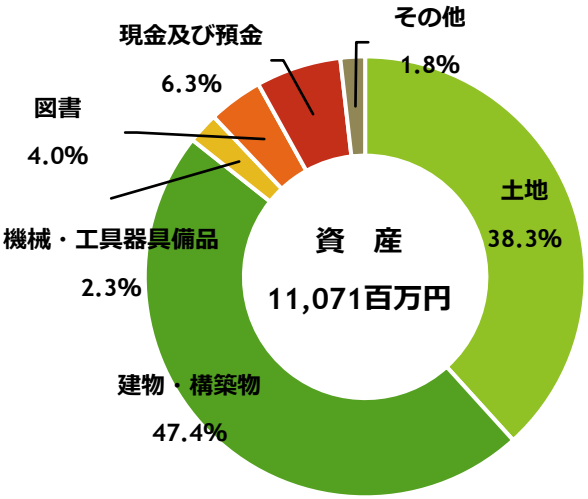
なお、目的積立金は中期計画に定める剰余金の使途に充てることができる。

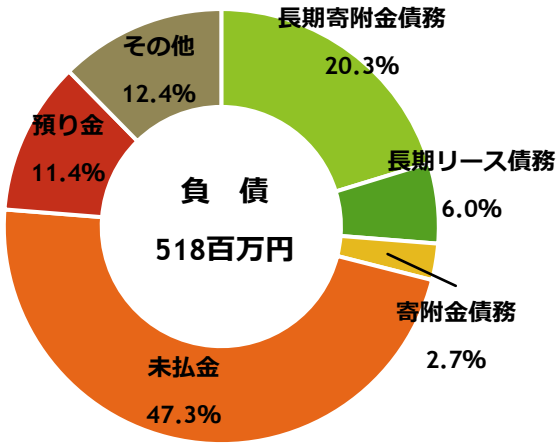
貸借対照表の概要

（単位：百万円）

資産	固定資産	有形固定資産	土地	4,238	負債	固定負債	長期寄附金債務	105
			建物	5,021			長期リース債務	31
			構築物	225			長期繰延補助金等	11
			機械装置	42			小　計	148
			工具器具備品	210		流動負債	寄附金債務	14
			図書	443			未払金	245
			車両運搬具	0			預り金	59
			美術品・収蔵品	25			短期リース債務	22
			小　計	10,204			その他の流動負債	31
		無形固定資産		43			小　計	370
		投資その他の資産		1		合　計③		518
		合　計①		10,247	純資産	資本金		10,610
	流動資産	現金及び預金		692		資本剰余金		▲952
		その他の流動資産		131		利益剰余金		895
		合　計②		823		合　計④		10,553
	資産合計①+②			11,071	負債純資産合計③+④			11,071

※計算後百万円未満四捨五入しているため合計金額が一致しない場合があります。





３　損益計算書

損益計算書は、当期に発生した目的別費用とそれに対応する収益構造を記載した計算書である。

経常費用の総額は２７億６百万円で、内訳は業務費が２６億２百万円で、一般管理費が１億４百万円となっている。

業務費２６億２百万円の内訳は、

教育研究経費	９億３百万円	（対経常費用 33.4%）
教育経費	５億８千５百万円	
研究経費	１億４千８百万円	
教育研究支援経費	１億７千万円	
受託研究等経費	１千４百万円	（対経常費用 0.5%）
受託研究費	１百万円	
受託事業費	１千３百万円	
人件費	１６億８千５百万円	（対経常費用 62.3%）
	※受託研究費・受託事業費に算入した人件費を除く	

経常収益の総額は、	２７億３千２百万円で、内訳は	
運営費交付金収益	１５億円	（対経常収益 54.9%）
授業料等収益	８億８千１百万円	（同 32.2%）
受託研究等収益	１百万円	（同 0.0%）
受託事業等収益	１千３百万円	（同 0.5%）
寄附金収益	３千４百万円	（同 1.2%）
補助金等収益	２億３千４百万円	（同 8.6%）
その他の収益	６千９百万円	（同 2.5%）

経常収益から経常費用を差し引いた経常利益は、２千６百万円となっている。

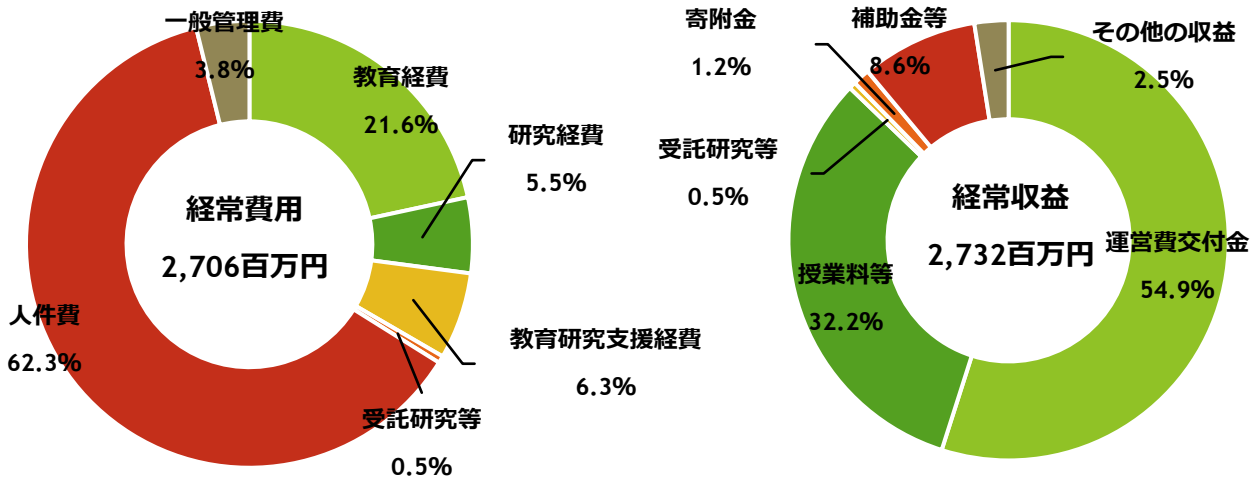
臨時損失および臨時利益は発生しなかったため、当期純利益も２千６百万円である。また、目的積立金の取崩しは発生しなかったため、当期総利益も２千６百万円となっている。

損益計算書の概要

（単位：百万円）

経常費用	業務費	教育経費	585	経常収益	運営費交付金収益	1,500
		研究経費	148		授業料収益	776
		教育研究支援経費	170		入学料収益	83
		受託研究費	1		検定料収益	22
		受託事業費	13		受託研究等収益	1
		教員人件費	1,198		受託事業等収益	13
		職員人件費	487		寄附金収益	34
		合　計	2,602		補助金等収益	234
	一般管理費		104		その他の収益	69
	財務費用		1			
当期総利益			26			
合計			2,732	合計		2,732

※計算後百万円未満四捨五入しているため合計金額が一致しない場合があります。



4　外部資金導入の状況

（1）　科学研究費助成事業交付状況

【科学研究費助成事業交付実績】

研究種目	所属名	課題番号	職名	研究代表者名	研究課題名	補助事業期間		令和7年度の直接経費	令和7年度の間接経費	（参考）研究期間全体の直接経費	（参考）研究期間全の間接経費
基盤研究(B)	看護学部	23K21542	教授	大川宣容	クリティカルケア看護師の緩和ケアコンピテンシー育成プログラムの開発	2021～2025	延長	0	0	1,300,000	390,000
		23K21555	教授	中野綾美	家族との協働型エンドオブライフケア実践能力を高める看護遠隔教育プログラムの開発	2021～2025	延長	0	0	2,400,000	720,000
	文化学部	22K00512	准教授	向井真樹子	再帰複合語の分析	2021～2025	延長	0	0	1,600,000	480,000
		24K07866	教授	三浦要一	日本遺産「四国遍路」の札所寺院の建造物の指定と修理にみる普遍的価値の基礎的研究	2024～2026	継続	500,000	150,000	1,400,000	420,000
		25K03883	准教授	沼田真里	明治期の福祉思想・啓蒙思想における森盲天外と障害当事者表現	2025～2028	新規	200,000	60,000	900,000	270,000
		25K03890	教授	高西成介	中国古典小説における身体表象と身体観をめぐる基礎的研究	2025～2027	新規	1,500,000	450,000	3,600,000	1,080,000
		25K04170	教授	金澤俊吾	英語の構文に見られる変則的表現の意味的、談話的特徴と形成に関する実証的研究	2025～2027	新規	300,000	90,000	1,100,000	330,000
	看護学部	21K10757	教授	青木早苗	遺伝リスクがある乳がん女性のセルフ・トランセンデンスを促進する外来看護指針の開発	2021～2025	延長	0	0	2,700,000	810,000
		23K08311	教授	島本亮	肺移植における熱ショックタンパク質を用いたドナー肺長時間保存法の確立	2023～2025	継続	900,000	270,000	3,700,000	1,110,000
		24K13733	准教授	畠山卓也	精神科高度実践看護師の行う外来看護活動の好事例を活用した看護外来支援モデルの構築	2024～2027	継続	900,000	270,000	3,500,000	1,050,000
		25K13851	教授	青木早苗	遺伝リスクがある乳がん女性のｾﾙﾌ･ﾄﾗﾝｾﾝﾃﾞﾝｽを促進する看護教育プログラムの開発	2025～2028	新規	600,000	180,000	3,100,000	830,000
		21K10550	助教	塩見理香	自閉スペクトラム症者の地域生活を支えるための訪問看護ケアの教育プログラム	2021～2025	延長	0	0	2,700,000	810,000
		21K11009	助教	竹中英利子	慢性腎臓病患者のサインマネジメントを支援する外来看護師教育プログラムの開発	2021～2025	延長	0	0	1,700,000	510,000
		21K11031	教授	田井雅子	認知症の人と家族の家族の伴走を支援する家族看護援助モデルの開発	2021～2025	延長	0	0	3,100,000	930,000
		22K10961	講師	岩崎順子	FamilyConfidenceを高める乳児家族ハイブリット型看護介入モデル開発	2022～2025	延長	0	0	3,100,000	930,000
		22K11122	助教	中井あい	中山間地域の独居高齢者の食環境評価を用いた地域共生包括的食生活支援プログラム開発	2022～2025	延長	0	0	3,100,000	930,000
		22K11267	教授	森下安子	慢性閉塞性肺疾患患者の再入院予防の地域病院多職種協働型入退院支援ガイドライン開発	2022～2025	継続	700,000	210,000	3,200,000	960,000
		23K09702	准教授	立木隆広	オステオサルコペニアは骨粗鬆症単独より骨折リスクを高めるか－無作為標本縦断研究	2023～2025	継続	300,000	90,000	3,600,000	1,080,000
		23K09936	助教	田中雅美	Transitionを基盤としたICU看護師の成長を導く支援プログラムの開発	2023～2026	継続	400,000	120,000	2,700,000	810,000
		23K10011	助教	森本紗磨美	高齢消化器がん患者の機能変化と生活の融合を目指した周術期回復支援プログラムの開発	2023～2026	継続	700,000	210,000	3,000,000	900,000
		23K10063	講師	有田直子	血液・腫瘍疾患の青年のSDMを支援する専門看護師の家族協働型実践プログラムの開発	2023～2026	継続	600,000	180,000	3,700,000	1,110,000
		23K10137	准教授	高谷恭子	成人期に移行する心疾患の子どもと親の軌跡を支援する医療地域連携プログラムの開発	2023～2026	継続	900,000	270,000	3,500,000	1,050,000
		23K10243	准教授	小澤若菜	高齢心不全患者が地域で学び合うための重症化予防学習支援プログラムの開発と検証	2023～2026	継続	800,000	240,000	3,600,000	1,080,000
		24K13757	助教	池内香	双極性障害をもつ人と家族による当事者参加型セルフモニタリングツールの開発	2024～2026	継続	500,000	150,000	3,500,000	1,050,000
		24K13887	助教	徳岡麻由	学校で性教育を実施する助産師のコンピテンシー	2024～2026	継続	200,000	60,000	2,200,000	660,000
		24K13910	教授	池添志乃	発達障害のある子どもと家族への協働型移行支援実践能力を高める教育プログラムの開発	2024～2027	継続	500,000	150,000	3,400,000	1,020,000
		24K13932	准教授	森下幸子	ヤングケアラーとその家族の家族レジリエンスを促進する看護ガイドラインの作成	2024～2026	継続	900,000	270,000	2,900,000	870,000
		24K14202	教授	木下真里	全被災者の安否・健康状態を把握し共有する仕組みCOACHES実証研究	2024～2026	継続	1,000,000	300,000	3,500,000	1,050,000
		25K13996	教授	瓜生浩子	経験知を基盤に高次脳機能障害の理解と対処を促進するコンテンツ配信ページの構築	2025～2028	新規	1,700,000	510,000	3,600,000	1,080,000
		25K14020	講師	岩崎順子	家族形成期にあるカップルのMutual Respectを高める看護介入モデルの開発	2025～2028	新規	1,400,000	420,000	3,300,000	990,000
		25K14045	助教	源田美香	若年性認知症をもつ人とその家族のリカバリーモデルの構築	2025～2027	新規	1,700,000	510,000	2,800,000	840,000
		25K14072	助教	田之頭恵里	生体肝移植を受けた学童期の子どもと家族を中心としたケアガイドラインの開発	2025～2028	新規	1,700,000	510,000	3,400,000	1,020,000
		25K14194	教授	藤田佐和	高齢者施設において実装可能ながんの病の軌跡に基づくACP支援モデルの開発	2025～2028	新規	1,400,000	420,000	3,700,000	1,110,000
		25K14226	准教授	中井寿雄	平時・災害時をシームレスに繋ぐ医療的ケア児と支援者のための情報共有システムの開発	2025～2027	新規	1,000,000	300,000	3,500,000	1,050,000

所属名	課題番号	職名	研究代表者名	研究課題名	補助事業期間		令和7年度の直接経費	令和7年度の間接経費	（参考）研究期間全体の	（参考）研究期間全の間接経費
看護学部	25K14251	准教授	川上理子	訪問看護師による慢性心不全患者のPOCUS技術獲得の支援と有効性の検証	2025～2027	新規	2,500,000	750,000	3,400,000	1,020,000
社会福祉学部	22K02010	准教授	福間隆康	障害のある従業員の組織社会化過程における個人の適応行動に関する研究	2022～2025	継続	100,000	30,000	1,300,000	390,000
	23K01877	准教授	加藤由衣	省察ツールを活用したソーシャルワークにおける省察的実践家の熟達モデルの開発	2023～2025	継続	500,000	150,000	1,600,000	480,000
	23K01911	教授	西内章	身上保護を行う地域連携ネットワークにおけるソーシャルワーク実践モデルの構築	2023～2025	継続	200,000	60,000	900,000	270,000
	23K02164	講師	田中眞希	施設職員の「演じる行為」を涵養する研修プログラムの開発	2023～2026	継続	1,000,000	300,000	3,200,000	960,000
	24K05338	教授	長澤紀美子	トランスジェンダーのトラウマに対するＴＩＣを応用したソーシャルワーク教育の開発	2024～2026	継続	700,000	210,000	3,600,000	1,080,000
	24K05421	助教	玉利麻紀（平井麻紀）	障害当事者と支援者との共同創造がもたらす「新しい共生のあり方」に関する探索的研究	2024～2027	継続	1,100,000	330,000	3,500,000	1,050,000
	24K05447	教授	矢吹知之	共同創造に基づく「認知症カフェ包括的評価指標」の確立	2024～2027	継続	900,000	270,000	3,600,000	1,080,000
	25K05678	准教授	河内康文	記憶障害者の生活の不自由を克服するスマートフォンの実用化	2025～2027	新規	1,600,000	480,000	3,600,000	1,080,000
	健康栄養学部	21K11704	助教	隅田有公子	経腸栄養剤の粘性付加に関する検討	2021～2025	延長	0	0	3,100,000	930,000
		24K05555	教授	近藤美樹	アントシアニン含有「藤野菜」の高付加価値化を目指した研究：色素および機能の解析	2024～2027	継続	1,000,000	300,000	3,500,000	1,050,000
		25K14937	准教授	竹井悠一郎	腸管および血管破骨細胞様細胞のキャラクタライゼーションと臓器障害に関する研究	2025～2028	新規	1,000,000	300,000	3,600,000	1,080,000
	地域教育研究センター	23K10779	准教授	高徳希	動きのぎこちなさの定量化に基づく新たな調整力評価法の開発	2023～2027	継続	100,000	30,000	3,400,000	1,020,000
若手研究	文化学部	23K12422	講師	吐合大祐	地方議員の政策関心は自治体の政策形成に影響を及ぼすのか：部門間関係モデル再考	2023～2025	継続	700,000	210,000	2,900,000	870,000
	看護学部	20K19063	助教	神家ひとみ	ICUにおける人工呼吸器装着患者の集中治療後症候群予防のケアガイドライン開発	2020～2026	延長	0	0	1,600,000	480,000
	社会福祉学部	23K16500	講師	清家庸佑	パーソナルリカバリーを支援する精神科アウトリーチクリニカルラダーの開発	2023～2025	継続	1,300,000	390,000	2,800,000	840,000
	健康栄養学部	21K17300	講師	村井詩子	植物性食品および食塩に着目した健康的な日本食パターンの構築とがん罹患との関連	2021～2025	延長	0	0	3,500,000	1,050,000
		25K21004	助教	杉本拓海	骨格筋由来サイトカインによる他臓器への影響の解明	2025～2028	新規	1,400,000	420,000	3,700,000	1,110,000

※研究種目・学部・課題番号順に掲載（補助金種目の繰越・*基金化、基金種目の研究期間延長・再延長・再々延長課題を含む）。

（2） 奨学寄附金受入状況（過去5年間分）

令和4年度

（単位:円）

	寄附を受けた者			金　額	寄 附 者	研 究 題 目
1	看護学部	助　教	中井　あい	350,000	公益信託 高知新聞・高知放送 「生命（いのち）の基金」	地域共生拠点を活用した独居高齢者の看取りを支える多職種連携
2	社会福祉学部	教　授	田中　きよむ	300,000	公益信託 高知新聞・高知放送 「生命（いのち）の基金」	高齢者の認知機能と運転時注意挙動との関係解析
3	健康栄養学部	助　教	竹本　和仁	200,000	高銀地域経済振興財団	高知県産イタドリ葉の食物アレルギー症状緩和による高付加価値化
4	健康栄養学部	助　教	竹本　和仁	500,000	公益信託 高知新聞・高知放送 「生命（いのち）の基金」	高知県産イタドリ葉の機能性を厳しく管理する成分品質管理法の確立
合計		4件		650,000		

令和5年度

（単位:円）

	寄附を受けた者			金　額	寄 附 者	研 究 題 目
1	看護学部	准教授	小林　秀行	500,000	公益財団法人生協総合研究所	子どもの社会経済的状況が発育不良や不健康リスクに及ぼす影響～健診データと健康行動国際指標との関連の検討
2	健康栄養学部	准教授	鈴木 麻希子	1,000,000	公益信託 高知新聞・高知放送 「生命（いのち）の基金」	加工食品の摂取実態とリン摂取量が腎機能に及ぼす影響
合計		2件		1,000,000		

令和6年度

（単位:円）

	寄附を受けた者			金　額	寄 附 者	研 究 題 目
1	健康栄養学部	助　教	井治　賢希	200,000	高銀地域経済振興財団	高知県産果実の近赤外分析法による品質管理技術の確立
2	人間生活学研究科	博士前期課程	三澤　怜輔	380,000	公益信託 高知新聞・高知放送 「生命（いのち）の基金」	抗アレルギー効果の評価法のグローバル提案と高知県特産野菜類からの探索
合計		2件		580,000		

令和7年度

（単位:円）

	寄附を受けた者			金　額	寄 附 者	研 究 題 目
1	文化学部	教授	大井　方子	2,000,000	公益財団法人電気通信普及財団 「ネット社会課題対応援助」	SNS型投資・ロマンス詐欺の被害過程の解明と被害防止キャンペーンの効果検証
2	文化学部	学部生 講師	学部生 濵田　愛	50,000	公益財団HATA 「HATA!チャレンジ助成プログラム」	すくも家の輪プロジェクト
3	看護学部	教授	立木　隆広	360,000	公益信託 高知新聞・高知放送 「生命（いのち）の基金」	高齢者のフレイルに対する喫煙・飲酒の交互作用の解明
4	看護学部	助教	徳岡　麻由	760,000	公益信託 高知新聞・高知放送 「生命（いのち）の基金」	高知県の性教育の現状とBEPカード活用による実践
5	健康栄養学部	助教	杉本　拓海	300,000	公益社団法人 日本栄養・食糧学会 2025年度「国際交流助成」	骨格筋における転写共活性化因子PGC1αは、大豆イソフラボンの抗肥満作用を仲介する
6	健康栄養学部	助教	杉本　拓海	300,000	公益社団法人 日本栄養・食糧学会 2025年度「国際交流助成」	高脂肪高ショ糖食負荷マウスにおけるアシル化ステロール配糖体の抗肥満効果
7	地域共生学研究機構	准教授	高徳　希	720,000	公益信託 高知新聞・高知放送 「生命（いのち）の基金」	高齢者の歩行機能の「質」に着目した評価テストの開発
8	総合情報研究センター	講師	根本　大志	1,763,000	公益財団法人カインズデジタルイノベーション財団 「2025年度　研究助成」	セマンティックWeb概念を基盤とした3D空間意味検索システムの構築
9	総合情報研究センター	講師	根本　大志	1,460,000	公益財団法人三菱財団	3DGSを活用した「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」のデジタルアーカイブ構築
合計		9件		7,713,000		

（3）受託研究費受入状況（過去5年間分）

令和4年度

（単位：円）

	研究者			金　額	委託者	研　究　題　目	期間
1	看護学部	特　任 教　授	神原　咲子	1,200,000	国立研究開発法人 科学技術振興機構	SAWACHI型健康社会共創拠点に関する研究開発	令和4年4月1日－ 令和5年3月31日
2	社会福祉学部	助　教	玉利　麻紀	1,799,780	文部科学省	大学等生涯教育機会創出モデル構築	令和4年5月27日－ 令和5年3月10日
3	健康栄養学部	教　授	渡邊　浩幸	150,000	国立研究開発法人 科学技術振興機構	食品中機能性成分の相乗効果を高感度に検出する生体中蓄積脂肪燃焼作用評価システムの構築	令和4年10月1日－ 令和6年3月31日
4	健康栄養学部	教　授	渡邊　浩幸	279,000	ウシオ電機株式会社	食品成分研究	令和4年9月1日－ 令和5年12月20日
合計		4件		3,428,780			

令和5年度

（単位：円）

	研究者			金　額	委託者	研　究　題　目	期間
1	社会福祉学部	助　教	玉利　麻紀	1,978,901	文部科学省	大学等生涯教育機会創出モデル構築	令和5年5月17日－ 令和5年3月10日
2	健康栄養学部	教　授	渡邊　浩幸	279,000	ウシオ電機株式会社	食品成分研究	令和5年4月1日－ 令和6年3月31日
3	健康栄養学部	教　授	渡邊　浩幸	150,000	国立研究開発法人 科学技術振興機構	食品中機能性成分の相乗効果を高感度に検出する生体中蓄積脂肪燃焼作用評価システムの構築	令和5年4月1日－ 令和6年3月31日
合計		3件		2,407,901			

令和6年度

（単位：円）

	研究者			金　額	委託者	研　究　題　目	期間
1	文化学部	講　師	濵田　愛	100,000	東京都公立大学法人	日暮里繊維街における地域ストーリーの構築とアクションプログラムの提案・実践	令和6年6月1日－ 令和7年3月31日
2	社会福祉学部	助　教	玉利　麻紀	1,999,014	文部科学省	大学等生涯教育機会創出モデル構築	令和6年5月27日－ 令和7年3月31日
3	健康栄養学部	教　授	渡邊　浩幸	－	高知県農業協同組合	高知県産ニラの栄養機能性成分の評価	令和6年10月1日－ 令和7年3月31日
合計		3件		2,099,014			

令和7年度

（単位：円）

	研究者			金　額	委託者	研　究　題　目	期間
1	文化学部	講　師	濵田　愛	100,000	東京都公立大学法人	地域資源と連携した日暮里繊維街のプロモーションと回遊性向上	令和7年6月1日－ 令和8年3月10日
2	社会福祉学部	助　教	玉利　麻紀	1,194,000	文部科学省	大学等生涯教育機会創出モデル構築	令和7年5月28日－ 令和8年3月31日
3	健康栄養学部	教　授	渡邊　浩幸	－	高知県農業協同組合	高知県産ニラの栄養機能性成分の評価	令和7年4月1日－ 令和7年3月31日
合計		3件		1,294,000			

（4）受託事業費受入状況（過去5年間分）

令和4年度

（単位:円）

	代表教員			金　額	委託者	業務名	期間
1	看護学部	教　授	森下　安子	11,630,000	高知県	退院支援事業	令和4年4月1日－ 令和5年3月31日
2	看護学部	教　授	内田　雅子	4,983,518	高知県	糖尿病保健指導連携体制構築事業	令和4年4月1日－ 令和5年3月31日
3	看護学部	教　授	森下　安子	2,770,000	高知県	令和4年度高知県介護職員喀痰吸引等研修事業	令和4年6月22日－ 令和5年3月31日
合計		3件		19,383,518			

令和5年度

（単位:円）

	代表教員			金　額	委託者	業務名	期間
1	看護学部	教　授	森下　安子	11,473,000	高知県	退院支援事業	令和5年4月1日－ 令和6年3月31日
2	看護学部	教　授	内田　雅子	4,933,687	高知県	糖尿病保健指導連携体制構築事業	令和5年4月1日－ 令和6年3月31日
3	看護学部	教　授	森下　安子	2,770,000	高知県	令和5年度高知県介護職員喀痰吸引等研修事業	令和5年6月30日－ 令和6年3月31日
合計		3件		19,176,687			

令和6年度

（単位:円）

	代表教員			金　額	委託者	業務名	期間
1	看護学部	特　任 教　授	森下　安子	11,473,000	高知県	令和6年度退院支援事業	令和6年4月1日－ 令和7年3月31日
2	看護学部	教　授	内田　雅子	2,051,455	高知県	糖尿病保健指導連携体制構築事業	令和6年4月1日－ 令和7年3月31日
3	看護学部	准教授	川上　理子	2,382,523	高知県	令和6年度高知県介護職員喀痰吸引等研修事業	令和6年6月4日－ 令和7年3月31日
合計		3件		15,906,978			

令和7年度

（単位:円）

	代表教員			金　額	委託者	業務名	期間
1	看護学部	特　任 教　授	森下　安子	10,148,405	高知県	令和7年度退院支援事業	令和7年4月1日－ 令和8年3月31日
2	看護学部	准教授	川上　理子	2,770,000	高知県	令和7年度高知県介護職員喀痰吸引等研修事業	令和7年5月26日－ 令和8年3月31日
合計		2件		12,918,405			

（5）その他受入状況（過去5年間分）

令和4年度

（単位：円）

	研究者			金　額	相手先	事業名	期間
1	看護学部	教　授	藤田　佐和	8,850,000	文部科学省	ウィズコロナ時代の医療人材養成事業	令和4年4月1日－ 令和5年3月31日
2	看護学部	教　授	森下　安子	20,000,000	高知県	令和4年度高知県中山間地域等訪問看護師育成講座	令和4年4月1日－ 令和5年3月31日
3	社会福祉学部	准教授	河内　康文	3,812,000	高知県	高知県キャリア教育推進事業	令和4年5月26日－ 令和5年3月31日
4	健康栄養学部	教　授	渡邊　浩幸	12,000,000	高知県	“IoP（Internet of Plants）”が導く「Next次世代型施設園芸農業」への進化	令和4年4月1日－ 令和5年3月31日
5	地域教育研究センター	教　授	清原　泰治	1,580,000	文部科学省	持続的な産学共同人材育成システム構築事業	令和4年4月1日－ 令和5年3月31日
合計		5件		46,242,000			

令和5年度

（単位：円）

	研究者			金　額	相手先	事業名	期間
1	看護学部	准教授	森下　幸子	20,000,000	高知県	令和5年度高知県中山間地域等訪問看護師育成講座	令和5年4月1日－ 令和6年3月31日
2	社会福祉学部	講　師	田中　眞希	3,812,000	高知県	高知県キャリア教育推進事業	令和5年5月9日－ 令和6年3月31日
3	健康栄養学部	教　授	渡邊　浩幸	4,228,000	高知県	“IoP（Internet of Plants）”が導く「Next次世代型施設園芸農業」への進化	令和5年4月1日－ 令和6年3月31日
4	地域教育研究センター	教　授	清原　泰治	626,000	文部科学省	持続的な産学共同人材育成システム構築事業	令和4年4月1日－ 令和5年3月31日
合計		4件		28,666,000			

令和6年度

（単位：円）

	研究者			金　額	相手先	事業名	期間
1	看護学部	教　授	森下　幸子	20,000,000	高知県	令和6年度高知県中山間地域等訪問看護師育成講座	令和6年4月1日－ 令和7年3月31日
2	社会福祉学部	講　師	辻　真美	4,112,000	高知県	高知県キャリア教育推進事業	令和6年5月17日－ 令和7年3月31日
3	健康栄養学部	教　授	渡邊　浩幸	2,159,000	高知県	“IoP（Internet of Plants）”が導く「Next次世代型施設園芸農業」への進化	令和6年4月1日－ 令和7年3月31日
合計		3件		26,271,000			

令和7年度

（単位：円）

	研究者			金　額	相手先	事業名	期間
1	看護学部	教　授	青木　早苗	4,371,000	文部科学省	次世代のがんプロフェッショナル養成プラン	令和7年4月1日－ 令和8年3月31日
2	看護学部	教　授	森下　幸子	20,000,000	高知県	令和7年度高知県中山間地域等訪問看護師育成講座	令和7年4月1日－ 令和8年3月31日
3	社会福祉学部	准教授	辻　真美	2,611,000	高知県	高知県キャリア教育推進事業	令和7年4月15日－ 令和8年3月31日
4	健康栄養学部	教　授	渡邊　浩幸	2,359,000	高知県	“IoP（Internet of Plants）”が導く「Next次世代型施設園芸農業」への進化	令和7年4月1日－ 令和8年3月31日
合計		4件		29,341,000			

XV　キャンパス

１ 土　地

（単位：㎡）

	区　　分	所　　在　　地	面　　積
1-1	永国寺　北校舎敷地(教育研究棟)	高知市永国寺町91番地	7,406.09
1-2	永国寺　南校舎敷地(地域連携棟)	高知市永国寺町6番地28	3,116.30
1-3	永国寺　図書館，体育館，学生会館	高知市永国寺町5番地15	11,313.47
1-4	池　校舎敷地	高知市池2751番地1	31,586.00
1-5	池　運動場敷地	高知市池2532番地1	6,943.00
1-6	池　多目的広場	高知市池2469番地1　ほか	13,628.75
1-7	学生寮(あふち寮)敷地	高知市東石立町48番地11	1,523.98
1-8	学生寮(さくら寮)敷地	高知市池2532番地1	2,677.00
1-9	その他(法面)	高知市池2155番地1　ほか	8,917.55
	計		87,112.14

２ 建　物

（単位：㎡）

	区　　分	所　　在　　地	面　　積
2-1	永国寺　北校舎(教育研究棟)	高知市永国寺町2番22号	14,821.40
2-2	永国寺　南校舎(地域連携棟)	高知市永国寺町6番地28	3,136.00
2-3	永国寺　図書館，体育館，学生会館	高知市永国寺町5番地15	5,700.60
2-4	池　校舎	高知市池2751番地1	28,671.67
2-5	学生寮(あふち寮)	高知市東石立町48番地11	2,330.87
2-6	学生寮(さくら寮)	高知市池2532番地1	1,245.50
	計		55,906.04